

下桑島西原南遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

しもくわじまにしはらみなみ
下桑島西原南遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

序

下桑島西原南遺跡は、宇都宮環状線を挟んで、下桑島町・西刑部町に広がる遺跡です。周辺には、下桑島西原遺跡、猿山遺跡、大関台遺跡、西刑部西原遺跡など、多数の集落跡が所在するほか、南原古墳や桑島台西古墳などの古墳群、「古代の幹線道路」である推定東山道遺跡など、古墳時代から平安時代にかけての遺跡が密集するエリアになります。

本遺跡内では、平成8年に実施された砂田東遺跡・上横田A遺跡の発掘調査において、古墳時代の竪穴建物跡が確認されており、同時代の集落跡が存在していることが判明していました。

今回、物流倉庫の建設に伴い影響を受けることとなった本遺跡の取り扱いにつきまして、事業主をはじめ関係機関との協議のうえ、記録保存のため発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳・奈良・平安時代の建物跡が15棟確認され、古代の集落跡の一部を記録保存することができました。

本報告書は、発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方がさまざまな方面におきまして広く活用していただけますことを期待するものであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係者各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和5年3月15日

宇都宮市教育委員会
教育長 小堀 茂雄

例 言

- 1 本書は、株式会社スワロー輸送（代表取締役 中島 和美）による物流倉庫建設に伴う、宇都宮市下桑島町字西原 1199 番 2 ほかの所在する下桑島西原南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宇都宮市教育委員会による確認調査に基づいて、事業予定地の内 8,050㎡を対象とした。
- 3 発掘調査及び整理作業は、株式会社スワロー輸送から委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。
- 4 調査期間は、令和 4 年 3 月 1 日から同年 6 月 14 日までである。
- 5 調査にあたり、事業者 株式会社スワロー輸送、宇都宮市教育委員会、関東文化財振興会株式会社三者で覚書を交わした。
- 6 調査組織は、以下のとおりである。

調査指導・宇都宮市教育委員会

小堀 茂雄 教育長
山口 達夫 文化課長
今平 利幸 文化課主幹
近藤 真 文化課文化財保護グループ係長
土田 創太 文化課文化財保護グループ指導主事

調査主体者 関東文化財振興会株式会社

宮田 和男 代表取締役
調査担当者 平石 尚和 狩谷 崇文

- 7 本報告書の編集は、宇都宮市教育委員会文化課の下、平石尚和が担当し、川井正一・狩谷崇文（関東文化財振興会株式会社）の協力を得て行った。執筆は、第 1 章第 1 節調査に至る経緯を土田創太、第 2 章を川井正一、写真関係が狩谷崇文、その他を平石尚和が行った。
- 8 報告書作成にあたり、縄文土器は齋藤弘道氏、須恵器は梁木誠氏にご指導いただいた。下記の諸機関、諸氏からご教授・ご援助を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。

（敬省略・順不同）

栃木県教育委員会文化財課 栃木県埋蔵文化財センター、カワヒロ産業、古川測量、株式会社美名海総建、茨城県埋蔵文化財センター、水野順敏、大賀庸平

- 9 発掘調査、整理・報告書作成参加者は以下のとおりである。

安藤 登 池沢けい子 伊東美華 伊藤義男 内野英明 梅原美代子 遠藤香織
大越慶子 大根田二三夫 岡部茂雄 川又恵美子 郡司ゆき子 児玉祐美子 佐藤圭子
佐藤常幸 鈴木 淳 高橋麻佐美 高山文雄 玉村光晴 土井悦子 百目鬼誠司
床井 反 仲山仁一 二戸捷之 野沢雄治 平井百合子 平石寿一 平田 昇
廣澤多彦 福岡啓利 福田 章 宝地戸一休 益子光江 柳 秀晴 山内愛子
横山政雄 米山良平 荒井夕紀 田口睦子 西川忠春

- 10 本調査における出土遺物及び実測図・写真等は宇都宮市教育委員会が保管している。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に順拠し、 $X = + 55,770 \text{ m}$ 、 $Y = + 7,300 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北を $10\text{m} \times 10\text{m}$ 調査区を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いて、北から南へ A・B・C・・・、西から東へ 1・2・3・・・とし、「A 1 グリッド」「B 2 グリッド」のように呼称した。

2 実測図・遺物観察表で使用する記号は、次のとおりである。

SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑
K - 攪乱 PG - ピット群

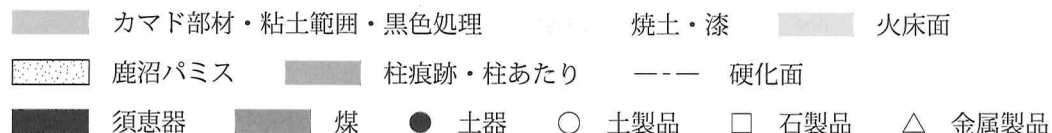







3 土層と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社) を使用した。また、土層解説の中で述べた粒状の規模は、「粒子」は 1 mm 以下、「ブロック」は $1 \sim 10 \text{ mm}$ 以上のものを表し、含有物の量は、微量 (1~2%)、少量 (2~5%)、中量 (5~10%)、多量 (10% 以上) で表した。

4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は 60 分の 1 の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測中の表示は、次のとおりである。

カマド部材・粘土範囲・黒色処理  焼土・漆  火床面
 鹿沼パミス  柱痕跡・柱あたり  硬化面
 須恵器  煤 ● 土器 ○ 土製品 □ 石製品 △ 金属製品

5 遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、 $\text{m} \cdot \text{cm} \cdot \text{g}$ である。なお、現存値は () で、推定値は [] を付けて示した。

(2) 備考の欄は、残存率やその他必要と思われる事項を記した。

6 「主軸」は、竪穴建物跡については、カマドを通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方位」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 $N - 10^\circ - E$)。

本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経過と調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 陥し穴	13
(2) 土坑	15
(3) 遺構外出土遺物	23
2 古墳時代の遺構と遺物	24
(1) 堅穴建物跡	24
(2) 土坑	36
(3) 溝跡	37
3 奈良・平安の遺構と遺物	38
(1) 堅穴建物跡	38
(2) 掘立柱建物跡	93
(3) 井戸跡	98
(4) 土坑	102
(5) 奈良・平安時代遺構外出土遺物	102
4 中世の遺構と遺物	103
(1) 掘立柱建物跡	103
5 時期不明の遺構と遺跡	108
(1) 掘立柱建物跡	108
(2) 柱穴列	116
(3) 溝跡	129
(4) 土坑	133
(5) ピット群	140
第4節 まとめ	147
写真図版	
抄録	

挿図目次

- | | | | |
|------|--------------------------|------|----------------------|
| 第1図 | 下桑原西原南遺跡調査区位置図(1/10,000) | 第49図 | 第9号堅穴建物跡実測図 |
| 第2図 | 下桑島西原南遺跡周辺遺跡分布図 | 第50図 | 第9号堅穴建物跡カマド実測図 |
| 第3図 | 基本土層図 | 第51図 | 第9号堅穴建物跡掘方実測図 |
| 第4図 | グリッド設定図(1/1,000) | 第52図 | 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図(1) |
| 第5図 | 全体図(1/400) | 第53図 | 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図(2) |
| 第6図 | 第234号土坑実測図 | 第54図 | 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図(3) |
| 第7図 | 第244号土坑実測図 | 第55図 | 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図(4) |
| 第8図 | 第334号土坑実測図 | 第56図 | 第9号堅穴建物跡出土遺物実測図(5) |
| 第9図 | 縄文時代その他の土坑実測図(1) | 第57図 | 第10号堅穴建物跡実測図 |
| 第10図 | 縄文時代その他の土坑実測図(2) | 第58図 | 第10号堅穴建物跡出土遺物実測図 |
| 第11図 | 縄文時代その他の土坑実測図(3) | 第59図 | 第11A号堅穴建物跡実測図(1) |
| 第12図 | 縄文時代遺構外出土遺物実測図 | 第60図 | 第11A号堅穴建物跡実測図(2) |
| 第13図 | 第13A号堅穴建物跡実測図 | 第61図 | 第11A号堅穴建物跡カマド実測図 |
| 第14図 | 第13A号堅穴建物跡カマド実測図 | 第62図 | 第11A号堅穴建物跡出土遺物実測図(1) |
| 第15図 | 第13A号堅穴建物跡出土遺物実測図(1) | 第63図 | 第11A号堅穴建物跡出土遺物実測図(2) |
| 第16図 | 第13A号堅穴建物跡出土遺物実測図(2) | 第64図 | 第11A号堅穴建物跡出土遺物実測図(3) |
| 第17図 | 第13B号堅穴建物跡実測図 | 第65図 | 第11B・C号堅穴建物跡実測図(1) |
| 第18図 | 第13A・B号堅穴建物跡掘方実測図 | 第66図 | 第11B・C号堅穴建物跡実測図(2) |
| 第19図 | 第14号堅穴建物跡実測図 | 第67図 | 第11B・C号堅穴建物跡実測図(3) |
| 第20図 | 第14号堅穴建物跡炭化材・焼土範囲実測図 | 第68図 | 第11A～C号堅穴建物跡掘方実測図(1) |
| 第21図 | 第14号堅穴建物跡カマド・出土遺物実測図 | 第69図 | 第11A～C号堅穴建物跡掘方実測図(2) |
| 第22図 | 第130号土坑・出土遺物実測図 | 第70図 | 第11C号堅穴建物跡出土遺物実測図 |
| 第23図 | 第3号溝跡・出土遺物実測図 | 第71図 | 第12号堅穴建物跡実測図 |
| 第24図 | 第1号堅穴建物跡実測図 | 第72図 | 第12号堅穴建物跡カマド実測図 |
| 第25図 | 第1号堅穴建物跡カマド実測図 | 第73図 | 第12号堅穴建物跡掘方・出土遺物実測図 |
| 第26図 | 第1号堅穴建物跡掘方実測図 | 第74図 | 第15号堅穴建物跡・出土遺物実測図 |
| 第27図 | 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図 | 第75図 | 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 |
| 第28図 | 第2号堅穴建物跡実測図 | 第76図 | 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 |
| 第29図 | 第2号堅穴建物跡カマド実測図 | 第77図 | 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 |
| 第30図 | 第2号堅穴建物跡掘方実測図 | 第78図 | 第1号井戸跡実測図 |
| 第31図 | 第2号堅穴建物跡出土遺物実測図(1) | 第79図 | 第1号井戸跡出土遺物実測図 |
| 第32図 | 第2号堅穴建物跡出土遺物実測図(2) | 第80図 | 第2号井戸跡実測図 |
| 第33図 | 第3号堅穴建物跡・出土遺物実測図 | 第81図 | 第2号井戸跡出土遺物実測図 |
| 第34図 | 第3号堅穴建物跡掘方実測図 | 第82図 | 第320号土坑・出土遺物実測図 |
| 第35図 | 第4号堅穴建物跡実測図 | 第83図 | 奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図 |
| 第36図 | 第4号堅穴建物跡掘方・出土遺物実測図 | 第84図 | 第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図 |
| 第37図 | 第5号堅穴建物跡・出土遺物実測図 | 第85図 | 第4号掘立柱建物跡実測図 |
| 第38図 | 第6号堅穴建物跡実測図 | 第86図 | 第5号掘立柱建物跡実測図 |
| 第39図 | 第6号堅穴建物跡カマド実測図 | 第87図 | 第6号掘立柱建物跡実測図 |
| 第40図 | 第6号堅穴建物跡掘方実測図 | 第88図 | 第7号掘立柱建物跡実測図 |
| 第41図 | 第6号堅穴建物跡出土遺物実測図(1) | 第89図 | 第7号掘立柱建物跡出土遺物実測図 |
| 第42図 | 第6号堅穴建物跡出土遺物実測図(2) | 第90図 | 第1号掘立柱建物跡実測図 |
| 第43図 | 第7号堅穴建物跡実測図 | 第91図 | 第8号掘立柱建物跡実測図 |
| 第44図 | 第7号堅穴建物跡掘方実測図 | 第92図 | 第11号掘立柱建物跡実測図 |
| 第45図 | 第7号堅穴建物跡出土遺物実測図 | 第93図 | 第12号掘立柱建物跡実測図 |
| 第46図 | 第8号堅穴建物跡実測図 | 第94図 | 第13号掘立柱建物跡実測図 |
| 第47図 | 第8号堅穴建物跡カマド・掘方実測図 | 第95図 | 第14号掘立柱建物跡実測図 |
| 第48図 | 第8号堅穴建物跡出土遺物実測図 | 第96図 | 第15号掘立柱建物跡実測図 |

第 97 図 第 1 号柱穴列実測図
第 98 図 第 2 号柱穴列実測図
第 99 図 第 3 号柱穴列実測図
第 100 図 第 4 号柱穴列実測図
第 101 図 第 5 号柱穴列実測図
第 102 図 第 6 号柱穴列実測図
第 103 図 第 7 号柱穴列実測図
第 104 図 第 8 号柱穴列実測図
第 105 図 第 16 号柱穴列実測図
第 106 図 第 17 号柱穴列実測図
第 107 図 第 25 号柱穴列実測図
第 108 図 第 26 号柱穴列実測図
第 109 図 第 27 号柱穴列実測図
第 110 図 第 28 号柱穴列実測図
第 111 図 第 32 号柱穴列実測図
第 112 図 第 35 号柱穴列実測図
第 113 図 第 36 号柱穴列実測図
第 114 図 第 39 号柱穴列実測図
第 115 図 第 43 号柱穴列実測図

第 116 図 第 44 号柱穴列実測図
第 117 図 第 1 号溝跡・出土遺物実測図
第 118 図 第 2 号溝跡実測図
第 119 図 第 4 号溝跡実測図
第 120 図 第 5 号溝跡実測図
第 121 図 第 6 号溝跡実測図
第 122 図 時期不明その他の土坑・出土遺物実測図
第 123 図 時期不明その他の土坑実測図
第 124 図 第 1 号ピット群実測図
第 125 図 第 2 号ピット群実測図
第 126 図 第 3 号ピット群実測図
第 127 図 第 4 号ピット群実測図
第 128 図 第 6 号ピット群実測図
第 129 図 第 5 号ピット群実測図
第 130 図 第 7 号ピット群実測図
第 131 図 第 8 号ピット群実測図
第 132 図 第 10 号ピット群実測図
第 133 図 第 9 号ピット群実測図
第 134 図 時期別遺構配置図

挿表目次

第 1 表 調査工程表
第 2 表 下桑島西原南遺跡周辺遺跡一覧
第 3 表 縄文時代隔し穴一覧
第 4 表 縄文時代その他の土坑一覧
第 5 表 縄文時代遺構外出土遺物観察表
第 6 表 第 13A 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 7 表 第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 8 表 古墳時代竪穴建物跡一覧
第 9 表 第 130 号土坑出土遺物観察表
第 10 表 第 3 号溝跡出土遺物観察表
第 11 表 第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 12 表 第 2 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 13 表 第 3 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 14 表 第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 15 表 第 5 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 16 表 第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 17 表 第 7 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 18 表 第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 19 表 第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 20 表 第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 21 表 第 11A 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 22 表 第 11C 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 23 表 第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 24 表 第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 25 表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧
第 26 表 第 3 号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第 27 表 第 9 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

第 28 表 第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第 29 表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧
第 30 表 第 1 号井戸跡出土遺物観察表
第 31 表 第 2 号井戸跡出土遺物観察表
第 32 表 井戸跡一覧
第 33 表 第 320 号土坑出土遺物観察表
第 34 表 奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表
第 35 表 第 7 号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第 36 表 第 4 号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第 37 表 中世掘立柱建物跡一覧
第 38 表 時期不明の掘立柱建物跡一覧
第 39 表 時期不明の柱穴列一覧
第 40 表 第 1 号溝跡出土遺物観察表
第 41 表 時期不明の溝跡一覧
第 42 表 第 51 号土坑出土遺物観察表
第 43 表 時期不明のその他の土坑一覧
第 44 表 第 1 号ピット群計測表
第 45 表 第 2 号ピット群計測表
第 46 表 第 3 号ピット群計測表
第 47 表 第 4 号ピット群計測表
第 48 表 第 6 号ピット群計測表
第 49 表 第 5 号ピット群計測表
第 50 表 第 7 号ピット群計測表
第 51 表 第 8 号ピット群計測表
第 52 表 第 10 号ピット群計測表
第 53 表 第 9 号ピット群計測表

写真目次

- 図版 1 1. 調査区遠景(南東から) 2. 調査区全景(鉛直)
- 図版 2 1. 第 234 号土坑(陥し穴)完掘 2. 第 244 号土坑(陥し穴)完掘 3. 第 334 号土坑(陥し穴)完掘 4. 第 298 号土坑完掘 5. 第 299 号土坑完掘 6. 第 337 号土坑完掘 7. 第 53 号土坑完掘 8. 第 54 号土坑完掘 9. 第 89 号土坑完掘 10. 第 97 号土坑完掘 11. 第 110 号土坑完掘 12. 第 112 号土坑完掘 13. 第 201 号土坑完掘
- 図版 3 1. 第 13A 号堅穴建物跡完掘 2. 第 13A 号堅穴建物跡遺物出土状況 3. 第 13A 号堅穴建物跡カマド遺物出土状況 4. 第 13A・B 号堅穴建物跡掘方完掘 5. 第 14 号堅穴建物跡完掘 6. 第 14 号堅穴建物跡遺物出土状況 7. 第 14 号堅穴建物跡炭化材・焼土確認状況 8. 第 14 号堅穴建物跡遺物出土状況
- 図版 4 1. 第 3 号溝跡完掘 2. 第 3 号溝跡遺物出土状況 3. 第 130 号土坑堆積状況 4. 第 130 号土坑遺物出土状況 5. 第 1 号堅穴建物跡完掘 6. 第 1 号堅穴建物跡遺物出土状況 7. 第 2 号堅穴建物跡完掘 8. 第 2 号堅穴建物跡遺物出土状況
- 図版 5 1. 第 2 号堅穴建物跡カマド断割り遺物出土状況 2. 第 3 号堅穴建物跡遺物出土状況 3. 第 4 号堅穴建物跡カマド遺物出土状況 4. 第 5 号堅穴建物跡完掘 5. 第 6 号堅穴建物跡完掘 6. 第 6 号堅穴建物跡カマド補強材出土状況 7. 第 6 号堅穴建物跡遺物出土状況 8. 第 7 号堅穴建物跡完掘
- 図版 6 1. 第 7 号堅穴建物跡遺物出土状況 2. 第 7 号堅穴建物跡カマド遺物出土状況 3. 第 8 号堅穴建物跡完掘 4. 第 8 号堅穴建物跡遺物出土状況 5. 第 9 号堅穴建物跡完掘 6. 第 9 号堅穴建物跡遺物出土状況 7. 第 9 号堅穴建物跡カマド遺物出土状況 8. 第 9 号堅穴建物跡遺物出土状況
- 図版 7 1. 第 10 号堅穴建物跡完掘 2. 第 11A 号堅穴建物跡完掘 3. 第 11A 号堅穴建物跡遺物出土状況 4. 第 11B・C 号堅穴建物跡完掘 5. 第 11B・C 号堅穴建物跡カマド堆積状況 6. 第 12 号堅穴建物跡堆積状況 7. 第 12 号堅穴建物跡掘方完掘 8. 第 12 号堅穴建物跡カマド遺物出土状況
- 図版 8 1. 第 15 号堅穴建物跡堆積状況 2. 第 15 号堅穴建物跡遺物出土状況 3. 第 3 号掘立柱建物跡完掘 4. 第 9 号掘立柱建物跡完掘 5. 第 9・10 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 320 号土坑完掘 7. 第 1 号井戸跡完掘 8. 第 1 号井戸跡堆積状況
- 図版 9 1. 第 1 号井戸跡断割り状況 2. 第 2 号井戸跡完掘 3. 第 2 号井戸跡堆積状況 4. 第 2 号井戸跡断割り状況 5. 第 4 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 5 号掘立柱建物跡完掘 7. 第 6 号掘立柱建物跡完掘 8. 第 7 号掘立柱建物跡完掘
- 図版 10 1. 第 1 号掘立柱建物跡完掘 2. 第 11 号掘立柱建物跡完掘 3. 第 13 号掘立柱建物跡完掘 4. 第 14 号掘立柱建物跡完掘 5. 第 15 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 1 号柱穴列第 2 号ピット堆積状況 7. 第 43 号柱穴列完掘
- 図版 11 1. 第 1 号溝跡完掘 2. 第 2 号溝跡完掘 3. 第 1 号溝跡遺物出土状況 4. 第 4 号溝跡完掘 5. 第 5 号溝跡完掘 6. 第 6 号溝跡完掘 7. 第 15 号土坑完掘
- 図版 12 縄文遺構外、第 13A 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 13 第 13A 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 14 第 14 号堅穴建物跡、第 130 号土坑、第 3 号溝跡、第 1 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 15 第 1・2 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 16 第 2～4 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 17 第 4～6 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 18 第 6・7 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 19 第 7・8 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 20 第 8・9 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 21 第 9 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 22 第 9・10 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 23 第 10・11A 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 24 第 11A 号堅穴建物跡出土遺物
- 図版 25 第 11A・11C・12・15 号堅穴建物跡、第 3・9・10 号掘立柱建物跡出土遺物
- 図版 26 第 10 号掘立柱建物跡、第 1・2 号井戸跡、第 320 号土坑、奈良・平安時代遺構外、第 4・7 号掘立柱建物跡、第 51 号土坑、第 1 号溝跡出土遺物

第1章 調査に至る経過と調査経過

第1節 調査に至る経緯

令和3年9月3日付で、株式会社スワロー輸送 代表取締役 中島 和美氏より、下桑島町字西原 1199番2、同 1199番3、同 1199番4、同 1199番5、同 1199番6、同 1199番31、同 1199番33、同 1199番37、同 1199番109、同 1199番110、同 1199番111、同 1199番112、同 1199番113、同 1199番114、西刑部町字西原 2712番28、同 2723番9の下桑島西原南遺跡（県番号4345）内で、物流倉庫（倉庫業を営む倉庫）の新設工事に伴い、文化財保護法93条の届出が提出された。9月6日付で市教育委員会文化課から県教育委員会文化財課（以下県文化財課）へ進達し、これに対し、県文化財課より確認調査の必要があるとの指示が9月16日付であったため、事業代理人の株式会社田原事務所 安藤 寛氏と協議し、確認調査を実施することにした。

確認調査は、11月8日（月）から11月19日（金）に実施した。調査の方法は、開発区域の掘削が及ぶ範囲に、幅2mの試掘溝を20本設定し（T-1～T-20）、深さ35～85cmの表土部分を重機により掘り下げ、遺構の確認を行った。その結果、T-5から竪穴建物跡2棟、土坑1基、T-6から竪穴建物跡1棟、ピット2基、T-7からは竪穴建物跡1棟、ピット1基、T-8からは竪穴建物跡1棟、ピット5基、T-9からは竪穴建物跡2棟、ピット3基、T-16からは竪穴建物跡1棟、溝状遺構1基、ピット1基、T-17からは竪穴建物跡1棟、溝跡1条、T-18からは竪穴竪穴跡2棟、ピット6基が確認された。

この調査結果を受けて、代理人である株式会社田原事務所と対応を協議した結果、遺構の確認された約8,050㎡分を本調査することとなった。

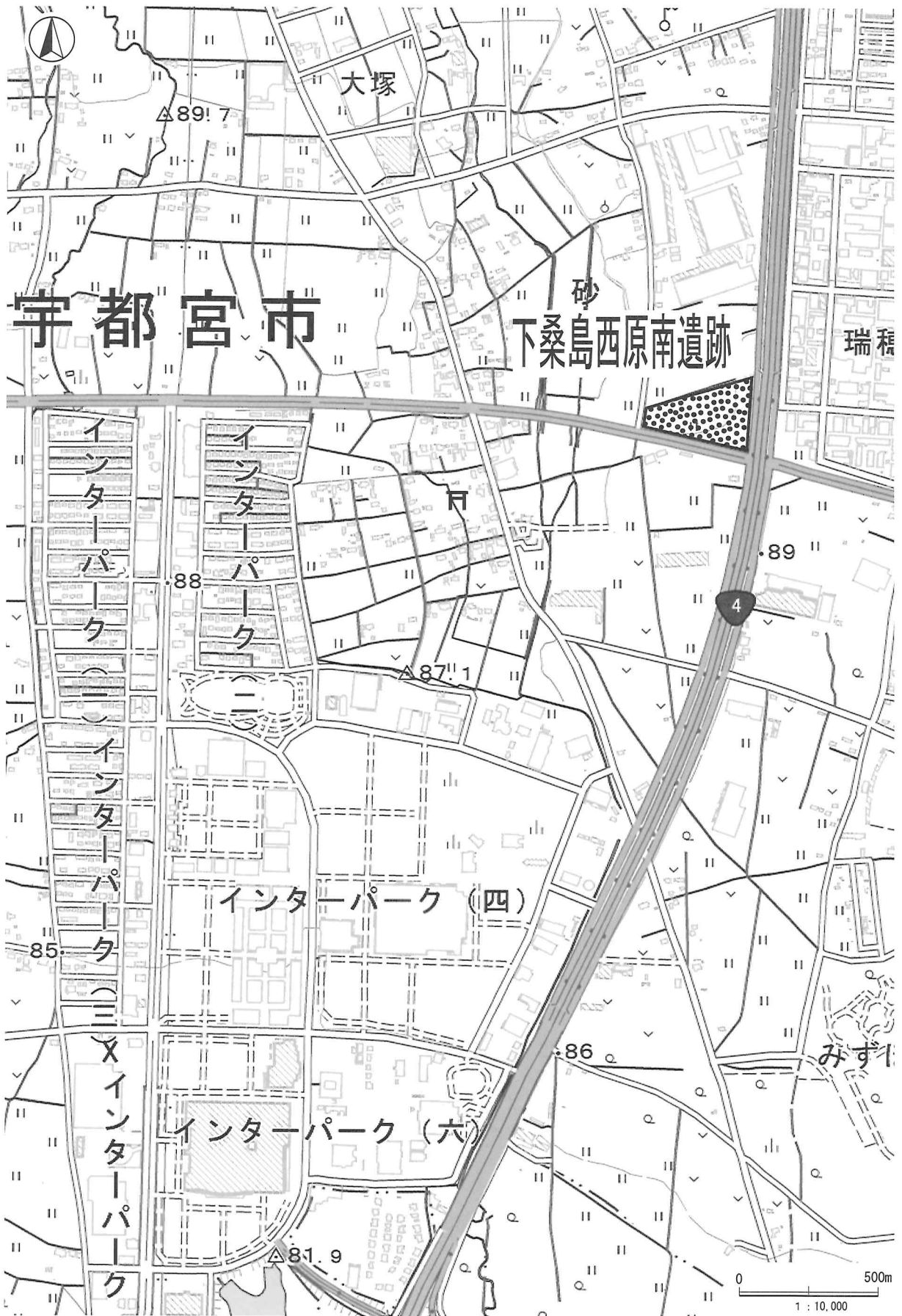
その後、調査の担当が関東文化財振興会株式会社と決まり、令和4年2月2日付で事業者である株式会社スワロー輸送と宇都宮市教育委員会小堀茂雄との間で、調査についての覚書を交わした。

第2節 調査経過

下桑島西原南遺跡の調査は、令和4年3月1日から6月14日までの約4か月間にわたって実施した。以下の概要を表で記載する。

第1表 調査工程表

工程	期間	3月	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認					
遺構調査					
遺物洗浄 注 記					
補足調査 撤 収					



第1図 下桑原西原南遺跡調査区位置図

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

下桑島西原南遺跡は、栃木県宇都宮市下桑島町 1199 番地の 2 ほかの所に所在している。

当遺跡の所在する宇都宮市は栃木県のほぼ中央部に位置し、北西方に聳える日光連山から次第に高さを低めつつ伸びてくる前山連峰を北に背負い、東に鬼怒川が南流し、南に関東平野の沃野が開けている北岳南平の如容の地である。地勢的には、台地とそれを開析する河川によって形成された沖積低地からなる中央部平地と呼ばれる、鬼怒川低地、岡本・磯岡台地、田原・願成寺台地、田川低地、神主台地、宇都宮・祇園原台地からなっている。当遺跡は、東側を鬼怒川が南流し、西側は田原・願成寺台地に接し、その西側を田川が南流する全長約 35km、東西幅 1.5 ～ 2.5km、標高 54 ～ 162 m の岡本・磯岡台地上に所在している。岡本・磯岡台地の地質は、宝木段丘礫層の上部に宝木ロームと田原ロームが堆積している。宝木ロームは、上部ローム層と下部ローム層、その間の鹿沼軽石層からなっている。田原ロームは、下部の普通のローム層、その上部の今市軽石層、七本桜軽石層からなっている。

当遺跡は、宇都宮市街地の南南東約 7 km、岡本・磯岡台地の東端に立地している。遺跡が所在する周辺は、南側が河内郡上三川町、南東側が真岡市、南西側が下野市及び下都賀郡壬生町と接している。当遺跡が立地する付近の岡本・磯岡台地は、南に向かって緩やかに傾斜しており、東側に江川、西側には台地を開析する幅狭の九十九瀬川が南流し、東西幅 2.5km、標高 89 m ほどである。低地との比高は 3 m ほどである。当遺跡の南側に存在する上横田 A 遺跡とは同一遺跡とみられ、遺跡の範囲は東西 250 m、南北 250 m で、調査前の現況は畑地であった。

第2節 歴史的環境

宇都宮市域には旧石器時代以降の遺跡が多数確認されているが、下桑島西原南遺跡は宇都宮市の南端部に位置し、南側は上三川町と接していることから、当遺跡を中心として概ね 5 km 四方における遺跡の在り方について記していく。

旧石器時代の遺跡としては、江川右岸では瑞穂野団地遺跡〈17〉から流紋岩製の縦長剥片が 1 片出土している。その他、西赤堀遺跡から尖頭器・スクレーパーなどを含む石器群のブロックが 6 か所確認され、田川左岸では、立野遺跡〈44〉で円形搔器・剥片、杉村遺跡〈46〉で水晶製尖頭器が確認されている。その他、田川左岸では砂田遺跡〈42〉、西刑部西原遺跡〈36〉、中島笹塚遺跡〈40〉、磯岡北遺跡〈39〉、権現山遺跡〈48〉、磯岡遺跡〈49〉が願成寺台地の縁辺部に点在している。

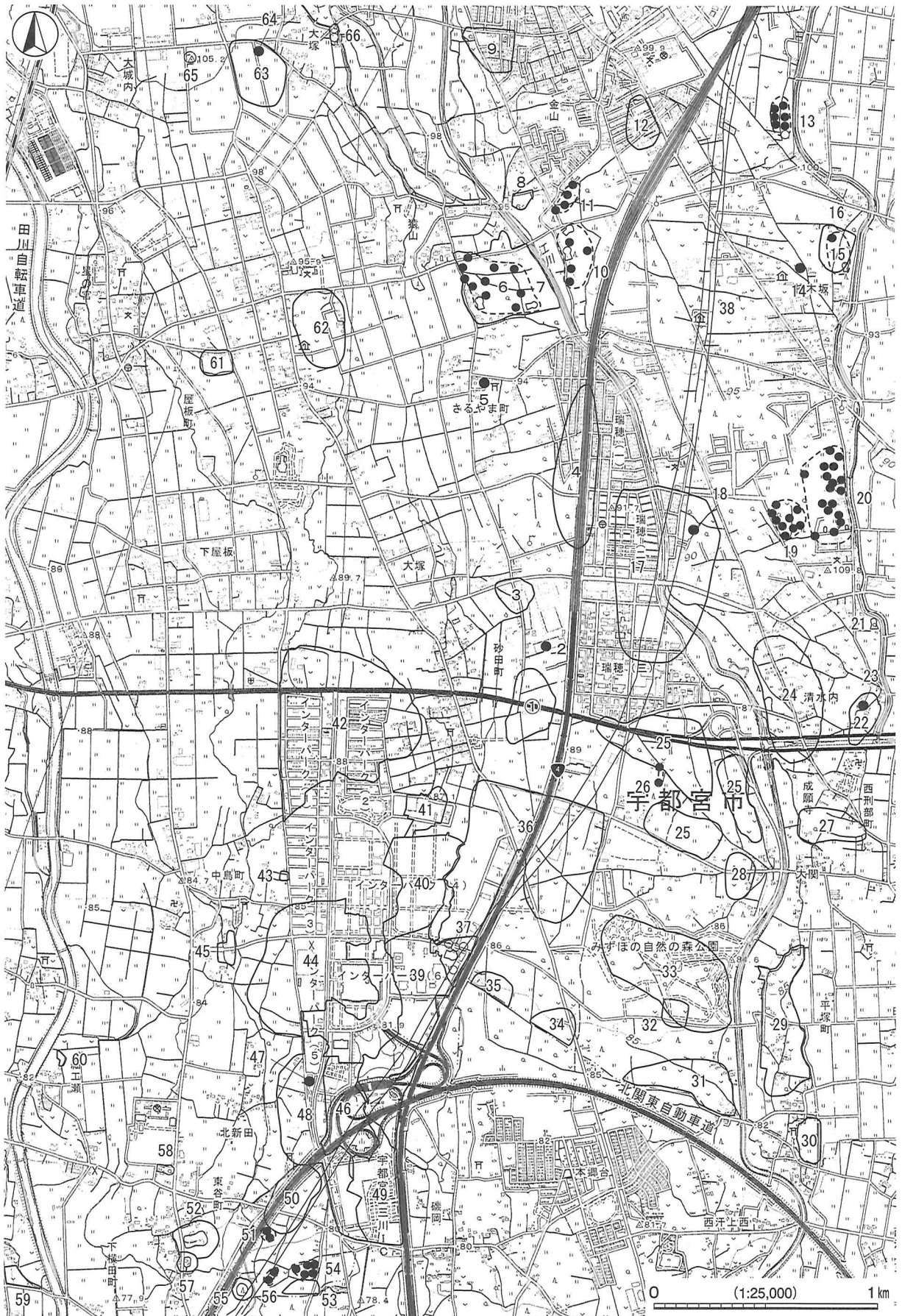
縄文時代の遺跡は、各時期のものが台地上から確認されている。

草創期から早期にかけての遺跡は、陥し穴状土坑や土坑が確認された砂田遺跡、西刑部西原遺跡、中島笹塚遺跡、立野遺跡、磯岡北遺跡のほか、有舌尖頭器や土器が出土している砂田姥沼遺跡〈41〉、磯岡遺跡がある。

早期の遺跡は、稲荷原式期の建物跡又は土坑が確認された砂田姥沼遺跡、撚糸文系土器を出土した陥し穴状土坑が確認された立野遺跡、田戸下層式期の土坑が確認された中島笹塚遺跡のほか、瑞穂野団地遺跡、西刑部西原遺跡、砂田遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡、磯岡遺跡などが確認されている。

前期の遺跡は、砂田遺跡、砂田姥沼遺跡、西刑部西原遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡、磯岡遺跡が確認されている。

中期の遺跡は、磯岡遺跡・磯岡北遺跡で阿玉台式期の竪穴建物跡、中島笹塚遺跡で加曾利 E 式期の竪穴建



第2図 下桑原西原南遺跡周辺遺跡分布図

物跡が確認されているほか、砂田姥沼遺跡、立野遺跡、権現山遺跡が確認されている。

後期の遺跡は、立野遺跡、磯岡北遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡で称名寺式・堀之内式・加曾利B式土器が出土している。

晩期の遺跡は、立野遺跡、磯岡北遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡で大洞系土器や安行式土器が出土しているくらいで、後期以降に自然環境等の変化によって生活に大きな変化が生じた可能性がある。

弥生時代になると、中期では磯岡北遺跡で竪穴建物跡と土坑、磯岡遺跡、立野遺跡、仏沼遺跡で土坑が確認されているほか、権現山遺跡で前期後葉から中期後葉にかけての土器が出土しているが、全体的に遺構・遺物は希薄である。後期では、瑞穂野団地遺跡では竪穴建物跡2棟が調査されている。砂田姥沼遺跡、磯岡北遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡、中島笹塚遺跡、百目鬼遺跡、東谷北浦遺跡で弥生の土器片が確認されているが、田川西岸に比して少ない。

古墳時代の遺跡は、弥生時代より増加する。前期の集落跡は、江川右岸の磯岡台地上では瑞穂野団地遺跡、西刑部古屋原遺跡〈33〉で、田川東岸の願成寺台地上では砂田姥沼遺跡、西刑部西原遺跡、立野遺跡、杉村遺跡で確認されている。前期から中期初頭の古墳は、江川右岸で西刑部古屋原古墳群〈33〉、田川左岸では中島笹塚古墳群〈40〉で確認されているほか、権現山遺跡B区で概期の土坑墓が確認されている。

中期の集落跡は、江川右岸の磯岡台地上では成願寺遺跡、榎戸遺跡〈27〉で、田川東岸の願成寺台地上では砂田遺跡、中島笹塚遺跡、西刑部西原遺跡、磯岡北遺跡、立野遺跡、杉村遺跡、権現山遺跡、磯岡遺跡で確認されている。中期の古墳は、江川右岸では西刑部古屋原古墳群、田川東岸では前方後円墳である双子塚古墳〈58〉、笹塚古墳〈52〉、大型円墳である鶴舞塚古墳〈57〉、松の塚古墳〈55〉、権現塚古墳、車塚古墳のほか、中島笹塚古墳群、磯岡北古墳群の群集墳が確認されている。

後期の集落跡は、砂田姥沼遺跡、権現山遺跡、立野遺跡、杉村遺跡など中期から中心的な集落遺跡が衰退し、代わって砂田遺跡や東側の西刑部西原遺跡、西赤堀遺跡、瑞穂野団地遺跡、大関遺跡などが中心的集落になっていく。また、後期から新に集落が出現する中島笹塚遺跡や磯岡北遺跡もみられる。後期の古墳は、田川東岸の前半期で最大の古墳である琴平塚1号墳〈37〉がある。ほかに江川西岸にしらみ塚古墳があり、いずれも帆立貝式前方後円墳である。また、下桑島西原古墳群は、前半の円墳2基と後半の前方後円墳1基からなる古墳群である。後半になると群集墳が盛行し、古墳が増加する。田川東岸では上郷瓢箪塚古墳が最大で、ほかに琴平塚3・5号墳、根本西台1・2・5号墳〈20〉、飯塚古墳〈21〉、西刑部古屋原8号墳、屋敷東浦愛宕塚古墳がある。終末期の群集墳としては、成願寺遺跡、西赤堀遺跡がある。

奈良時代になると、宇都宮市域は下野国に属し、市域の大部分は河内郡に、鬼怒川以東の清原地区は芳賀郡に属していた。当遺跡は下野国衙から約14.5km北東方に位置し、当地域は河内郡刑部郷に比定されている。奈良・平安時代の遺跡は、やや東側の高位台地上に猿山遺跡〈4〉、瑞穂野団地遺跡、大関遺跡で多数の竪穴建物跡が確認されており、本来一つの大規模な集落であったとみられている。その南方に位置する西赤堀遺跡では、竪穴建物跡のほか多数の掘立柱建物跡が確認されており、河内郡の倉院跡ともいわれている。また田原低台地に位置する砂田遺跡でも、多数の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が確認されている。ほかに砂田姥沼遺跡、立野遺跡、中島笹塚遺跡、磯岡遺跡においても該期の遺構・遺物が確認されているが、少数である。この地域で特徴的なことは、権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡、西刑部西原遺跡において古代東山道である道路跡が確認されていることである。ただ、これらの遺跡では、道路跡以外は当該期の遺構・遺物は少ない。

鎌倉時代以降の中世に入ってからこの当地域に関する資料は少ないが、鎌倉・室町時代の当地域は宇都宮氏及び芳賀氏の支配下にあったことが知られている。宇都宮氏関連の城跡や館跡としては、江川西岸では石井城跡、

第2表 下桑島西原南遺跡周辺遺跡一覧

番号	県番号	遺跡名	時代						番号	県番号	遺跡名	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世				近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平
①	4345	下桑島西原南遺跡				○	○		34	4363	内野遺跡				○	○	
2	3385	南原古墳				○			35	4362	西沼遺跡					○	
3	3317	下桑島西原遺跡					○		36	4354	西刑部西原遺跡				○	○	
4	3319	猿山遺跡					○		37	4361	琴平塚古墳群				○		
5	3318	猿山天満宮古墳				○			38		推定東山道					○	
6	3276	さるやま城古墳群				○			39	8832	磯岡北遺跡		○		○		○
7	3314	さるやま城遺跡						○	40	4355	中島笹塚遺跡				○	○	
8	3311	大久保台山遺跡				○	○		41	4356	砂田姥沼遺跡				○	○	
9	3308	追金仏遺跡		○		○			42	3386	砂田遺跡				○	○	
10	3313	東原古墳群				○			43	4357	赤沢高塚群						○
11	3312	天王山古墳群				○			44	4358	立野遺跡				○	○	
12	3309	宇東高西遺跡		○					45	4359	芋内遺跡				○		
13	3328	石井久保田古墳群			○				46	4373	杉村遺跡				○	○	
14	3326	上桑島西原庚申塚						○	47	4372	桜稲荷高塚						○
15	3277	柿木坂古墳群				○			48	4371	権現山遺跡				○	○	
16	3327	柿木坂遺跡		○		○			49	4360	磯岡遺跡				○	○	
17	3320	瑞穂野団地遺跡	○	○	○	○			50	4375	原遺跡				○	○	
18	8806	桑島台西古墳				○			51	4376	原古墳群				○		
19	3324	桑島台古墳群				○			52	4377	笹塚古墳				○		
20	3325	根本西台古墳群				○			53	4388	上石田遺跡				○	○	
21	3322	飯塚古墳				○			54	4381	車塚古墳群				○		
22	4349	成願寺北遺跡		○			○		55	4380	松の塚古墳				○		
23	4350	清水内古墳				○			56	4379	権現塚古墳群				○		
24	3321	藤腰遺跡				○	○		57	4378	鶴舞塚古墳				○		
25	4346	大関台遺跡					○		58	4374	双子塚古墳				○		
26	4351	大関高塚群						○	59	8825	御田長島B遺跡				○		
27	4353	榎戸遺跡					○		60	8817	細工瀬北遺跡					○	
28	4365	後高塚遺跡					○		61	3316	赤沢遺跡		○			○	
29	4368	平塚原根岸遺跡				○	○		62	3315	菅谷遺跡				○	○	
30	4370	南浦遺跡		○			○		63	3306	下栗念仏塚遺跡					○	
31	4367	下小屋原遺跡					○		64	3293	下栗念仏塚古墳				○		
32	4366	不動堂遺跡					○		65	3305	下栗大塚古墳				○		
33	4364	西刑部古屋原遺跡				○			66	3307	大塚神社古墳				○		

桑島城跡、刑部城跡、高島館跡、田川東岸では東川田城跡、猿山城跡などが確認されている。

その他、集落跡とみられる遺跡として、磯岡北遺跡、立野遺跡、権現山遺跡などがあり、鬼怒川低地の開発が本格的に行われたものと考えられている。

1597年、宇都宮氏は豊臣秀吉によって領地没収され、追放されてしまう。その後、浅野長政が城代となり、さらに蒲生秀行が城主となる。江戸時代に入ると、家康の孫にあたる奥平家昌、さらに本多正純が城主となり、正純は日光街道の整備や宇都宮城跡の大改築、城下町の整備などの事業を手がけた。その後、松平氏、本多氏、奥平氏、阿部氏、戸田氏、松平氏を経て、戸田氏が再び城主になるまで、宇都宮城主は頻りに交代する。宇都宮は、軍事・交通上の重要地点であることから歴代の城主は、江戸時代を通じて譜代大名から任命されている。

参考文献

- 安藤美保編 1996『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第178集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 五十嵐利勝 1979「権現山北遺跡採集の石器について」『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会
- 岩上照朗・石橋知明編 1978『宇都宮市瑞穂野団地遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第4集 宇都宮市教育委員会
- 内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2006『東谷・中島地区遺跡群7 磯岡北古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第299集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2008『東谷・中島地区遺跡群9 中島笹塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第311集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 内山敏行 2008『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第331集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 宇都宮市教育委員会文化課文化財保護係編 1997「宇都宮市遺跡地図」
- 大関利之 1992「宇都宮市柿木坂遺跡の加曾利E式土器」『栃木県考古学会誌』14
- 小野麻人(東京航業研究所編) 2007『砂田姥沼遺跡 B区』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第64集 宇都宮市教育委員会
- 勝見一品(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編)『磯岡北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第53集 宇都宮市教育委員会
- 亀田幸久 1999『杉村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第221集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 亀田幸久 2007『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第304集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 亀田幸久 2008「宇都宮市立野遺跡の縄文草創期土器について」『唐澤考古』27 唐澤考古会
- 川原由典・中山晋 1981『猿山遺跡 付久部台古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第38集 栃木県教育委員会
- 神野安伸 1994『天狗原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第34集 宇都宮市教育委員会
- 栗田欣行 2005『磯岡遺跡第2次調査報告』上三川町埋蔵文化財調査報告第32集 上三川町教育委員会
- 今平利幸・梁木誠 2002『下桑島西原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第30集 宇都宮市教育委員会
- 今平昌子 2012『東谷・中島地区遺跡群13 砂田遺跡(10・12・13・16・27区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第355集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 佐々木藤雄・林邦雄・小野麻人(東京航業研究所編) 2008『砂田姥沼遺跡(E区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第70集 宇都宮市教育委員会
- 篠原浩恵編 2000『成願寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第239集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 篠原祐一・亀田幸久 2009『権現山遺跡・東北北浦遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第318集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 清水正幸 2002『西刑部古屋原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第46集 宇都宮市教育委員会
- 白崎智隆(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2008『西刑部西原遺跡(C区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第62集 宇都宮市教育委員会

- 白崎智隆(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編)2010『西刑部西原遺跡(E区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第76集
宇都宮市教育委員会
- 杉浦昭博編2001『大関台遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第251集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 芹澤清八1993『砂田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第132集 栃木県教育委員会
- 高野浩之・戸部孝一・深谷昇・平岡和夫2004『磯岡遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第29集 上三川町教育委員会
- 塚原孝一編1999『東谷・中島地区遺跡群 No.1 磯岡遺跡(1区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教育委員会・(財)
栃木県文化振興事業財団
- 常川秀夫・山野井清人1978『猿山A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第24集(原本では第20集) 栃木県教育委員会
- 津野仁2005『東谷・中島地区遺跡群6 磯岡遺跡(2~7区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・(財)
とちぎ生涯学習文化財団
- 津野仁・篠原浩恵・今平昌子2007『東谷・中島地区遺跡群8 砂田遺跡(4~6・18・19・23・24区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第305集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 中村亨史2004『東谷・中島地区遺跡群4 琴平塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 中山晋1996『砂田東遺跡・上横田A遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第176集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業財団
- 仲山哲也・青木健二・倉田有子2005『砂田遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第54集 宇都宮市教育委員会
- 橋本純朗・谷中隆2001『『東谷古墳群』と権現山遺跡・百目鬼遺跡』『権現山遺跡・百目鬼遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 土生朗治・宮田和男・越智徹・大塚雅之(山武考古学緩急書編)2007a『西刑部西原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第59集
宇都宮市教育委員会
- 土生朗治・宮田和男・越智徹・大塚雅之(山武考古学緩急書編)2007b『砂田姥沼遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第60集
宇都宮市教育委員会
- 土生朗治・越智徹・富川努2008『中島笹塚遺跡(A区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第63集 宇都宮市教育委員会
- 藤田直也・田代隆2002『東谷・中島地区遺跡群2 砂田遺跡(1区・2区・3区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第265集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田直也2003『東谷・中島地区遺跡群3 推定東山道推定地区』栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 栃木県教育委員会・(財)
とちぎ生涯学習文化財団
- 藤田典夫・安藤美保編2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県埋蔵文化財調査報告第241集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業財団
- 水野順敏・河野一也・栗田欣行(日本窯業史研究所編)2005『立野遺跡(A区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第55集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸(日本窯業史研究所編)2008a『砂田姥沼遺跡(D区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第67集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸(日本窯業史研究所編)2008b『みずほの台遺跡群(根本西台古墳群第2次・瑞穂野団地遺跡東地区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第68集 宇都宮市教育委員会
- 水野順敏・柏崎広伸(日本窯業史研究所編)2008c『みずほの台遺跡群II(根本西台古墳群第3次・西刑部上原遺跡)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第69集 宇都宮市教育委員会
- 谷中隆・大島美智子編2001『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 梁木誠1984『鶴舞塚古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第13集 宇都宮市教育委員会

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

下桑島西原南遺跡は、宇都宮市の南東部に位置し、国道4号の西側に広がる範囲である。今回調査対象となった本遺跡は、田川東側で江川西側の台地上に位置し対象面積8,050㎡であり、奈良・平安時代を中心とした遺跡である。

今回の調査で確認した遺構は、縄文時代の陥し穴3基、土坑18基、古墳時代の竪穴建物跡3棟、土坑1基、溝跡1条、奈良・平安時代の竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、土坑1基、中世の掘立柱建物跡4棟、時期不明の掘立柱建物跡7棟、柱穴列20条、溝跡5条、土坑185基、ピット群10カ所である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に15箱出土しており、大半は奈良・平安時代のものである。主な遺物は、竪穴建物跡から出土した土師器（坏・埴・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・甕・瓶）、土製品（紡錘車）、石製品（紡錘車、カマド補強材）、鉄製品（刀子・鎌）などである。

第2節 基本層序

調査区東側（D13グリッド）にテストピットを設定し、深さ3.0mまで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層は10層に分層された。土層の観察は以下の通りである。

第1層は、黒色粒子を多量に含む黒色土の耕作土である。

第2層は暗褐色の表土層下で、ローム粒子を中量、今市パミス・七本桜パミスを少量含んでいる。層厚は5～15cmである。

第3層は褐色のソフトローム層で、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。粘性・締まりとも弱い。層厚は15～30cmである。

第4層はソフトローム層からの漸移層で、黄褐色のロームブロックを多量に含む。粘性・締まりがあり、層厚は15～30cmである。

第5層は褐色のハードローム層で、ロームブロックを多量に含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は10～25cmである。

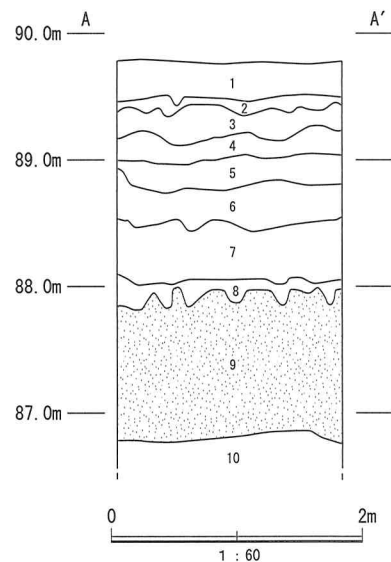
第6層は暗褐色の黒色帯層で、ロームブロックを微量含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は25～40cmである。

第7層は灰黄褐色のハードローム層で、ローム粒子を多量、鹿沼パミスを少量含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は40～50cmである。

第8層は橙色のハードローム層から鹿沼パミス層への漸移層で、粘土粒子を含む。粘性・締まりは強く、層厚は5～25cmである。

第9層は明黄褐色の鹿沼パミス層である。粘性は弱い、締まりが強く、層厚は105～120cmである。

第10層は黒褐色の粘土層で、砂と礫が微量に混じっている。



第3図 基本土層図



第5图 全体图 (1 / 400)

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は土坑 21 基で、内 3 基は陥し穴である。以下、確認した遺構について記載する。

(1) 陥し穴

第 234 号土坑 (SK234) (第 6 図、第 3 表、図版 2)

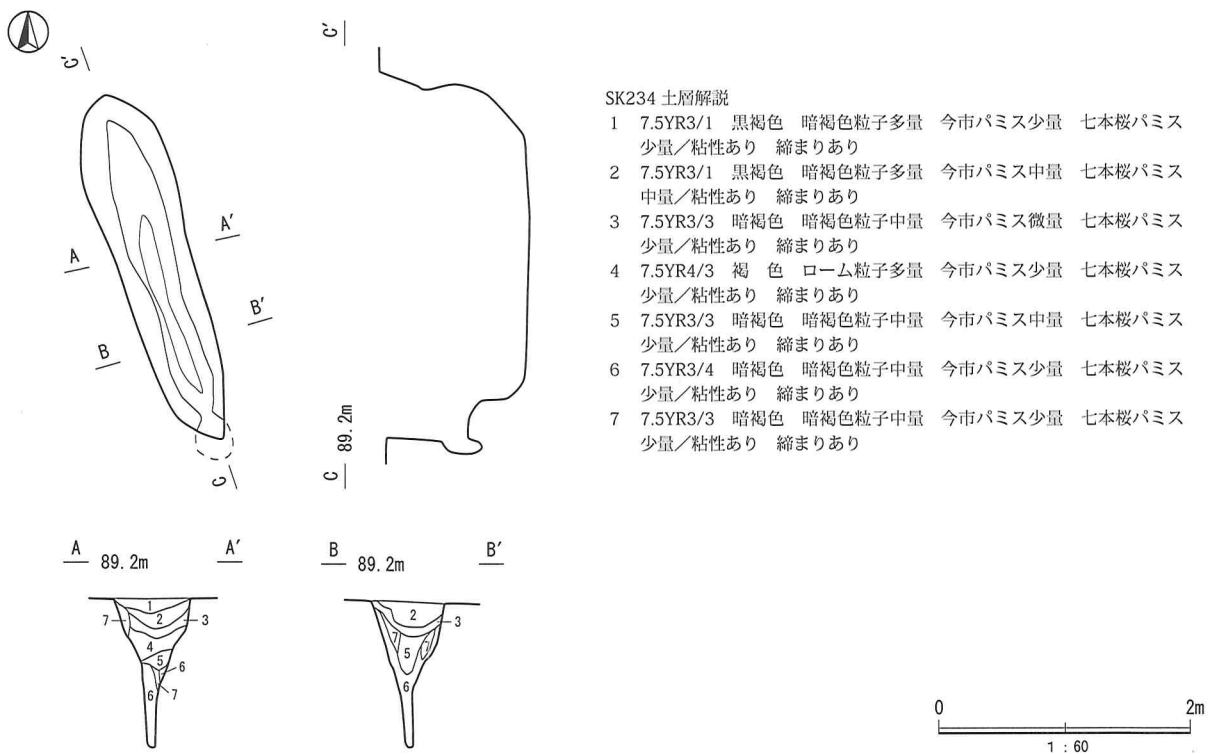
位置 調査区南東部。I 10 グリッド、標高 89 m 地点にある。

規模と形状 開口部は長径 2.80 m、短径 0.60 m、底部は長径 2.00 m、短径 0.30 m の長楕円形で、長径方向は N - 20° - W である。深さ 120cm で、底面は平坦である。壁は鋭角に立ち上がっている。

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色パミス (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる



第 6 図 第 234 号土坑実測図

第 244 号土坑 (SK244) (第 7 図、第 3 表、図版 2)

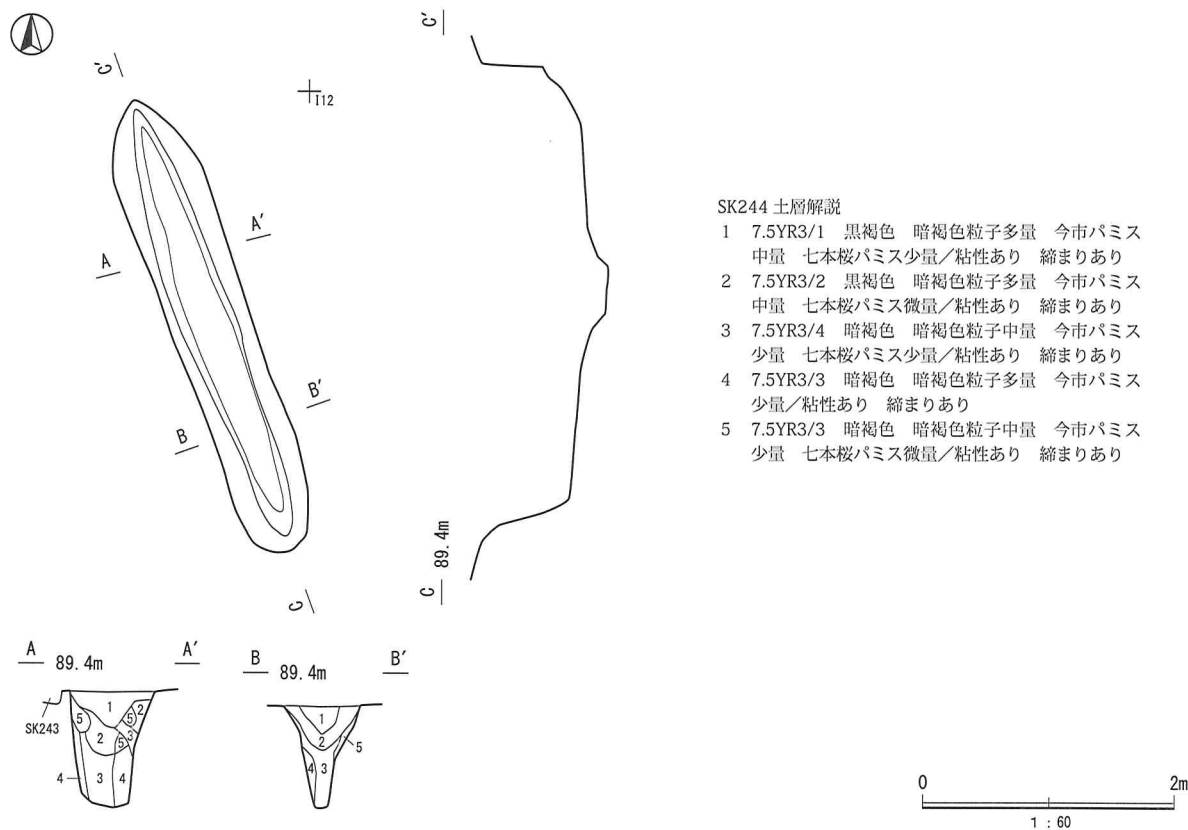
位置 調査区南東部。I 11 グリッド 標高 89 m 地点にある。

規模と形状 開口部は長径 3.70 m、短径 0.70 m、底部は長径 3.20 m、短径 0.30 m の長楕円形で、長径方向は N - 20° - W である。深さ 130cm で、底面は凸凹である。壁は鋭角に立ち上がっている。

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

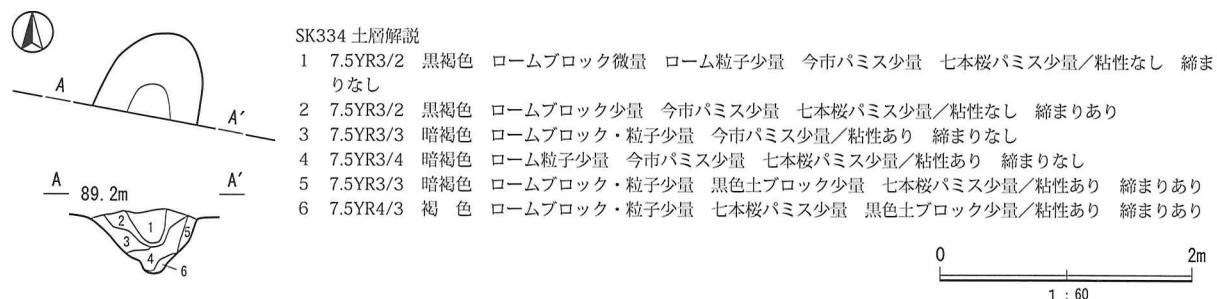


第7図 第244号土坑実測図

第334号土坑（SK334）（第8図、第3表、図版2）

位置 調査区南部。J 8グリッド、標高 89 m地点にある。

規模と形状 南部が調査区外に延びており、開口部は長径 0.68 m、短径 0.76 m、底部は長径 0.25 m、短径 0.34 mの楕円形と推測され、長径方向は N - 20° - E である。深さ 50cmの確認した底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第8図 第334号土坑実測図

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。全容は確認できなかったが、形状と覆土から陥し穴と考えられる。

第3表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ (cm)						
234	I10	N-20°-W	長楕円形	2.80×0.60	120	直立	平坦	自然	-	縄文	陥し穴 図版2
244	I11	N-20°-W	長楕円形	3.70×0.70	130	直立	凸凹	自然	-	縄文	陥し穴 図版2
334	J8	N-20°-E	楕円形	(0.68)×(0.76)	50	外傾	平坦	自然	-	縄文	陥し穴 図版2

(2) 土坑

第16号土坑(SK16)(第9図、第4表)

位置 調査区西部。E2グリッド、標高89mほどに位置している。

規模と形状 長径1.14m、短径1.10mの円形である。長径方向はN-10°-Wである。深さ30cmで底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第53号土坑(SK53)(第9図、第4表、図版2)

位置 調査区北東部。A13グリッド、標高89mほどに位置している。

重複関係 第52号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.40m、短径1.20mの不整楕円形である。長径方向はN-60°-Eである。深さ50cmで底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第54号土坑(SK54)(第9図、第4表、図版2)

位置 調査区北東部。A13グリッド、標高89mほどに位置している。

規模と形状 長径 0.80m、短径 0.45m の楕円形である。長径方向は N - 10° - E である。深さ 28cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 89 号土坑 (SK89) (第 9 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区西部。D 7 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.46m、短径 0.98m の楕円形で、長径方向は N - 25° - W である。深さ 30cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 94 号土坑 (SK94) (第 9 図、第 4 表)

位置 調査区中央部。F 7 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

重複関係 第 93 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.08m、短径 1.42m の楕円形で、長径方向は N - 60° - W である。深さ 28cm で底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 110 号土坑 (SK110) (第 9 図、第 4 表、図版 2)

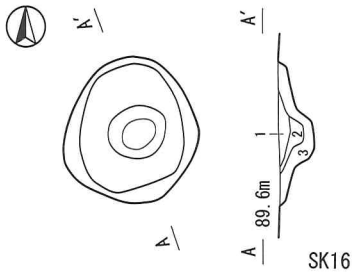
位置 調査区中央部。G 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.04m、短径 0.86m の楕円形であり、長径方向は N - 0° である。深さ 40cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層でき、自然堆積状況を示している。

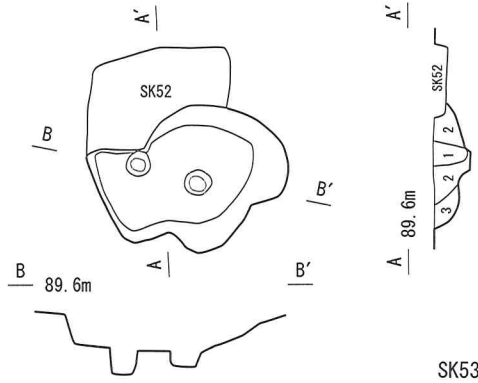
遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。



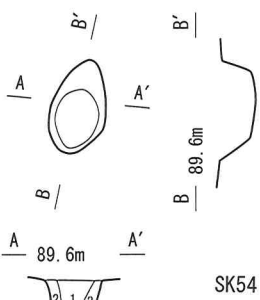
SK16 土層解説

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス微量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス微量/粘性あり 締まりあり



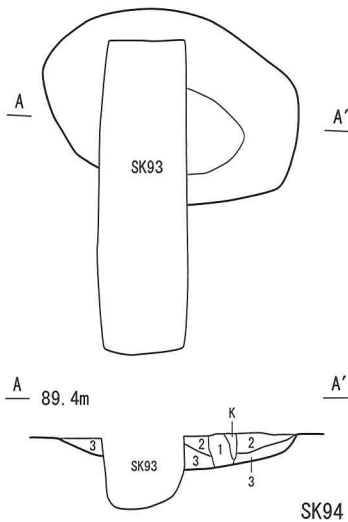
SK53 土層解説

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子少量 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 暗褐色粒子中量 今市パミス少量 七本桜パミス中量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 暗褐色粒子中量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり



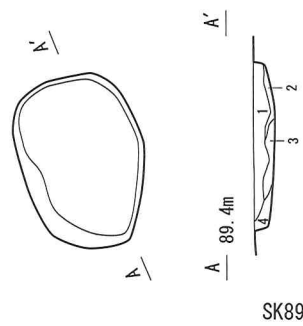
SK54 土層解説

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス微量/粘性あり 締まりあり



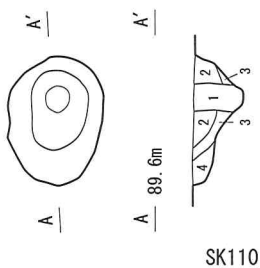
SK94 土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス微量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス微量 ローム粒子中量/粘性あり 締まりあり



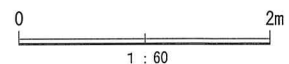
SK89 土層解説

- 1 7.5YR5/6 明褐色 ローム粒子中量 今市パミス多量 七本桜パミス多量/粘性なし 締まりあり
- 2 7.5YR4/6 褐色 ローム粒子中量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR4/4 褐色 ローム粒子多量 今市パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 4 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子多量 今市パミス微量/粘性あり 締まりあり



SK110 土層解説

- 1 5YR2/4 極暗赤褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス中量 七本桜パミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 5YR2/3 極暗赤褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス多量/粘性あり 締まり強い
- 3 5YR2/2 極暗赤褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量 黒色土ブロック少量/粘性あり 締まり強い
- 4 7.5YR4/3 褐色 暗褐色粒子少量 ロームブロック多量/粘性あり 締まりあり



第9図 縄文時代その他の土坑(1)

第 112 号土坑 (SK112) (第 10 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区中央部。E 3 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.74m、短径 1.56m の不整楕円形で、長径方向は N - 0° である。深さ 28cm で底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 113 号土坑 (SK113) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。F 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.50m、短径 0.50m の円形で、深さ 30cm である。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 114 号土坑 (SK114) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区中央部。E 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.90m、短径 0.82m の円形で、長径方向は N - 40° - E である。深さ 20cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 133 号土坑 (SK133) (第 10 図、第 4 表)

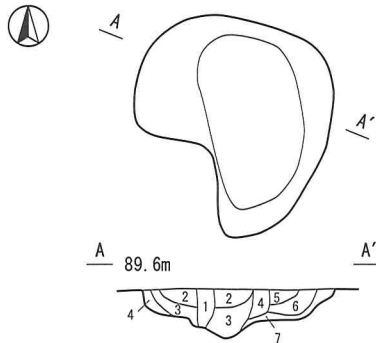
位置 調査区中央部。E 3 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.08m、短径 0.98m の円形で、長径方向は N - 40° - W である。深さ 40cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

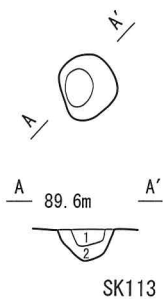
所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時



SK112

SK112 土層解説

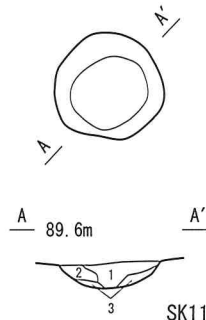
- 1 10YR2/3 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
- 3 10YR3/1 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市パミス微量 ローム粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 暗褐色粘土粒子少量 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 5 10YR4/4 褐色 暗褐色粘土粒子少量 ロームブロック中量・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 6 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土粒子中量 ロームブロック・粒子少量 炭化物微量/粘性あり 縮まりあり
- 7 10YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量/粘性あり 縮まりあり



SK113

SK113 土層解説

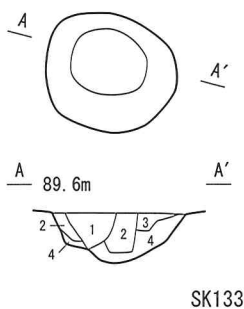
- 1 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 10YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス微量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり



SK114

SK114 土層解説

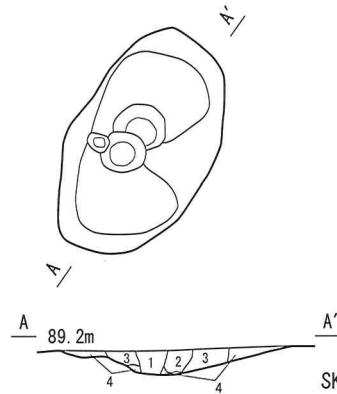
- 1 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 10YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR4/4 褐色 粒子ロームブロック中量・粒子多量/粘性あり 縮まりあり



SK133

SK133 土層解説

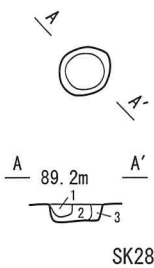
- 1 7.5YR4/2 灰褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市パミス少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR4/3 褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まり強い
- 3 7.5YR4/1 褐灰色 暗褐色粘土粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まり強い
- 4 7.5YR4/4 褐色 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり



SK201

SK201 土層解説

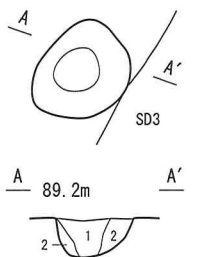
- 1 7.5YR4/2 灰褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 ローム粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR4/4 褐色 暗褐色粒子中量 粒子ロームブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり



SK289

SK289 土層解説

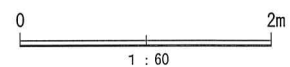
- 1 10YR3/1 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭黒土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス微量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量/粘性あり 縮まりあり



SK290

SK290 土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり



第 10 図 縄文時代その他の土坑 (2)

期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 201 号土坑 (SK201) (第 10 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区東部。D12 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.86m、短径 1.16m の楕円形で、長径方向は N - 30° - E である。深さ 50cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) は、ザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 289 号土坑 (SK289) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。H10 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.40m、短径 0.40m の円形である。深さ 14cm で、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス (今市軽石) は、ザクザクしたブロックである。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 290 号土坑 (SK290) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。H10 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

重複関係 第 3 号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.82m、短径 0.64m の楕円形で、長径方向は N - 40° - E である。深さ 40cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス (今市・七本桜軽石) はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子 (七本桜軽石) が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 298 号土坑 (SK298) (第 11 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区西部。H 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.76m、短径 0.92m の楕円形で、長径方向は N - 45° - W である。深さ 20cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

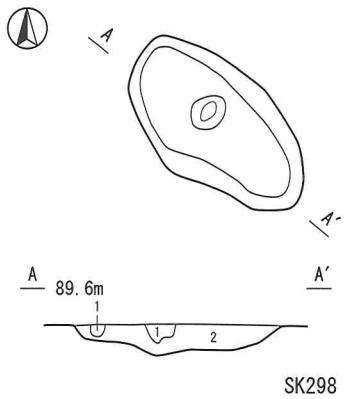
所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 299 号土坑（SK299）（第 11 図、第 4 表、図版 2）

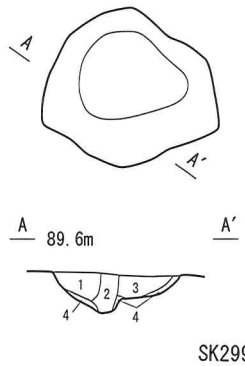
位置 調査区西部。H 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.42m、短径 1.12m の不整楕円形で、長径方向は N - 60° - W である。深さ 32cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

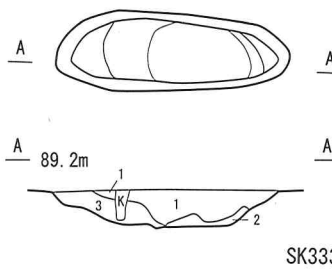
覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。



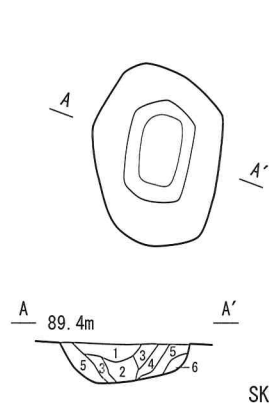
- SK298 土層解説
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス中量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり



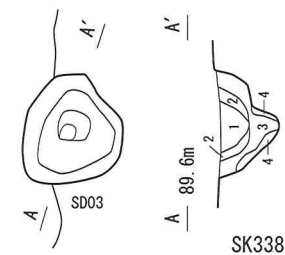
- SK299 土層解説
- 1 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス中量 七本桜パミス中量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子少量 今市パミス中量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子少量 今市パミス中量 七本桜パミス中量/粘性あり 縮まりあり
 - 4 10YR4/4 褐色 粒子ロームブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり



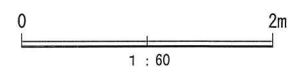
- SK333 土層解説
- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子多量 今市パミス中量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり



- SK337 土層解説
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR2/3 極暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス中量 七本桜パミス少量 黒色土ブロック微量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量 七本桜パミス少量 黒色土ブロック少量/粘性あり 縮まり強い
 - 4 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まり強い
 - 5 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス微量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まり強い
 - 6 7.5YR4/3 褐色 暗褐色粒子少量 今市パミス微量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり



- SK338 土層解説
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市パミス微量 七本桜パミス少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市パミス少量 ローム粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量/粘性あり 縮まりあり



第 11 図 縄文時代その他の土坑（3）

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロック、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 333 号土坑（SK333）（第 11 図、第 4 表）

位置 調査区南部。I 9 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.76m、短径 0.64m の楕円形で、長径方向は N - 90° - E である。深さ 30cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 337 号土坑（SK337）（第 11 図、第 4 表、図版 2）

位置 調査区西部。G 4～G 5 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.46m、短径 0.90m の楕円形で、長径方向は N - 0° である。深さ 54cm で底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 338 号土坑（SK338）（第 11 図、第 4 表）

位置 調査区東部。C12 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

重複関係 第 3 号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 第 3 号溝跡に掘り込まれ、長径 0.90m、短径 0.80m しか確認できず、平面形は楕円形と推測される。長径方向は N - 60° - E である。深さ 48cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

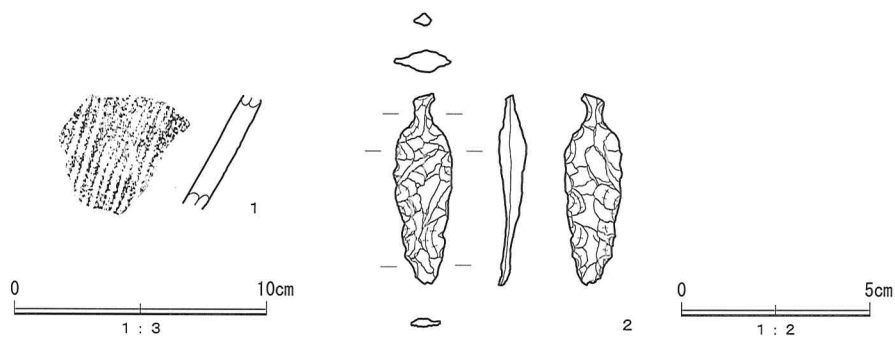
所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第4表 縄文時代その他の土坑一覧

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	備考 重複関係 (旧→新)
				長径×短径(m)	深さ (cm)						
16	E 2	N-10°-W	円形	1.14×1.10	30	外傾	平坦	自然	-	縄文	
53	A13	N-60°-E	不整楕円形	1.40×1.20	50	外傾	凸凹	自然	-	縄文	本跡→SK52
54	A13	N-10°-E	楕円形	0.80×0.45	28	外傾	平坦	自然	-	縄文	
89	D 7	N-25°-W	楕円形	1.46×0.98	30	外傾	平坦	自然	-	縄文	
94	F 7	N-60°-W	楕円形	2.08×1.42	28	緩傾	皿状	自然	-	縄文	本跡→SK93
110	G 2	N-0°	楕円形	1.04×0.86	40	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	
112	E 3	N-0°	不整楕円形	1.74×1.56	28	外傾	凸凹	自然	-	縄文	
113	F 2	N-0°	円形	0.50×0.50	30	外傾	凸凹	自然	-	縄文	
114	E 2	N-40°-E	円形	0.90×0.82	20	外傾	平坦	自然	-	縄文	
133	E 3	N-40°-W	円形	1.08×0.98	40	外傾	凸凹	自然	-	縄文	
201	D12	N-30°-E	楕円形	1.86×1.16	50	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	
289	H10	N-0°	円形	0.40×0.40	14	外傾	平坦	自然	-	縄文	
290	H10	N-40°-E	楕円形	0.82×0.64	40	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	本跡→SD3
298	H 2	N-45°-W	楕円形	1.76×0.92	20	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	
299	H 2	N-60°-W	不整楕円形	1.42×1.12	32	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	
333	I 9	N-90°-E	楕円形	1.76×0.64	30	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	
337	G 4~G 5	N-0°	楕円形	1.46×0.90	54	緩傾	平坦	自然	-	縄文	
338	C12	N-60°-E	(楕円形)	(0.90)×(0.80)	48	緩傾	凸凹	自然	-	縄文	本跡→SD3

(3) 遺構外遺物

縄文時代の遺構に帰属しない遺物について、実測図と観察表(第12図、第5表、図版12)を示す。



第12図 縄文時代遺構外出土遺物実測図

第5表 縄文時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部片 LR 単節縄文 斜め回転による施文 尖底土器	SD02 上層	夏島式 図版12
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴			出土位置	備考
2	石匙	5.0	1.5	0.7	4.0	チャート	両面押圧剥離			SI11 中央部 覆土下層	100% 図版12

2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡3棟、土坑1基、溝跡1条を確認した。以下、確認した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴建物跡

第13A号竪穴建物跡(SI13A)(第13～16図、第6・8表、図版3・12・13)

位置 調査区南東部J11グリッド、標高89mに位置する。

確認状況 ローム層上面で確認した。第13B号竪穴建物跡の覆土上に構築されている。

規模と形状 長軸5.95m、短軸4.90mで、平面形は方形である。主軸方位はN-10°-Eである。壁は確認面から最大高50cmで、ほぼ直立している。壁溝は、上幅30～40cm、下幅5～10cm、深さ10cmで、ほぼ全周している。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦な貼床で、カマドから中央部が固く締まっている。カマド手前の床面から検出した焼土範囲は掘方調査により、第13B号竪穴建物跡のカマドの痕跡と考えられる。

カマド 北壁中央東寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは140cmである。袖部の基部の最大幅は約140cmで、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。なお、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。

土層 10層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。11～16層は貼床の構築土であるが、第13B号竪穴建物跡の覆土とする。

ピット 床面から、ピット5か所が検出された。P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1:50×50cm、深さ60cm、P2:45×40cm、深さ40cm、P3:60×50cm、深さ50cm、P4:50×40cm、深さ60cm、P5:25×25cm、深さ20cmである。

遺物出土状況 土師器片663点[坏258点(2,284g)、高坏2点(29g)、器台1点(163g)、壺1点(37g)、甕401点(11,528g)]、須恵器片12点[坏6点(27g)、蓋2点(111g)、甕4点(105g)]、石7点(1,900g)。

1の土師器坏はカマドの東側、3の土師器坏は西部、16・19・21の土師器甕はカマド前の覆土下層から出土している。2の土師器坏は南西部の床面から覆土中層に散在している。4の土師器坏、7の土師器器台は西部、9の土師器直口壺はカマド前、24の土師器甕は北東部の覆土中層から出土している。5の須恵器蓋、13・15の土師器甕、27の須恵器甕はカマド右袖内から出土している。6の須恵器蓋、8の土師器壺、10～12・18・22・23の土師器甕はカマド内から出土している。14の土師器甕はカマド前の床面、17の土師器甕はP1西側脇の床面から出土している。20の土師器甕は中央部の覆土下層から覆土中層、25の土師器甕は覆土中層、26の土師器甕はカマド左袖内から出土している。

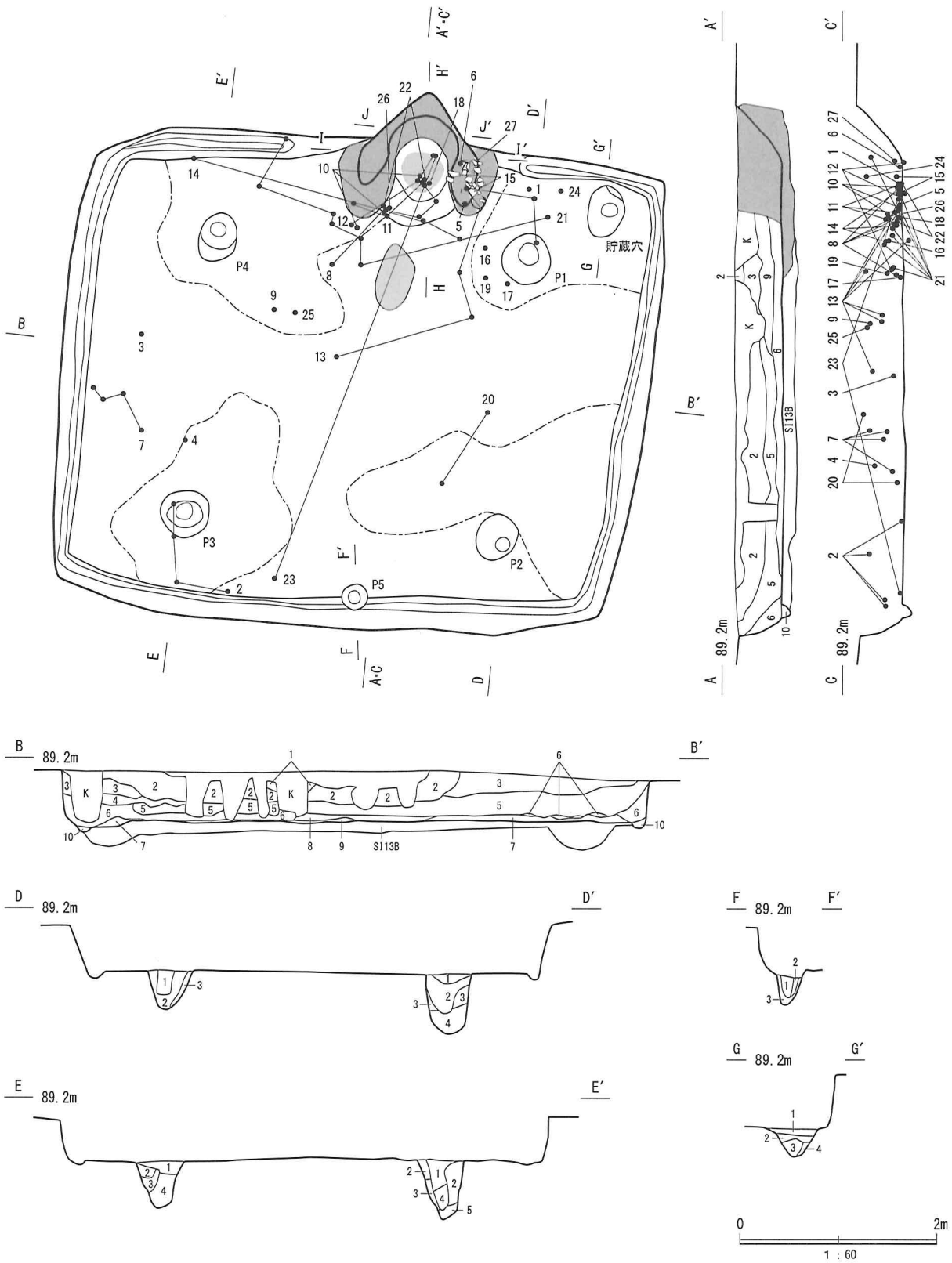
所見 13の土師器甕は掘方内や袖内から出土していることから、建て替え時に、第13B号竪穴建物跡の土器を再利用した可能性も考えられる。時期は、出土土器から7世紀後葉と推定される。

SI13A 土層解説

1	7.5YR3/1 黒褐色	ロームブロック微量・粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	5	7.5YR3/3 暗褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり	
2	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粒子少量	炭化粒子多量	黒色土ブロック少量/粘性あり	縮まりあり	6	7.5YR3/2 黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子中量	黒色土粒子中量/粘性あり	縮まりあり
3	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量	黒色土粒子少量/粘性あり	縮まりあり	7	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粒子中量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり
4	7.5YR3/4 暗褐色	ロームブロック多量・粒子中量	炭化粒子中量	黒色土ブロック少量/粘性あり	縮まりあり	8	7.5YR3/1 黒褐色	ローム粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり	



†J12



第 13 图 第 13A 号竖穴建物跡实测图

- 9 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 黒色土ブロック少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量 ローム粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし

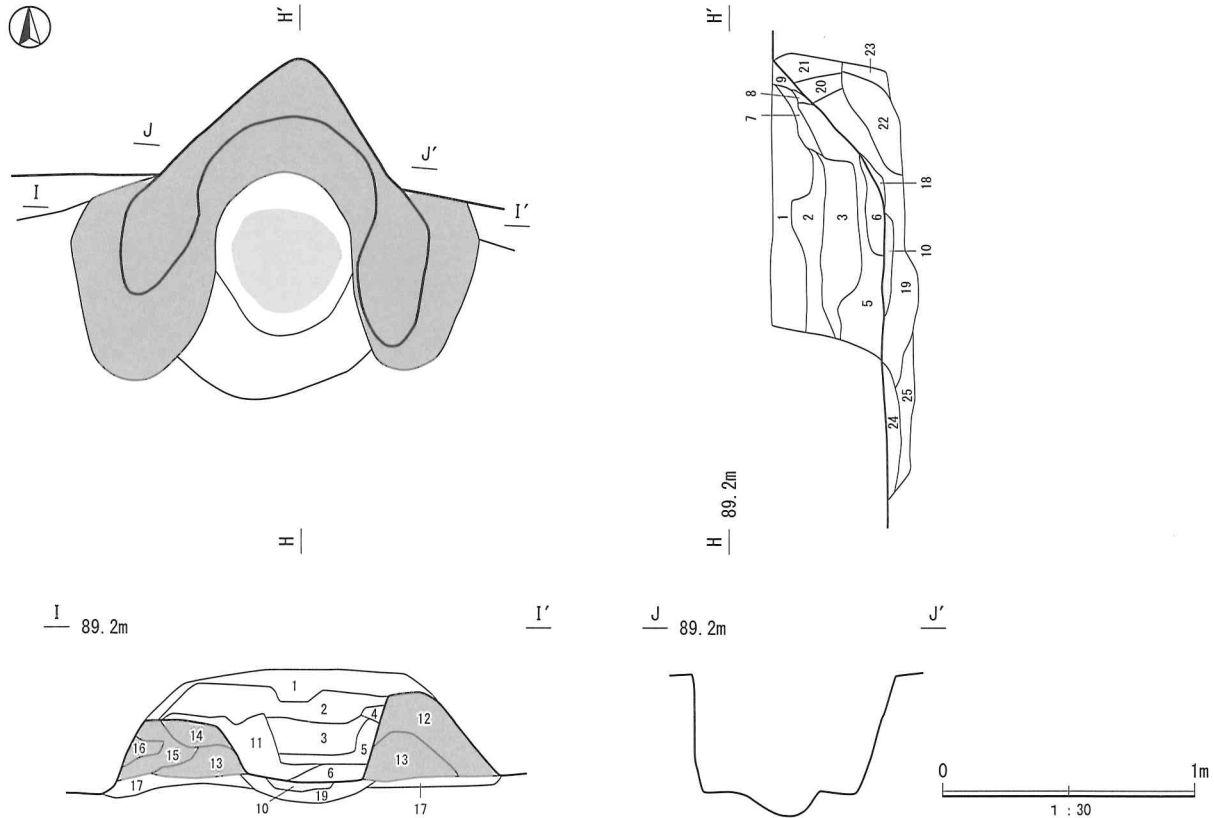
- 5 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり

SI13A ビット土層解説 (P1～5)

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR4/2 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

SI-13A 貯蔵穴土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物微量・粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

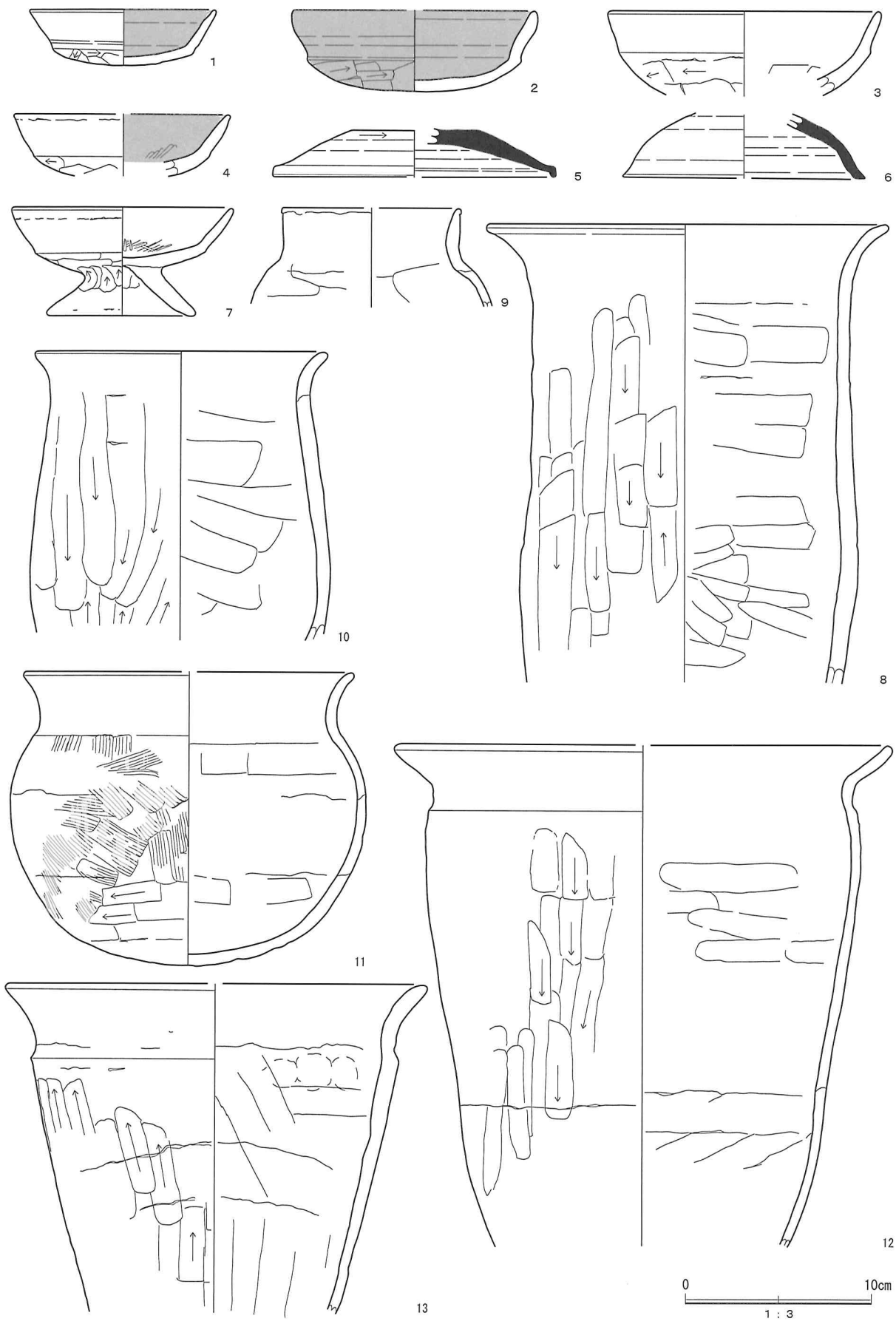


第14図 第13A号堅穴建物跡カマド実測図

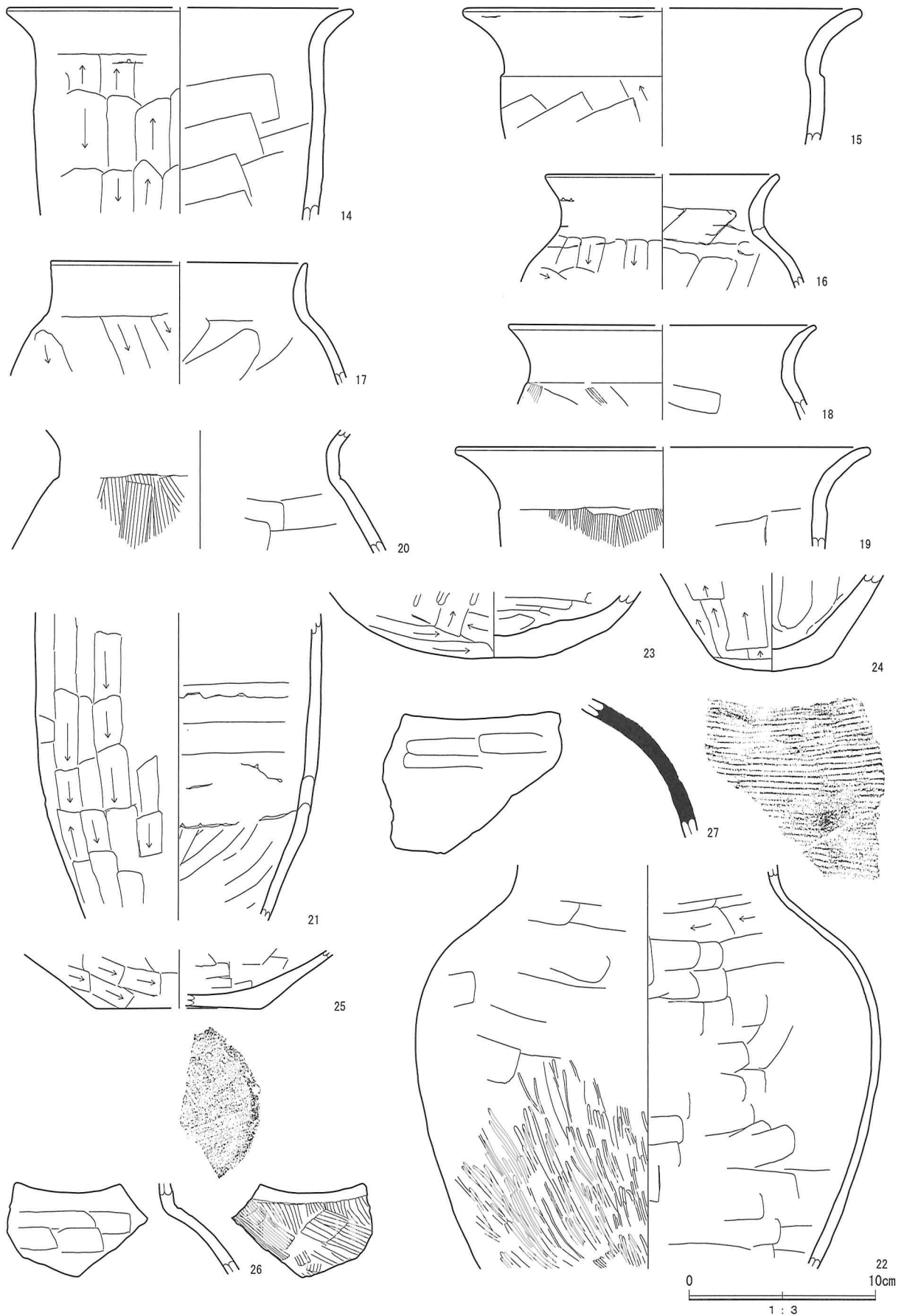
SI13A カマド土層解説

- 1 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 2 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 3 5YR5/2 灰褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量 粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 4 5YR4/2 灰褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 5 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物少量 炭化粒子多量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 6 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子少量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 7 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック中量・粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりあり
- 8 2.5YR4/1 赤灰色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 9 2.5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック多量・粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 10 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック微量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし (火床面)
- 11 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 粘土粒子少量 灰白色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 12 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 13 2.5YR5/2 灰赤色 焼土粒子中量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりなし

- 14 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 粘土粒子中量 灰白色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 15 5YR4/2 灰褐色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 16 5YR3/1 黒褐色 炭化粒子多量 焼土粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 17 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量・粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 18 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子少多量/粘性なし 縮まりなし
- 19 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 20 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 21 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 22 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子微量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 23 5YR3/6 暗赤褐色 焼土粒子中量 ローム粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 24 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子少中量/粘性あり 縮まりあり
- 25 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量/粘性あり 縮まりあり



第 15 图 第 13A 号 竖穴 建物 迹 出土 遗物 实测 图 (1)



第 16 图 第 13A 号竖穴建物跡出土遺物实测图 (2)

第6表 第13A号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	9.9	2.9	—	細砂	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部不定方向のヘラ削り 内面黒色処理	カマド東側床面	75% 図版 12
2	土師器	坏	[13.0]	4.3	—	長石・石英・スコリア	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部横位のヘラ削り 内外面黒色処理	南西部床面～覆土中層	50% 図版 12
3	土師器	坏	[14.4]	(4.4)	—	長石・石英・スコリア	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部不定方向のヘラ削り 内面ヘラ削り	西部覆土下層	30% 図版 12
4	土師器	坏	[11.4]	(3.3)	—	細砂・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 底部不定方向のヘラ削り 内面黒色処理後ヘラ磨き	西部覆土中層	10% 図版 12
5	須恵器	蓋	[15.0]	(2.6)	—	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部剥離	カマド右袖内	45% 図版 12 新治窯
6	須恵器	蓋	[13.0]	(3.4)	—	細砂	灰	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部剥離	カマド内	10% 図版 12 三倉山麓窯
7	土師器	器台	11.5	5.8	7.7	細砂・スコリア	橙	普通	坏部口縁部横ナデ 内面放射状のヘラ磨き 脚部貼り付け 脚部外面上位横位のヘラ削り 外面下位縦位のヘラ削り 内面横位のヘラ削り	西部覆土中層	70% 図版 12
8	土師器	壺	21.4	(24.4)	—	長石・石英・雲母・チャート・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド内	40% 図版 12
9	土師器	直口壺	[9.4]	(5.2)	—	細砂・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 外面横位のヘラ削り 体部内面横位のヘラナデ	中央部覆土中層	10% 図版 12
10	土師器	甕	15.4	(15.4)	—	長石・石英・雲母・チャート・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド内	50% 図版 12
11	土師器	甕	[17.4]	(15.7)	—	長石・石英・細礫・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の刷毛目調整 内面横位のヘラナデ	カマド内	25% 図版 12
12	土師器	甕	[26.0]	(26.7)	—	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ 輪痕	カマド内・カマド前覆土下層	15% 図版 12
13	土師器	甕	[22.0]	(17.5)	—	長石・石英・角閃石・チャート・スコリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面鋸位のヘラナデ	カマド右袖内・中央部覆土中層	10% 図版 13
14	土師器	甕	[18.3]	(11.4)	—	長石・石英・角閃石・チャート・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド前床面・北西部覆土下層	10% 図版 13
15	土師器	甕	[21.0]	(7.3)	—	長石・石英・角閃石・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ	カマド右袖内	5% 図版 13
16	土師器	甕	[12.5]	(6.8)	—	長石・石英・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド前覆土中層	5% 図版 13
17	土師器	甕	[13.8]	(6.3)	—	長石・石英・チャート・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	P1 付近床面	5% 図版 13
18	土師器	甕	[16.4]	(5.0)	—	長石・石英・細礫	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の刷毛目調整 内面横位のヘラナデ	カマド内	5% 図版 13
19	土師器	甕	[22.0]	(5.4)	—	長石・石英・スコリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の刷毛目調整	カマド前覆土下層	5% 図版 13
20	土師器	甕	—	(5.4)	—	長石・石英・角閃石・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の刷毛目調整 内面横位のヘラナデ	中央部覆土下層・上層	5% 図版 13
21	土師器	甕	—	(38.8)	—	長石・石英・細礫	灰黄褐	普通	体部外面上位横位のヘラナデ 外面下位縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	カマド前覆土下層～中層	30% 図版 13
22	土師器	甕	—	(16.4)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい橙	普通	体部内面ナデ 外面縦位のヘラ削り 内面上位横位のナデ 内面下位縦位のヘラ削り	カマド内	15% 図版 13
23	土師器	甕	—	(3.6)	—	長石・石英・雲母・チャート・スコリア	明赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部不定方向のヘラ削り	カマド内・南部床面	10% 図版 13
24	土師器	甕	—	(5.2)	6.3	長石・石英・雲母・チャート・スコリア	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	北東部覆土中層	10% 図版 13
25	土師器	甕	—	(3.1)	[9.0]	長石・石英・角閃石	にぶい褐	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	5% 図版 13
26	土師器	甕	—	(4.8)	—	長石・石英・角閃石	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位の刷毛目調整 内面横位のヘラナデ	カマド内	5% 図版 13
27	須恵器	甕	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横位のナデ	カマド右袖内	5% 図版 13 新治窯

第 13B 号竪穴建物跡 (SI13B) (第 17・18 図、第 8 表、図版 3)

位置 調査区南東部 J 11 グリッド、標高 89 m に位置する。

確認状況 第 13A 号竪穴建物跡の床下で確認する。

規模と形状 推定長軸 5.40 m、推定短軸 3.40 m で、平面形は長方形と推定される。主軸方位は N - 10° - E である。壁は確認面から最大高 50cm と推定される。

床 ほぼ平坦な貼床で、全体に固く締まっている。

カマド 第 13A 号竪穴建物跡床下から、長径 66cm、短径 42cm の楕円形のカマドの範囲を確認した。

土層 第 13A 号竪穴建物跡の床下から 6 層に分層できる。ロームブロックで踏み固められており、人為的な埋没状況である。14・15 層は掘方土層、16 層はカマド覆土の残りである。

ピット 床面から、ピット 7 か所が検出された。P 6 ~ P 9 は主柱穴、P10・P11 は出入口施設と考えられる。P 6 : 50 × 40cm、深さ 12cm、P 7 : 32 × 28cm、深さ 40cm、P 8 : 60 × 50cm、深さ 20cm、P 9 : 62 × 32cm、深さ 42cm、P10 : 20 × 20cm、深さ 32cm、P11 : 24 × 24cm、深さ 26cm である。

遺物出土状況 出土しなかった。

所見 第 13A 号竪穴建物跡出土の土師器甕が、構築時にカマド袖内や掘方に埋め込まれていたことを考えると、本跡との廃絶時期の時期差はあまりない可能性がある。時期は、重複関係から 7 世紀後葉以前と考えられる。

SI13B 土層解説

- 11 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 12 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 黒色土ブロック少量/粘性あり 縮まりあり
- 13 7.5YR4/2 灰褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量 粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 14 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量 焼土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 15 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック多量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 16 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

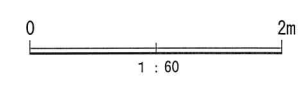
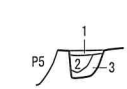
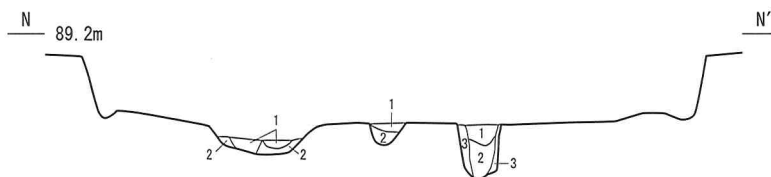
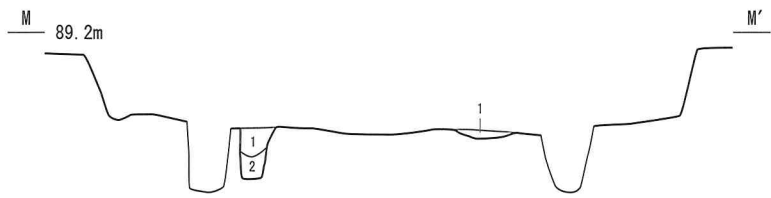
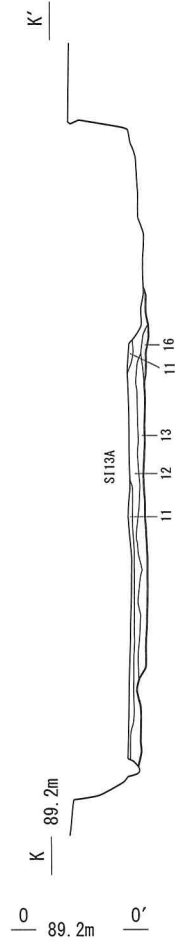
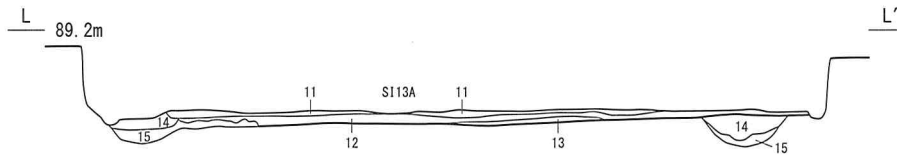
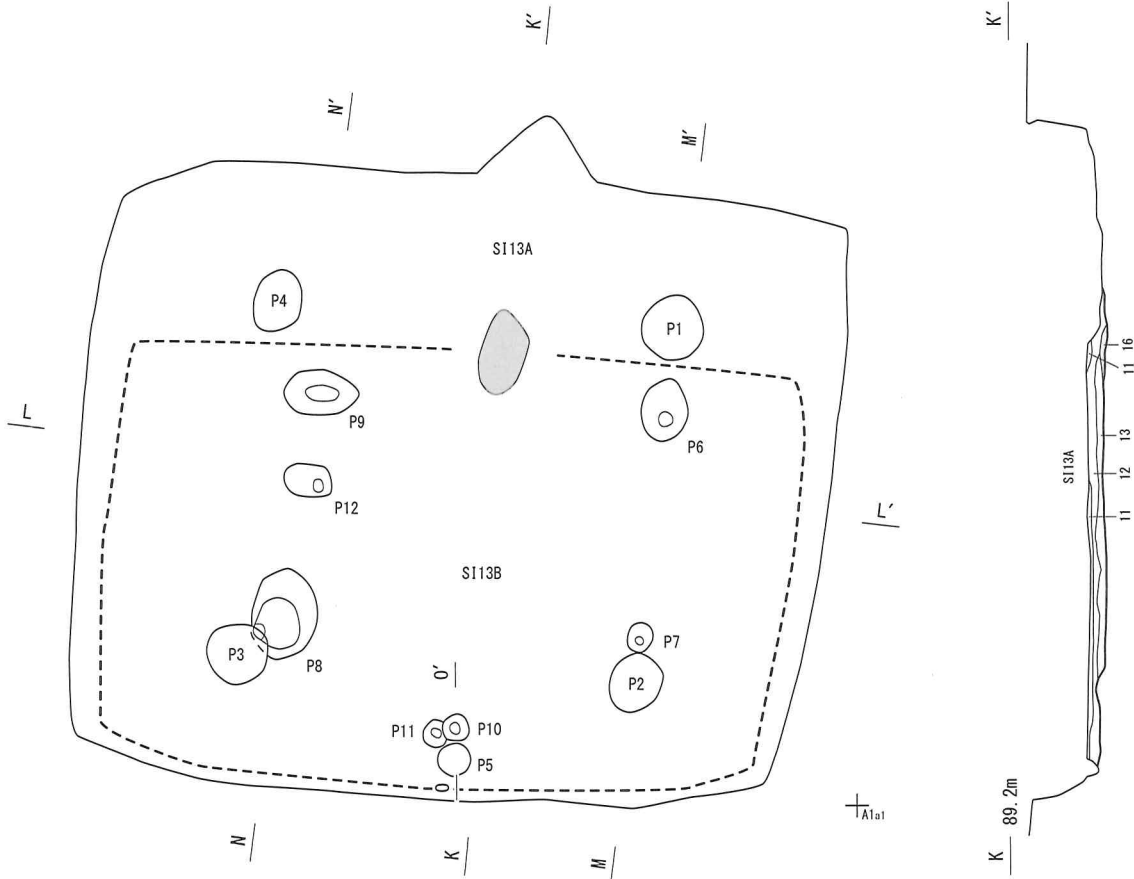
SI13B ピット土層解説

- P6
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- P7
 - 1 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- P8
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子多量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり

- P9
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- P10
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- P12
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり



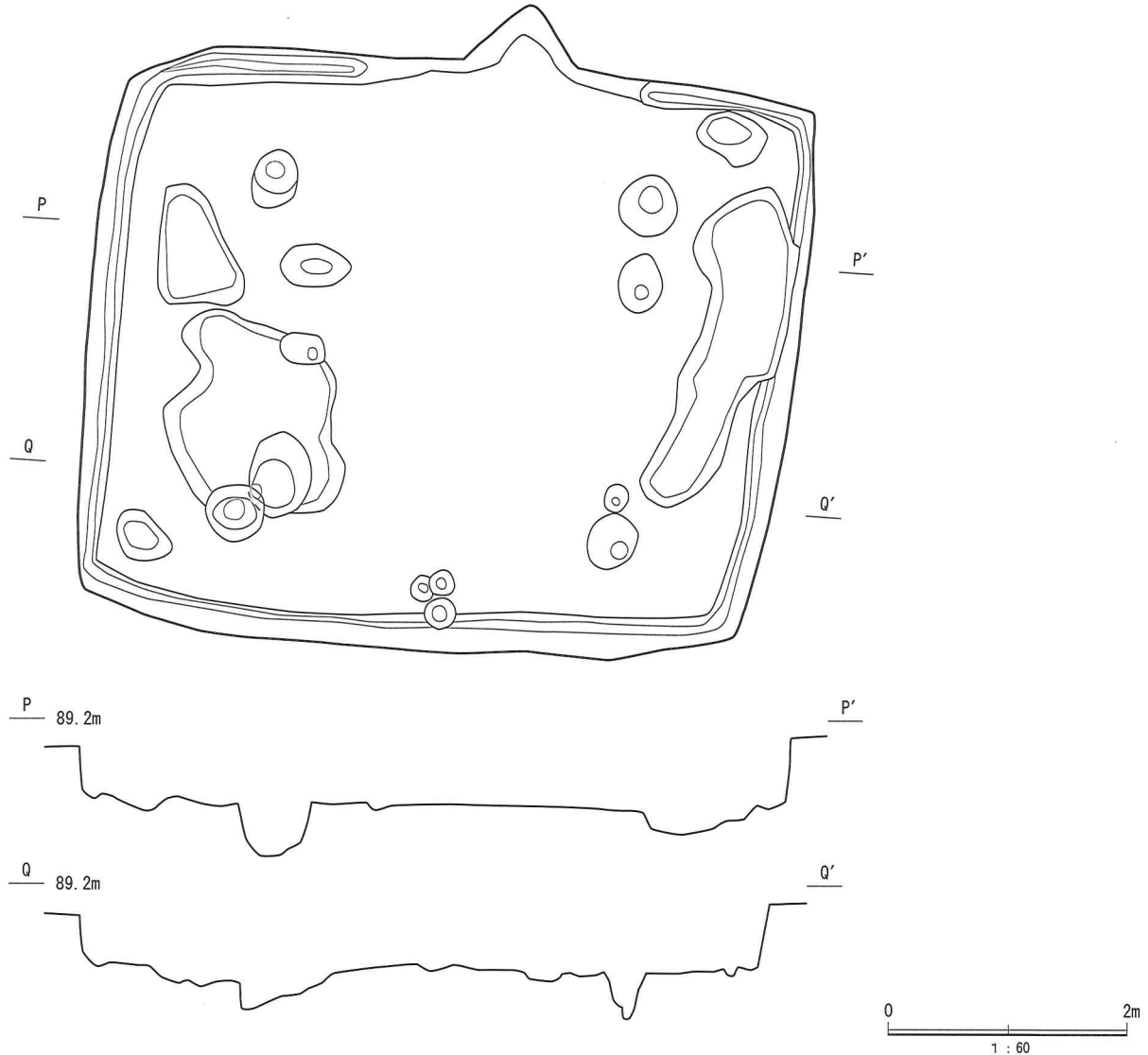
±J12



第 17 图 第 13B 号竖穴建物迹实测图



TJ12



第 18 図 第 13A・B 号堅穴建物跡掘方実測図

第 14 号堅穴建物跡 (SI14) (第 19～21 図、第 7・8 表 図版 3・14)

位置 調査区南東部。I 10～I 11 グリッド、標高 89 m の平地面に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第 218・241 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.48 m、短軸 5.22 m で、平面形は方形である。主軸方位は N-30°-W である。壁は確認面から最大高 20cm で、ほぼ直立している。壁溝は、上幅 20～40cm、下幅 5～10cm、深さ 10cm で、ほぼ全周している。断面形は U 字形である。

床 ほぼ平坦な貼床で、カマドから中央部が固く締まっている。

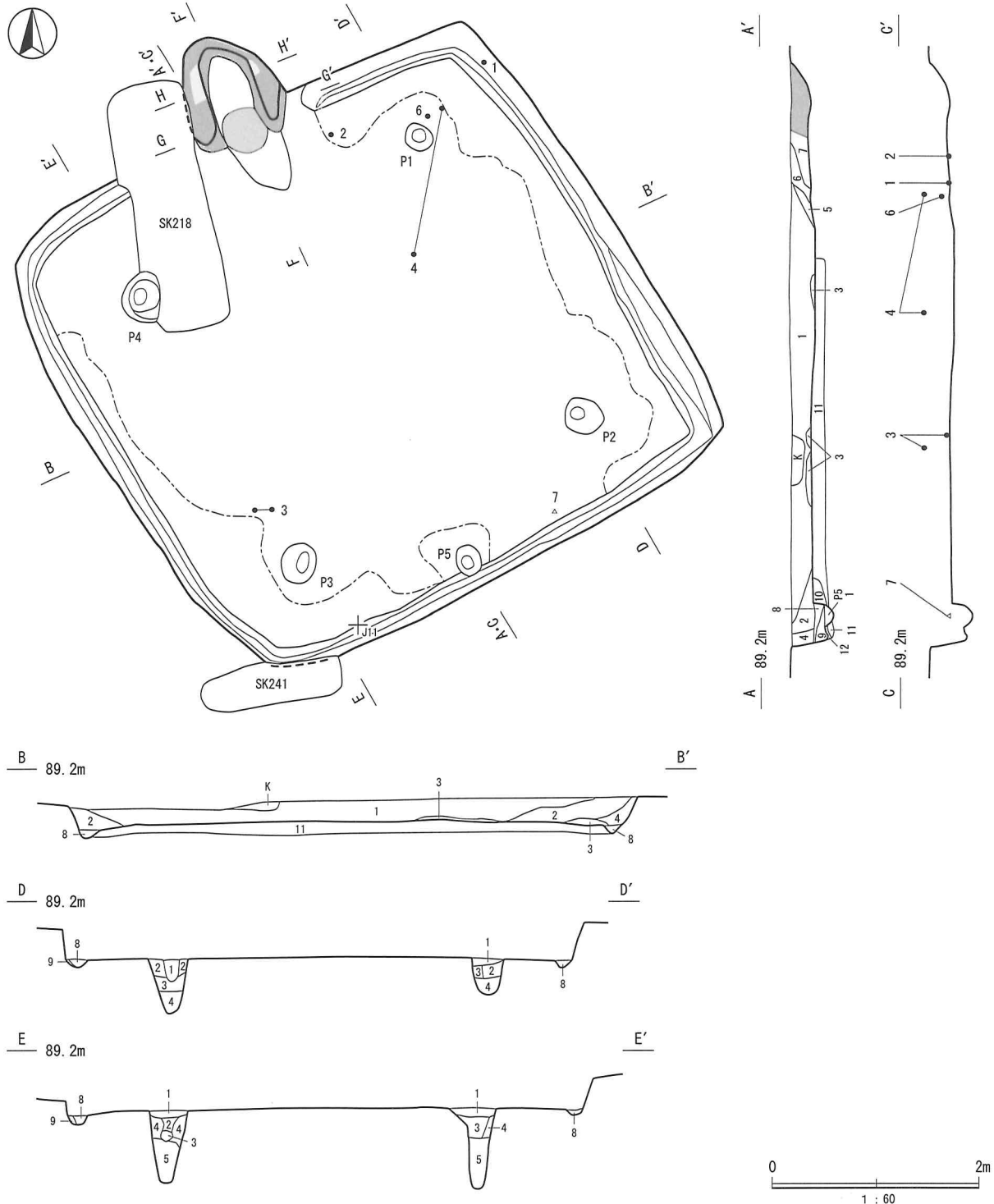
カマド 北壁中央東寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 140cm である。

袖部の基部の最大幅は約 100cm で、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化

している。床面から5cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。なお、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。

土層 8層に分層できる。炭化材や焼土粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。10～12層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット5か所を検出した。P1～P4は支柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1：30×24cm、深さ40cm、P2：38×32cm、深さ66cm、P3：36×35cm、深さ90cm、P4：50×38cm、



第19図 第14号竪穴建物跡実測図

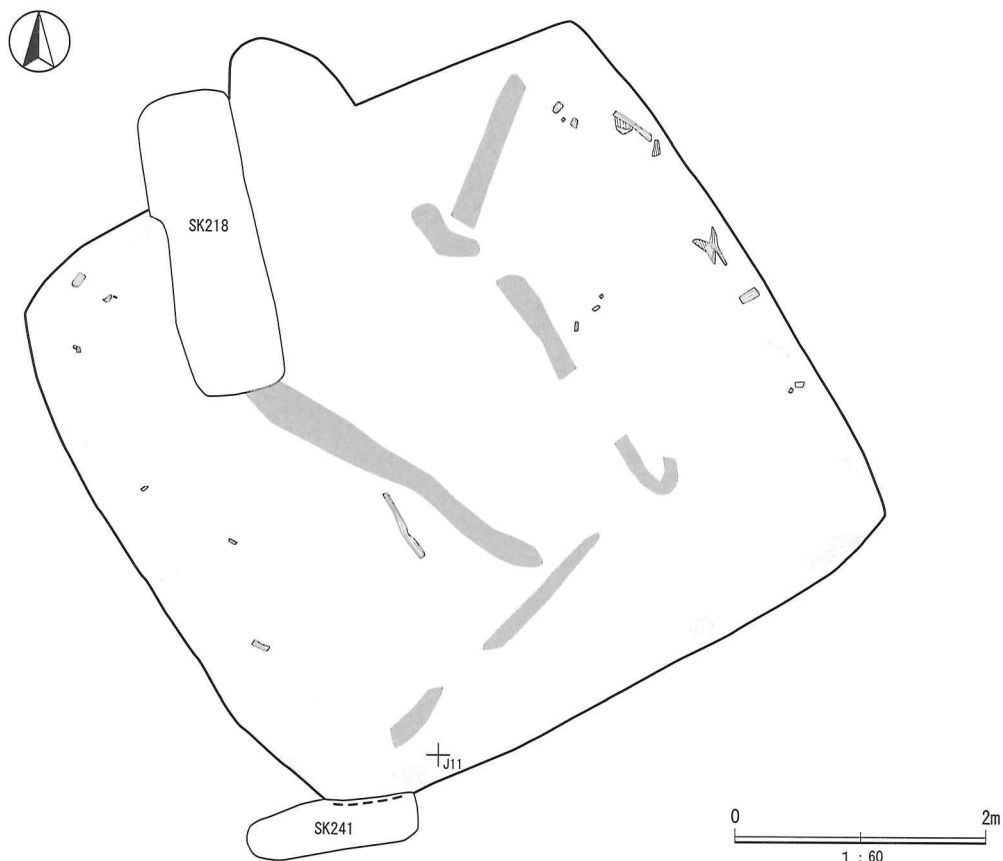
SI14 土層解説

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 2 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 3 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化物中量・粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量 焼土粒子少量 炭化物・粒子少量/粘性あり 締まりなし
- 5 5YR2/3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 6 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 7 5YR2/4 極暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物少量・粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 8 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 9 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物微量・粒子多量/粘性あり 締まりなし (掘方)

- 10 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物中量・粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 11 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 炭化物微量・粒子中量/粘性あり 締まりなし
- 12 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりなし

SI14 ビット土層解説 (P1～P5)

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量 粘土粒子微量/粘性あり 締まりあり
- 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりなし
- 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりなし

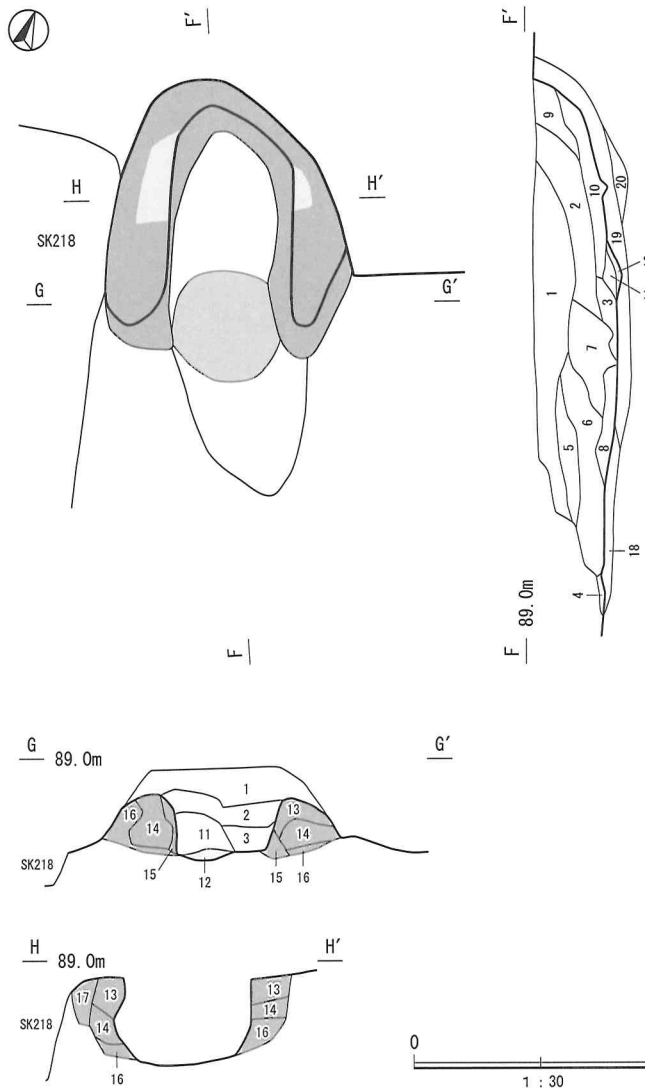


第 20 図 第 14 号堅穴建物跡炭化材・焼土範囲実測図

深さ 100cm、P 5 : 26 × 22cm、深さ 20cmである。

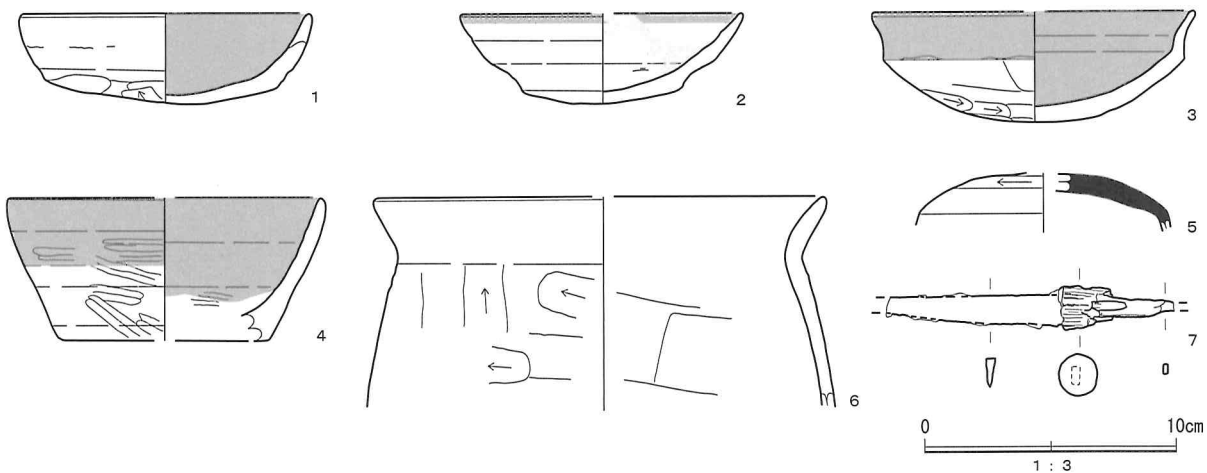
遺物出土状況 土師器片 125 点 [坏 41 点 (532g)、埴 1 点 (48g)、甕 83 点 (1,939g)]、須恵器片 3 点 [蓋 1 点 (19g)、甕 2 点 (36g)]、鉄製品 1 点 [刀子 1 点 (11g)]、石 14 点 (3,400g)。1 の土師器坏は北東コーナー、2 の土師器坏はカマド前、7 の刀子は南壁の床面から出土している。3 の土師器坏は南西部の床面から覆土中層にかけて出土している。5 の土師器甕は覆土中、4 の土師器埴は北東部の覆土中層、6 の土師器甕は北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀後葉と考えられる。床面から炭化材や焼土が確認されたことから、燃失家屋と推測される。出土している土器類は建物廃絶時に投棄されたものと考えられる。



SI14 カマド土層解説

- 1 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量 灰白色粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物微量・粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 4 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子多量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 5 5YR4/2 灰褐色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子多中量/粘性あり 縮まりあり
- 6 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 7 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 8 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 9 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 10 2.5YR5/8 明赤褐色 焼土ブロック・粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 11 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 12 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック少量 焼土粒子多量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 13 5YR5/1 褐灰色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 14 5YR4/1 褐灰色 焼土粒子微量 炭化粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 15 5YR4/1 褐灰色 焼土粒子微量 炭化粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 16 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 17 5YR2/3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 18 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 19 2.5YR4/1 赤灰色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 灰少量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 20 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰中量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし



第 21 図 第 14 号堅穴建物跡カマド・出土遺物実測図

第7表 第14号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.3	3.4	—	細砂	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ 底部不定方向のヘラ削り 内面ヘラナデ 内面黒色処理	北東コーナー床面	95% 図版 14
2	土師器	坏	[11.0]	3.5	—	細砂	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ 底部一方向のヘラ削り 内面ヘラナデ 内面黒色処理	カマド前床面	70% 図版 14 漆付着
3	土師器	坏	[12.8]	(4.3)	—	長石・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 外面横位のヘラ削り 体部内面横位のヘラナデ 内面黒色処理	南西部床面・覆土中層	25% 図版 14
4	土師器	碗	[12.4]	5.6	[8.2]	細砂	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラ磨き 内外面黒色処理	北東部覆土中層	10% 図版 14
5	須恵器	蓋	—	(2.3)	—	長石・石英	褐灰	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部剥離	覆土中	15% 図版 14 不明
6	土師器	甗	[17.6]	(8.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 外面横位と縦位のヘラ削り 体部内面横位のヘラナデ	北東部覆土下層	10% 図版 14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
7	刀子	(11.4)	0.42 ~1.2	0.35	(12.0)	鉄	茎部長さ 4.5cm 木質遺存 刃部長さ 6.9cm 先端欠損。	南壁床面	図版 14

第8表 古墳時代堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・ カマド	貯蔵穴			
13A	J11	N-10°-E	方形	5.95 × 4.90	50	平坦	全周	4	1	—	北壁	1	土師器 須恵器	7C 後葉	SI13B → 本跡
13B	J11	N-10°-E	[長方形]	[5.40 × 3.40]	50	平坦	—	4	2	1	北壁	—	—	7C 後葉以前	本跡 → SI13A
14	I10 ~ I11	N-30°-W	方形	5.48 × 5.22	20	平坦	全周	4	1	—	北西壁	—	土師器 鉄製品	7C 後葉	本跡 → SK218・241

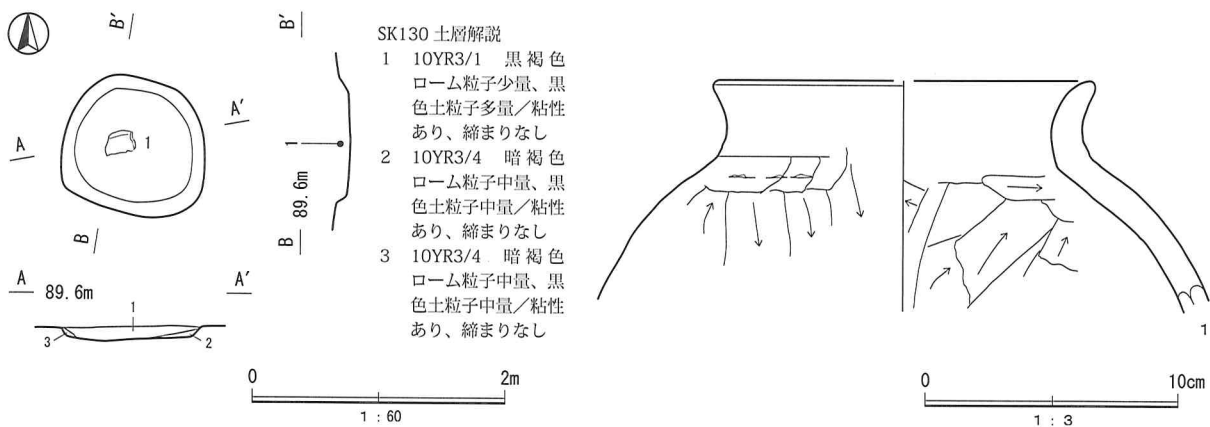
(2) 土坑

第130号土坑 (SK130) (第22図、第9表、図版4・14)

位置 調査区中央部。E 5グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.26m、短径 1.16m の円形で、長径方向は N-45°-W である。深さ 10cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第1層は若干のロームブロックが含まれることから人為堆積と考えられる。



第22図 第130号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点〔壺2点(268g)、甕1点(5g)〕。1の土師器壺は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第9表 第130号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[14.8]	(9.0)	—	長石・石英・角閃石・チャート・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面斜位のヘラ削り	中央部 覆土中層	10% 図版14

(3) 溝跡

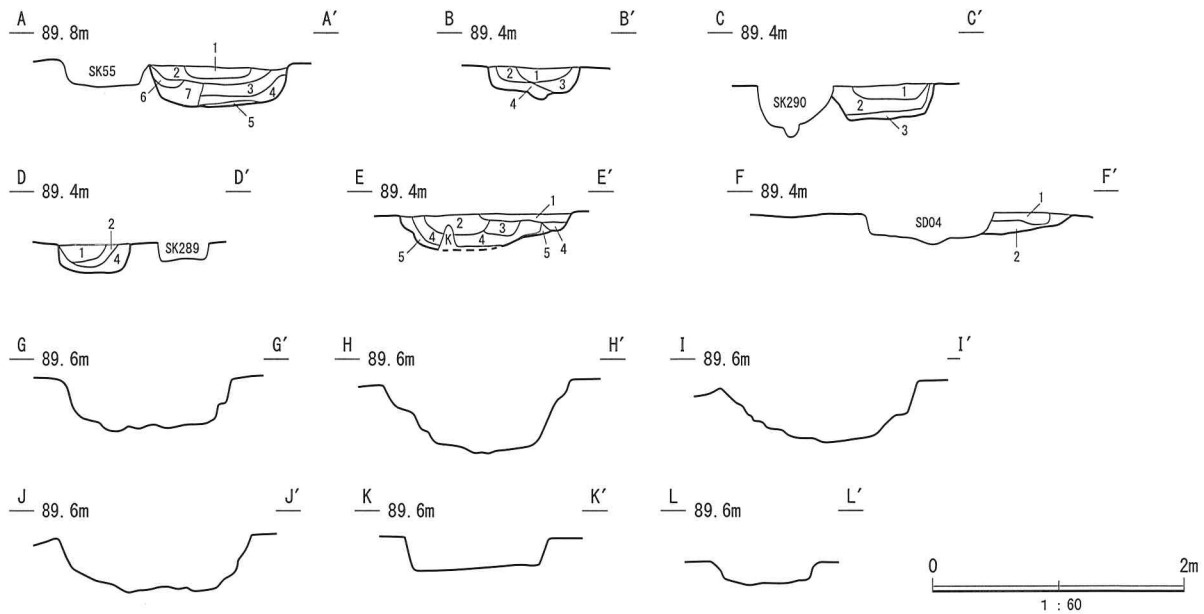
第3号溝跡 (SD03) (全体図・第23図、第10表、図版4・14)

位置 調査区中央部A12～H9グリッド、標高89mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部が調査区外に延びており、第55・290・338号土坑を掘り込み、第4号溝跡に掘り込まれている。

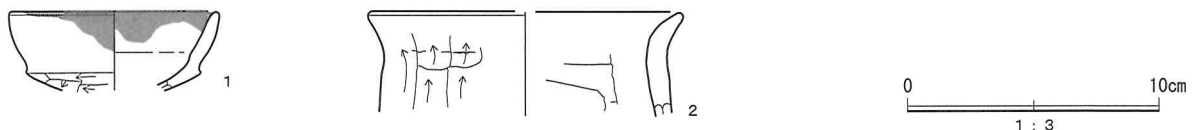
規模と形状 全長80.22mしか確認できなかった。上幅60～80cm、下幅20～40cm、深さは30～40cmである。

G10グリッドから北北東方向(N-15°-E)になだらかに湾曲しながら延びている。断面形は逆台形状である。



SD3 土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 10YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量、黒色土粒子多量/粘性あり、縮まりあり | 3 10YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子多量、黒色土粒子少量/粘性あり、縮まりあり |
| 2 10YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量、黒色土粒子中量/粘性あり、縮まりあり | 4 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量、黒色土粒子中量/粘性あり、縮まりあり |



第23図 第3号溝跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師土器片 13点 [坏4点 (27g)、甕9点 (139g)] 出土している。1の土師器坏は南東部の覆土下層、2の土師器甕は南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から、古墳時代後葉と考えられる。北側延長線上に南原古墳が存在していることから、古墳との関連も推定される。

第10表 第3号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[8.0]	(3.1)	—	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	南東部 覆土下層	10% 図版14 内外面煤付着
2	土師器	甕	[12.2]	(4.6)	—	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	南東部 覆土中層	5% 図版14

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡 15棟、掘立柱建物跡 3棟、井戸跡 2基、土坑 1基を確認した。以下、確認した遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡 (SI01) (第24～27図、第11・24表、図版4・14・15)

位置 調査区西部 G 1～H 1 グリッドに位置し、標高 89 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第3号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.76 m、短軸 3.70 mで、平面形は方形である。主軸方位は N - 10° - E である。壁は確認面から最大高 40cmで、ほぼ直立している。壁溝は、確認できなかった。

床 カマドから中央部にかけて踏み固められている。

カマド 北壁中央にあり、礫混じりの暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 115cmである。袖部の基部の最大幅は約 110cmで、西袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 5 cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

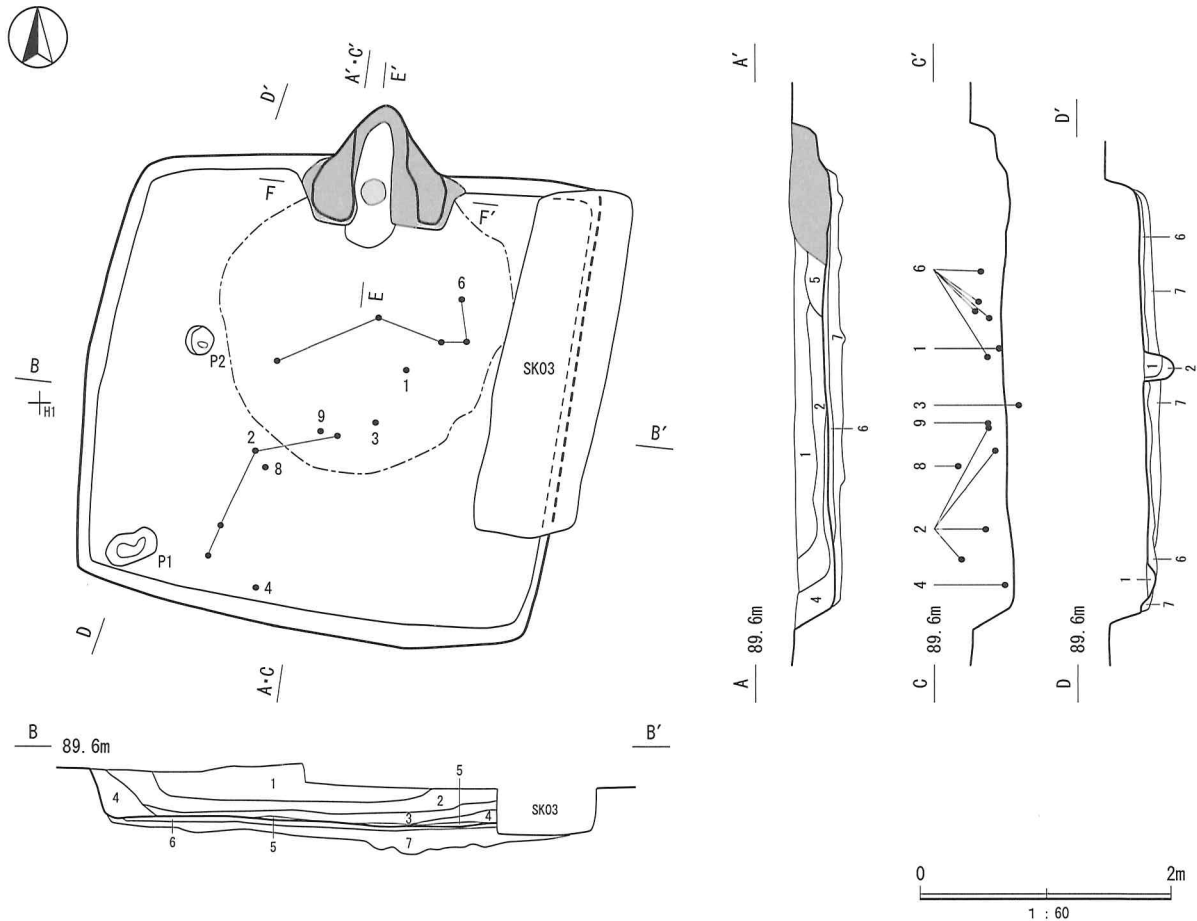
土層 5層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。6・7層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット 2か所を検出した。P 1 : 40 × 28cm、深さ 10cm、P 2 : 22 × 22cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況 土師器片 110点 [坏 37点 (381g)、手捏土器 1点 (52g)、甕 72点 (766g)]、須恵器片 50点 [坏 1点 (52g)、甕 49点 (2,672g)]、石 5点 (2,496g)。1の土師器坏、3の須恵器横瓶は中央部の床面と床面下から出土している。2の須恵器坏は南部の覆土下層から上層にかけて出土している。4の須恵器長頸

瓶は南壁の覆土下層から、6の須恵器甕はカマド前の覆土下層から中層にかけて、8の須恵器甕は中央部の覆土上層から、9の土師器手捏は中央部の覆土中層から、それぞれ出土している。5・7の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。3の横瓶が床面下から出土していることから、構築時期に入り込んだものと推測される。



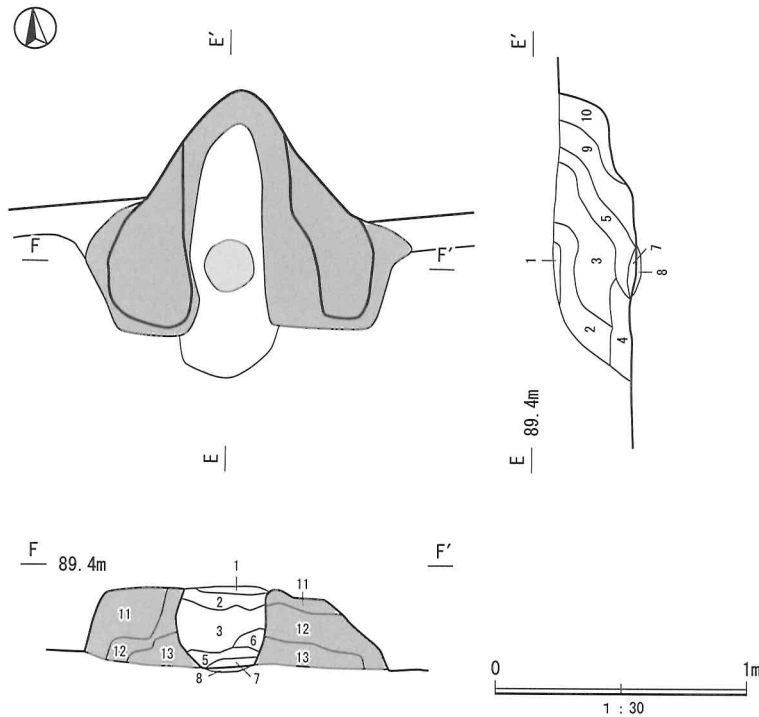
SI01 土層解説

- 1 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子少量 焼土粒子微量/粘性なし 縮まりあり
- 2 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量/粘性なし 縮まりややあり
- 3 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子極微量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR2/1 黒色 ロームブロック微量・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 6 5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子微量 粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 7 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり (掘方)

SI01 ピット土層解説

- P1
 - 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- P2
 - 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子中量 焼土粒子微量/粘性なし 縮まりなし
 - 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

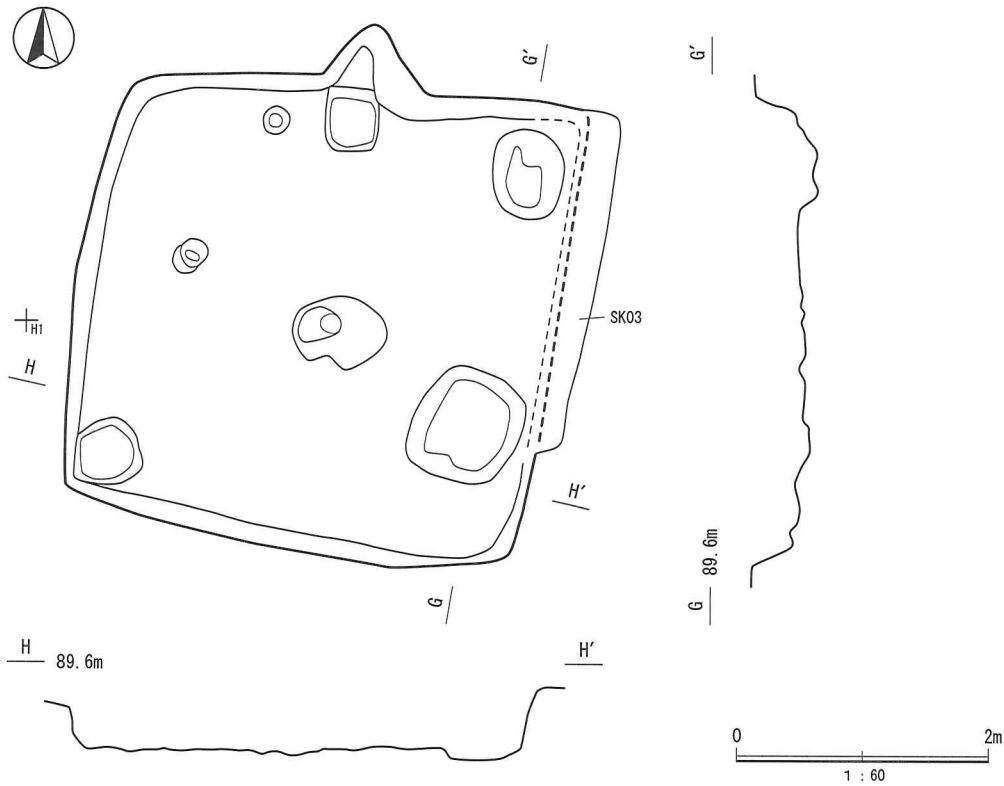
第24図 第1号堅穴建物跡実測図



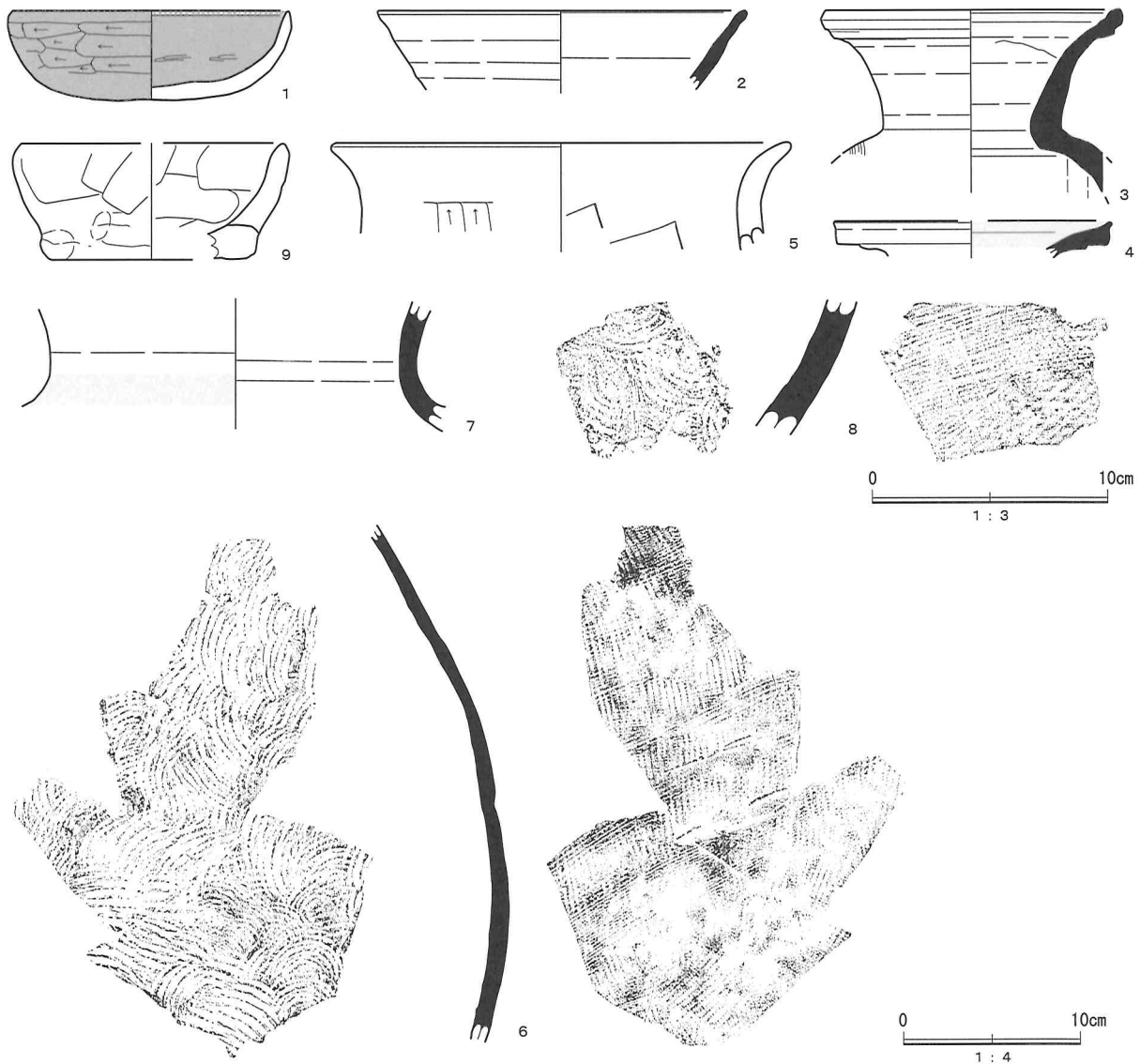
SI01 カマド土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 焼土粒子微量 暗褐粘土粒子 / 粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR2/2 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子微量 暗褐粘土粒子中量 / 粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐粘土粒子多量 / 粘性あり 縮まりあり
- 4 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐粘土粒子少量 / 粘性あり 縮まりなし
- 5 5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性なし 縮まりなし
- 6 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子多量 暗褐粘土粒子少量 / 粘性なし 縮まりなし
- 7 5YR2/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐粘土粒子中量 / 粘性なし 縮まりなし
- 8 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 今市パミス少量 黒色土粒子中量 / 粘性なし 縮まりあり
- 9 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック中量 焼土粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック少量 焼土粒子多量 炭化粒子中量 / 粘性なし 縮まりなし
- 11 2.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 / 粘性なし 縮まりあり
- 12 2.5YR4/2 灰赤色 焼土粒子中量 暗褐粘土粒子多量 / 粘性あり 縮まりあり
- 13 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物少量 炭化粒子中量 / 粘性なし 縮まりなし

第25図 第1号竪穴建物跡カマド実測図



第26図 第1号竪穴建物跡掘方実測図



第 27 図 第 1 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 11 表 第 1 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.6]	3.8	—	長石・石英	明黄橙	不良	口縁部から体部ナデ 体部内面ヘラミガキ面横位のヘラ削り 内外面黒色処理 丸底	外 中央部床面	70% 図版 14
2	須恵器	坏	[15.6]	(3.3)	—	長石	灰白	普通	口縁部から体部ロクロナデ	南部覆土 下層～上層	10% 図版 14 三森山麓窯
3	須恵器	横瓶	[12.5]	(7.7)	—	長石・鉄分	灰 オリーブ	良好	口縁部ロクロナデ	中央部 床面下	5% 図版 14 益子窯
4	須恵器	長頸瓶	[11.6]	(1.2)	—	長石・石英	黒褐	普通	口縁部ロクロナデ 内面自然釉	南壁 覆土下層	5% 図版 14 益子窯
5	土師器	甗	[19.0]	(4.6)	—	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	口縁部から体部片 内外面横ナデ 体部内面横位のヘラナデ 外面縦位のヘラ削り	覆土中	5% 図版 15
6	須恵器	甗	—	(31.8)	—	長石・石英	褐灰	良好	体部片 外面細かい格子目の叩き後横位のカキ目 一部自然釉 内面同心円の当具痕	カマド前覆土 下層～中層	5% 図版 14 益子窯
7	須恵器	甗	—	(5.4)	—	長石・石英	褐灰	良好	頸部ロクロナデ 頸部下端縦位の平行叩き自然釉	覆土中	5% 図版 15 益子窯
8	須恵器	甗	—	(5.6)	—	長石・石英	灰黄	不良	外面横位の平行叩き後横位のカキ目 内面同心円の当具痕	中央部 覆土上層	5% 図版 15 益子窯
9	土師器	手捏	[11.0]	4.9	[8.2]	角閃石・石英・スコリア	にぶい橙	不良	口縁部ナデ 体部から底部横位のヘラ削り 輪濟み痕 指頭痕あり	中央部 覆土中層	20% 図版 15

第2号竪穴建物跡 (SI02) (第28～32図、第12・24表、図版4・5・15・16)

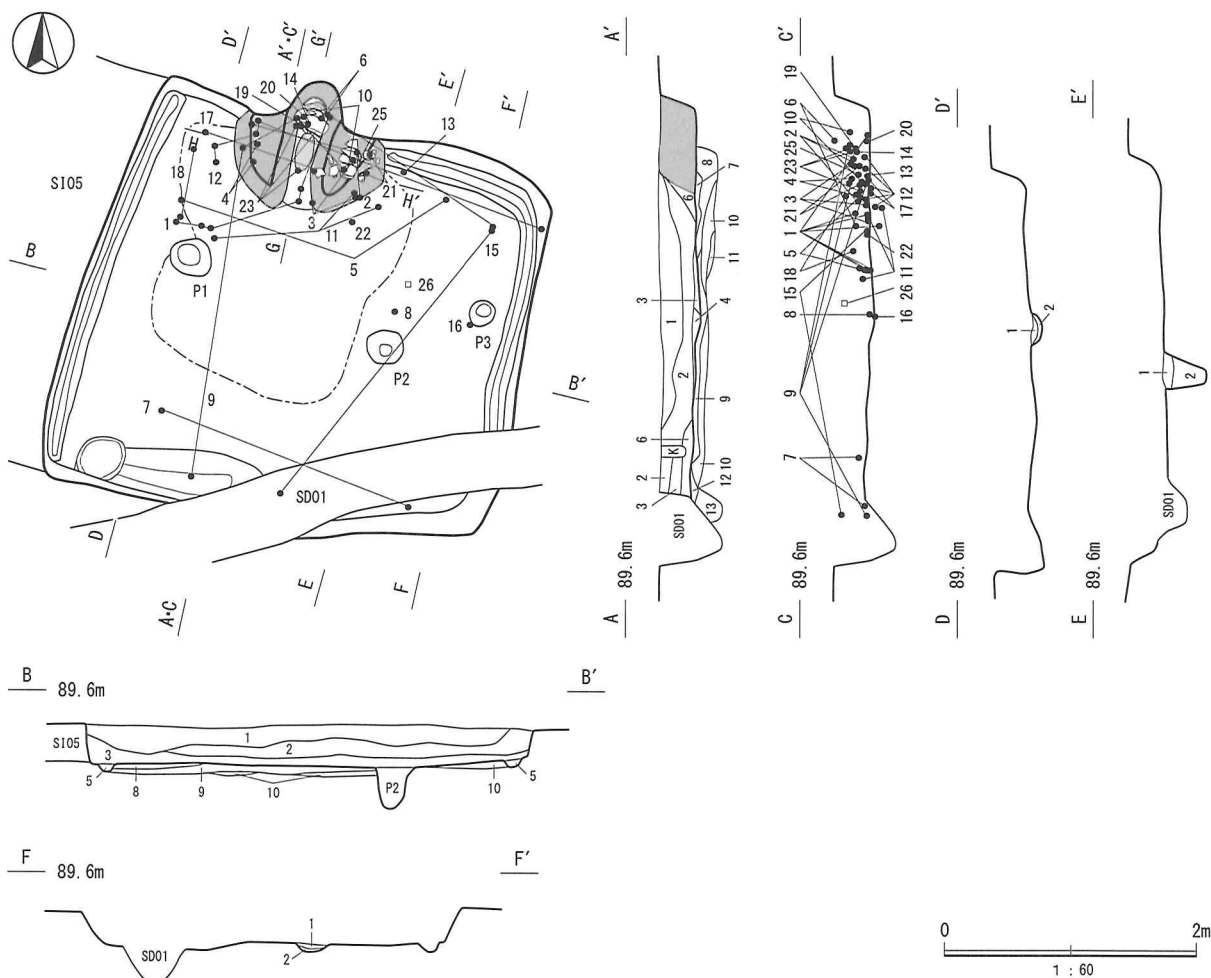
位置 調査区西部G 2～H 2グリッドに位置し、標高89 mの台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第5号竪穴建物跡を掘り込んで、第1号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60 m、短軸3.20 mで、平面形は長方形である。主軸方位はN-20°-Eである。壁は確認面から最大高28cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅10～20cm、下幅5～10cm、深さ10cmで全周している。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、カマド周辺は硬化している。

カマド 北壁中央左寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは100cmである。



SI02 土層解説

- | | | | | | | |
|----|----------|------|-------------------|--------------|-----------------|------------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性なし | 縮まりなし |
| 2 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子中量 | 炭化物少量・粒子中量/粘性なし | 縮まりなし |
| 3 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし |
| 4 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりあり |
| 5 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子少量/粘性なし | 縮まりなし |
| 6 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし |
| 7 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 炭化粒子中量 | 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり | 縮まりあり (掘方) |
| 8 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 炭化粒子多量 | 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり | 縮まりあり |
| 9 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| 10 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりあり |
| 11 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量/粘性あり | | | 縮まりあり |
| 12 | 7.5YR4/6 | 褐色 | ロームブロック中量 | ローム粒子多量/粘性あり | | 縮まりあり |
| 13 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | | 縮まりなし |
- SI-02 ピット土層解説 (P1～P3)
- | | | | | | |
|---|----------|-----|---------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |

第28図 第2号竪穴建物跡実測図

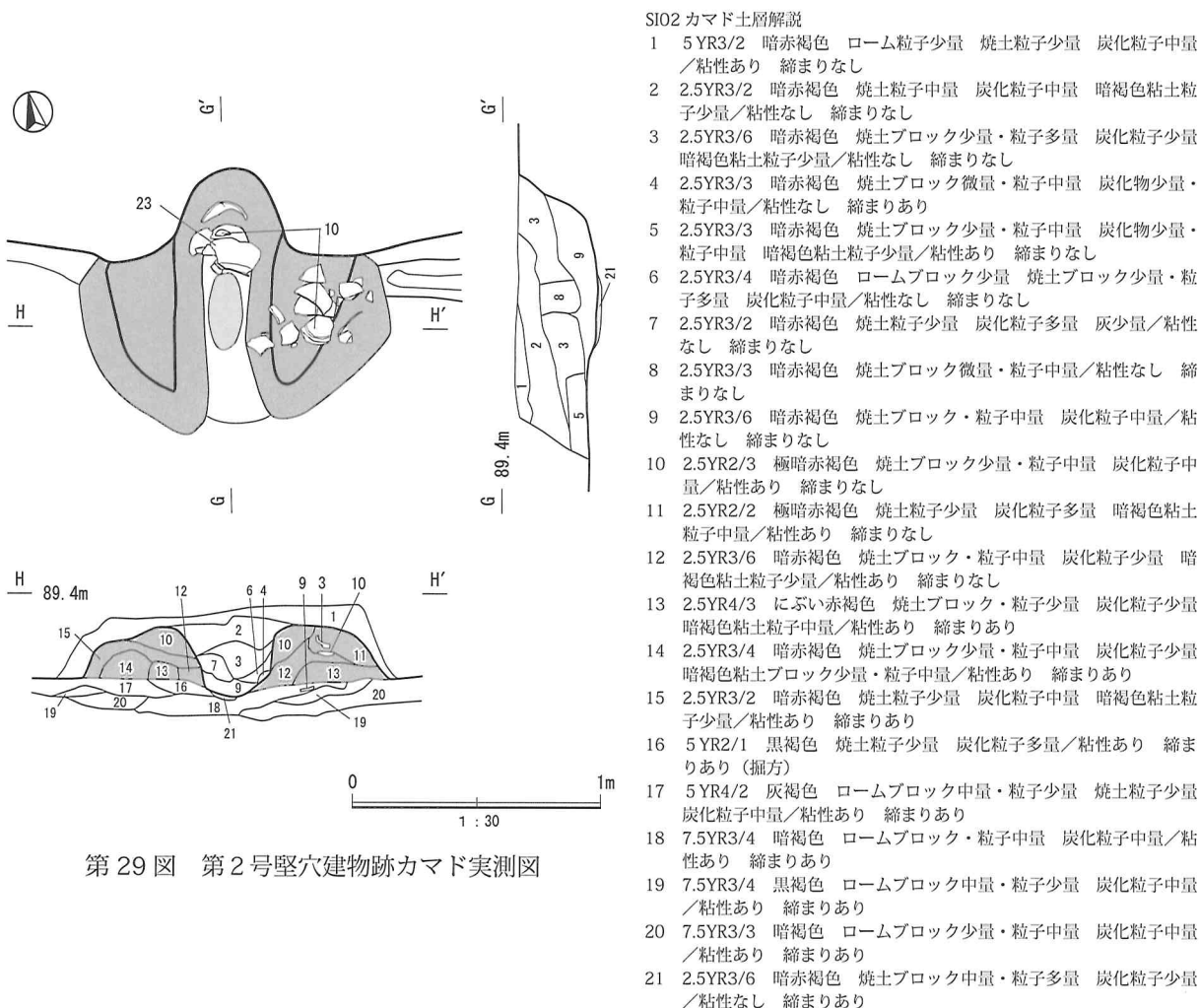
袖部の基部の最大幅は約 120cmで、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から7cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 5層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。7～12層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット3か所を検出した。P 1 : 35 × 30cm、深さ 10cm、P 2 : 30 × 24cm、深さ 34cm、P 3 : 22 × 20cm、深さ 8cmである。

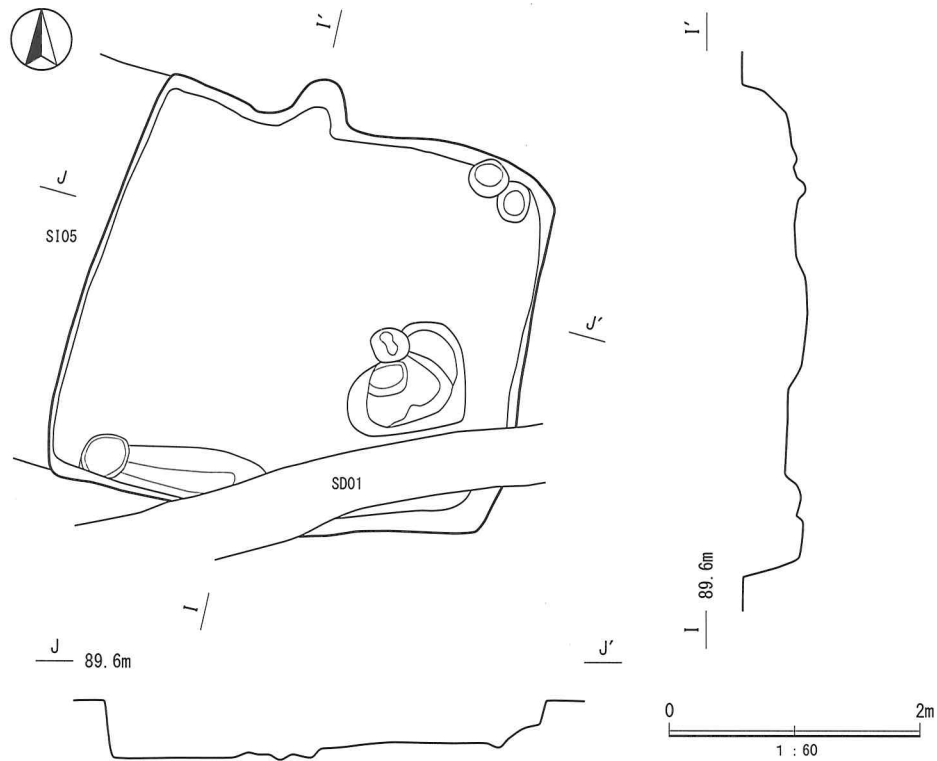
遺物出土状況 土師器片 200点 [坏 70点 (1,503g)、壺 1点 (125g)、甕 129点 (2,722g)]、須恵器片 38点 [坏 9点 (74g)、高台付坏 6点 (892g)、蓋 3点 (179g)、長頸瓶 1点 (63g)、甕 4点 (50g)]、粘土塊 3点 (44g)、石 6点 (2,000g)。1・3の土師器坏、11の須恵器高台付坏、17・22の土師器甕はカマド前の床面、7の土師器坏は南部、8の須恵器高台付坏は中央部の床面から出土している。2・6の土師器坏、9・10・12・14の須恵器高台付坏、19・20・23の土師器甕はカマド内から出土している。4の土師器坏はカマド左袖内、13の須恵器高台付坏、21の土師器甕と25の須恵器甕はカマド右袖内からそれぞれ出土している。15の須恵器蓋は北東コーナー部の床面、16の須恵器長頸瓶は東部の床面、5の土師器坏はカマド前の覆土中層、18の土師器甕は北西部の覆土中層、26の石製紡錘車は北東部上層、24の土師器甕は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。第5号竪穴建物跡と同規模で、床面の高さも同じであ



第 29 図 第 2 号竪穴建物跡カマド実測図

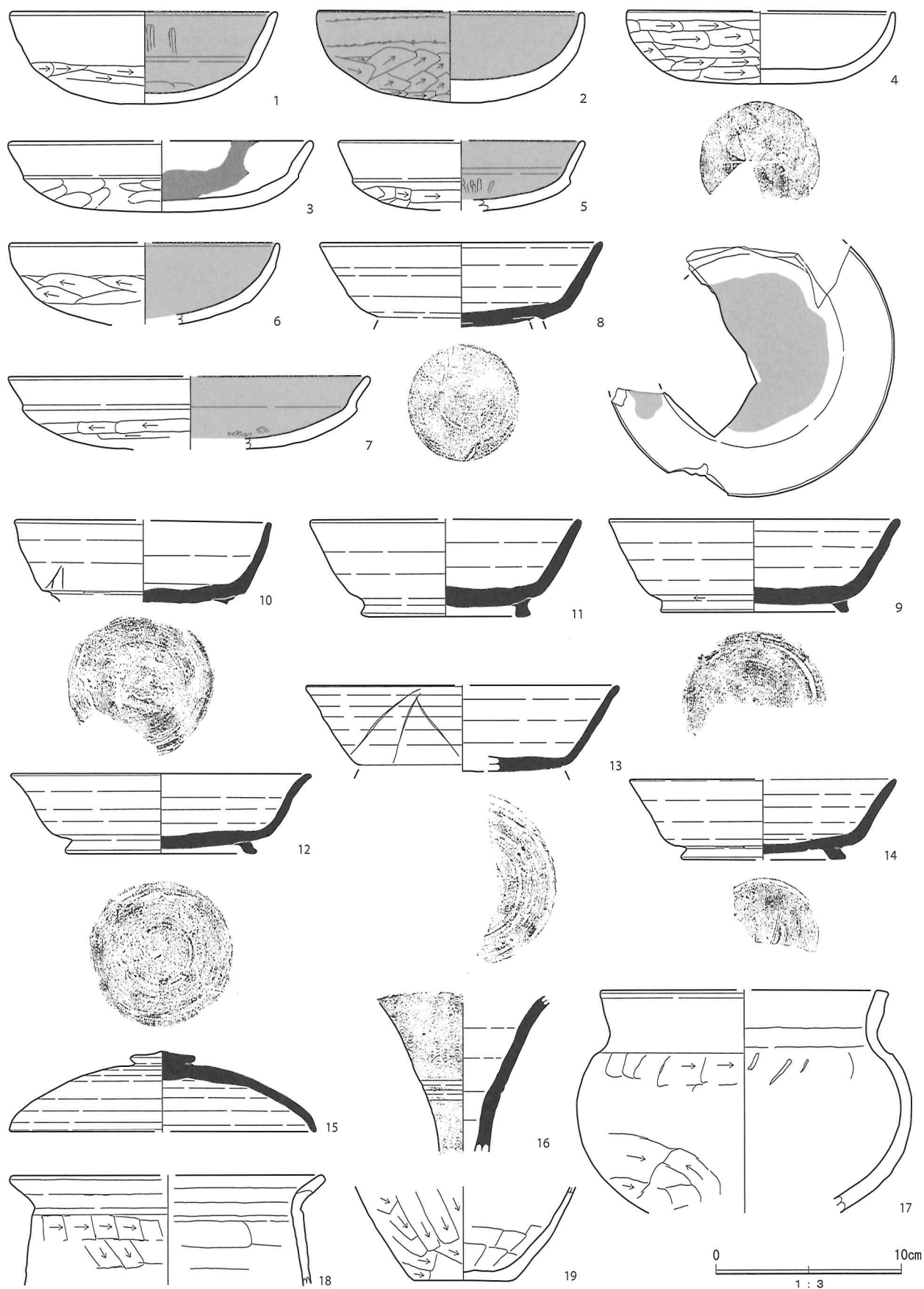
ることから、本跡は第5号堅穴建物跡を建て替えて構築された可能性が高い。



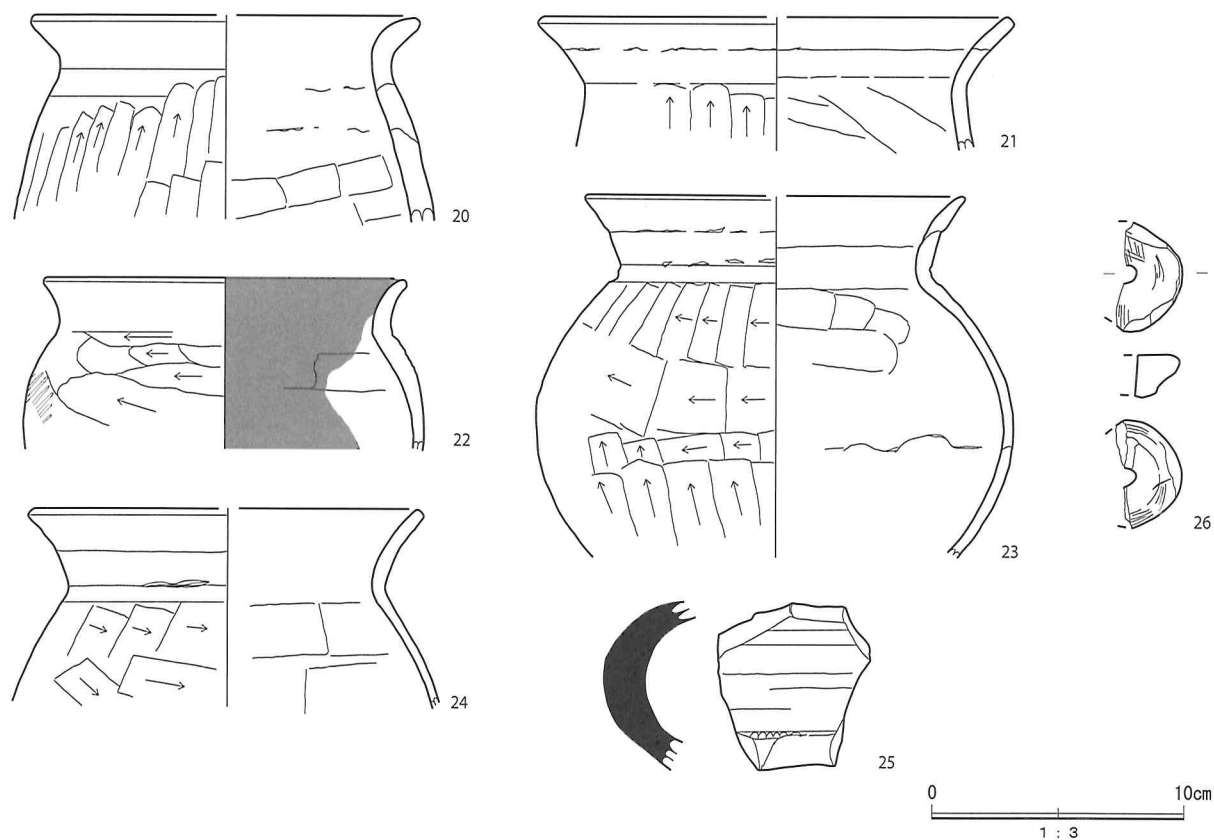
第30図 第2号堅穴建物跡掘方実測図

第12表 第2号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.2	4.9	—	長石・石英	にぶい黄橙	不良	口縁部から体部横ナデ 体部内面ヘラミガキ 外面横位のヘラ削り 内面黒色処理	カマド前床面	80% 図版15
2	土師器	坏	[14.2]	4.9	—	石英・赤色粒子・細砂	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内外面黒色処理	カマド内	60% 図版15
3	土師器	坏	16.1	3.7	—	細砂・スコリア・赤色粒子	にぶい褐	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	カマド前床面	50% 図版15 内面油煙付着
4	土師器	坏	[14.4]	3.5	—	長石・チャート・赤色粒子	橙	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	カマド左袖内	45% 図版15 底部「—」のヘラ記号
5	土師器	坏	[13.2]	(3.6)	—	石英・細砂	明黄橙	不良	口縁部から体部横ナデ 体部内面放射状のヘラミガキ 外面横位のヘラ削り 内面黒色処理	カマド前覆土中層	40% 図版15
6	土師器	坏	[14.4]	(4.3)	—	長石・雲母	橙	良好	口縁部から体部ナデ 体部内面ヘラミガキ 外面横位のヘラ削り 内面黒色処理	カマド内	30% 図版15
7	土師器	坏	[19.3]	3.9	—	長石・石英	にぶい橙	不良	口縁部から体部片 口縁部内面横ナデ 体部内面ヘラミガキ 外面横位のヘラ削り 内面黒色処理	南部床面	30% 図版15
8	須恵器	高台付坏	15.1	(4.6)	—	長石・石英・チャート	灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中央部床面	80% 図版15 底部「サ」ヘラ記号 益子窯
9	須恵器	高台付坏	15.6	5.0	10.0	長石・石英	灰黄	良好	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	カマド内・南部床面	50% 図版15 益子窯 内面硯転用
10	須恵器	高台付坏	[12.6]	(4.3)	—	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 体部内面粘土貼り付けナデ 底部回転ヘラ切り後中央部一方向のヘラナデ	カマド内	50% 図版15 体部外面「□」ヘラ記号 益子窯
11	須恵器	高台付坏	[14.4]	5.2	8.5	長石・鉄分	褐灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ 高台回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	カマド前床面～カマド右袖内	50% 図版15 益子窯
12	須恵器	高台付坏	[16.0]	(4.3)	[10.0]	長石・石英・鉄分	灰	良好	口縁部から体部ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	カマド内・北西コーナー床面	40% 図版15 益子窯
13	須恵器	高台付坏	[16.8]	<4.6>	—	長石・石英	浅黄	不良	口縁部から体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	カマド右袖付近床面	30% 図版15 体部外面「□」ヘラ記号 益子窯



第 31 图 第 2 号 堅穴 建物跡 出土 遺物 実測 図 (1)



第 32 図 第 2 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2)

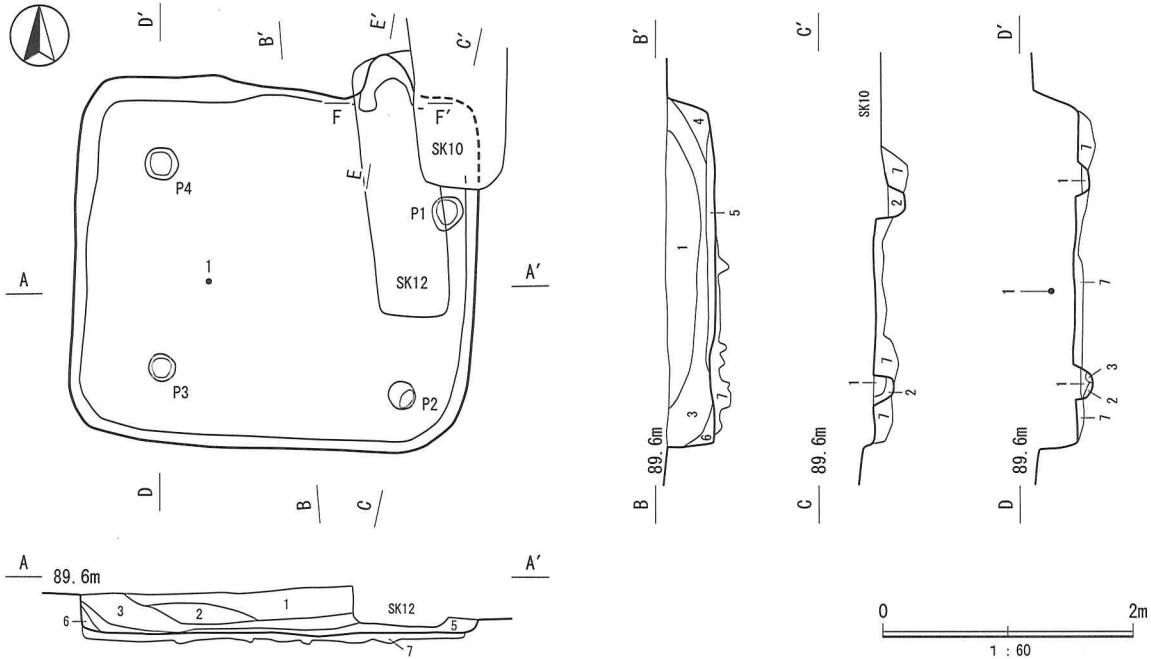
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
14	須恵器	高台付 坏	[14.2]	4.3	[8.7]	長石・石英	灰	良好	口縁部から体部ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	カマド内	30% 図版 15 体部外面「一」 ヘラ記号 益子窯
15	須恵器	蓋	[16.3]	4.3	—	長石・石英	灰	普通	つまみ部・天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り	北東コーナー・ 南部床面	20% 図版 16
16	須恵器	長頸瓶	—	(8.3)	—	長石・石英・白色粒子	灰	良好	頸部ロクロナデ 外面 7 本の櫛歯状工具による波状文	東部床面	5% 図版 16 益子窯
17	土師器	甗	[15.5]	(11.9)	—	長石・石英・チャート	明赤褐	不良	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面上部横位のヘラ削り 下部斜位のヘラ削り	カマド前床面・ カマド右袖内	15% 図版 16
18	土師器	甗	[16.6]	(5.9)	—	長石・石英・金雲母	橙	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	北西部 覆土中層	10% 図版 16
19	土師器	甗	—	(5.0)	5.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド内	10% 図版 16
20	土師器	甗	[15.0]	(8.0)	—	長石・石英・チャート・スコリア・角閃石	にぶい褐	普通	口縁部から体部片 口縁部横位のナデ 体部内面横位のヘラミガキ 外面横位のヘラ削り	カマド内	10% 図版 16
21	土師器	甗	[18.0]	(5.2)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ヘラナデ 体部外面斜位のヘラ削り	カマド 右袖内	10% 図版 16
22	土師器	甗	[14.0]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り後ナデ	カマド 前床面	10% 図版 16 内面油煙付着
23	土師器	甗	[14.8]	(14.2)	—	長石・石英・スコリア・角閃石	褐	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面上部横位のヘラ削り 下部斜位のヘラ削り	カマド内	5% 図版 16
24	土師器	甗	[15.1]	(7.8)	—	長石・石英	橙	不良	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り	覆土中	5% 図版 16
25	須恵器	甗	—	(6.6)	—	長石・石英・白色粒子	灰	普通	頸部片 ロクロナデ 頸部下端縦位の平行叩き	カマド 右袖内	5% 図版 16 益子窯
番号	種別	径	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴			出土位置	備考
26	紡錘車	4.3	3.7	1.7	23	滑石	孔径 06cm 各面研磨			北東部 覆土上層	50% 図版 16

第3号堅穴建物跡 (SI03) (第33・34図、第13・24表、図版5・16)

位置 調査区西部F1グリッドに位置し、標高89mの台地の平坦部に立地する。

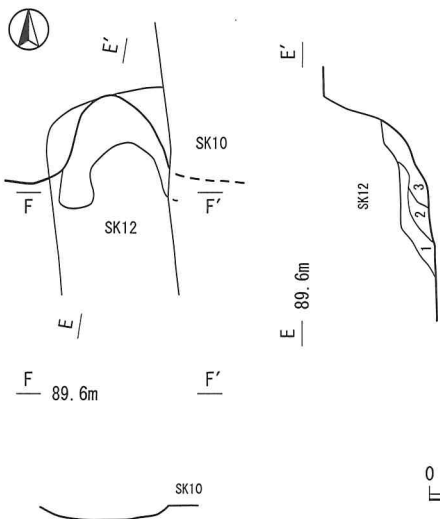
確認状況 ローム層上面で確認し、第10・12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.14m、短軸2.86mで、平面形は方形である。主軸方位はN-5°-Eである。壁は確認



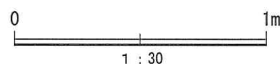
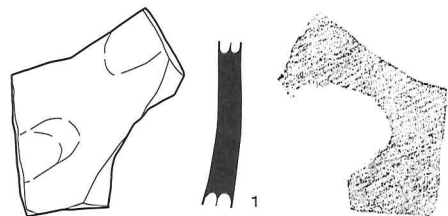
SI03 土層解説

- | | |
|---|--|
| 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし | 7 10YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり |
| 2 10YR4/3 褐色 ロームブロック少量・粒子多量 黒色土粒子少量/粘性なし 縮まりなし | |
| 3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし | SI-03 ピット土層解説 |
| 4 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし | 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし |
| 5 10YR2/3 黒褐色 ローム粒子微量 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし | 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量/粘性なし 縮まりあり |
| 6 10YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし | 3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり |



SI03 カマド土層解説

- 1 5YR3/2 暗赤褐色
ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐色
焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色
焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし



第33図 第3号堅穴建物跡・出土遺物実測図

面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

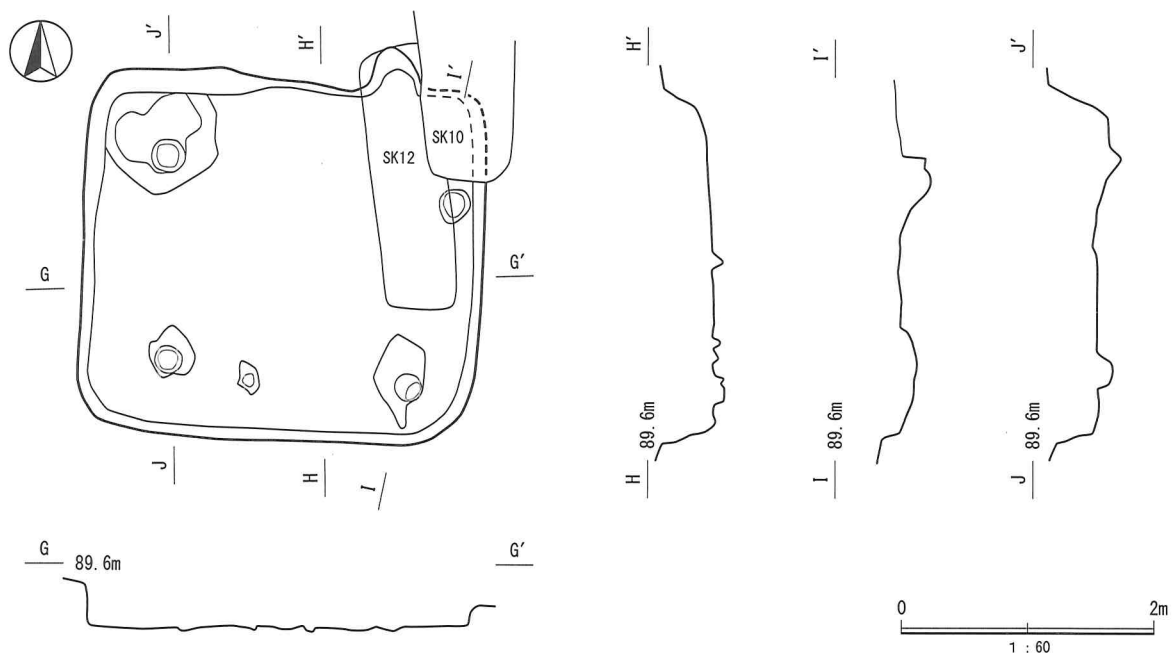
床 ほぼ平坦で、中央部を中心に全体が硬化している。

カマド 第 10・12 号土坑に掘り込まれ、北壁中央右寄りにあり、暗褐色粘土で構築されているのを確認する。土層 6層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。7層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット 4か所が検出された。P 1:20 × 20cm、深さ 22cm、P 2:20 × 20cm、深さ 15cm、P 3:25 × 25cm、深さ 15cm、P 4:25 × 25cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況 土師器片 25点[坏 5点(21g)、甕 20点(107g)]、須恵器片 160点[坏 1点(7g)、甕 1点(48g)]、石 1点(402g)。1の須恵器甕は中央部の覆土中層から出土している。

所見 図化できる出土遺物が少なく時期決定は難しいが、9世紀前葉と推測される。



第 34 図 第 3 号堅穴建物跡掘方実測図

第 13 表 第 3 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(8.1)	—	石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面平行叩き 内面無文の当て具痕	中央部 覆土中層	5% 図版 16 新治窯

第 4 号堅穴建物跡 (SIO4) (第 35・36 図、第 14・24 表、図版 5・16・17)

位置 調査区西部 E 1 グリッドに位置し、標高 89 m の台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第 10・11・51 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.78 m、短軸 2.40 m で、平面形は方形である。主軸方位は N - 15° - W である。壁は確認面から最大高 18cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、カマド前から中央部が硬化している。

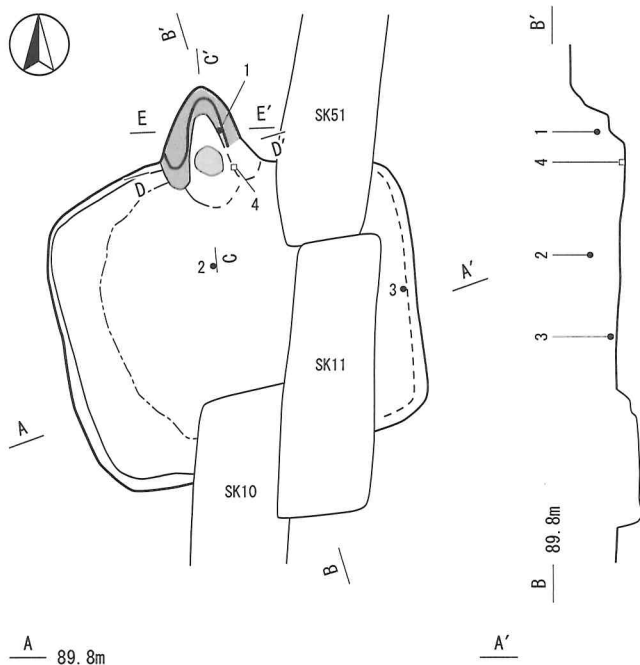
カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。右袖部は攪乱を受け現存していないが、左袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 5cm ほど掘りくぼめて火床面

が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 3層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。4層は貼床の構築土で、5層は掘方への埋土である。

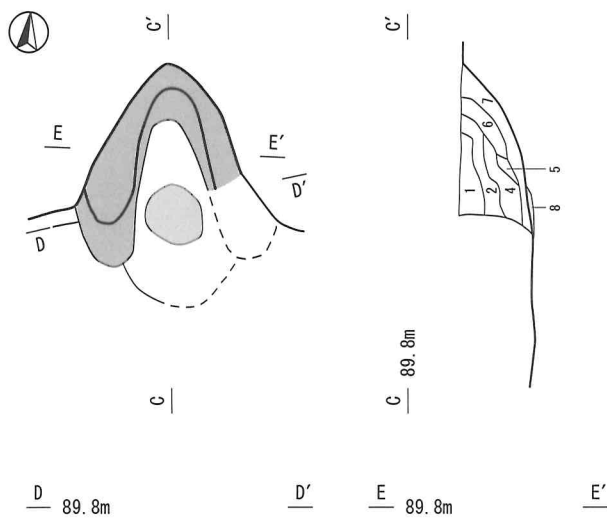
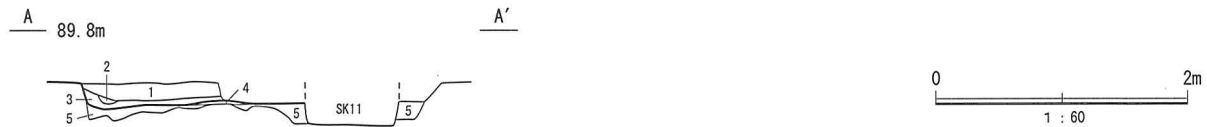
ピット 確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片 25点 [坏9点 (29g)、甕16点 (282g)]、須恵器片 238点 [坏3点 (30g)、高台付坏1点 (28g)、甕2点 (120g)]、石1点 (1,946g)。1の須恵器坏と4の支脚転用礫はカマド内、2の土



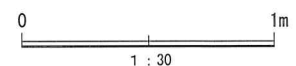
SI04 土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子少量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 4 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりあり (貼床)
- 5 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり (掘方)



SI04 カマド土層解説

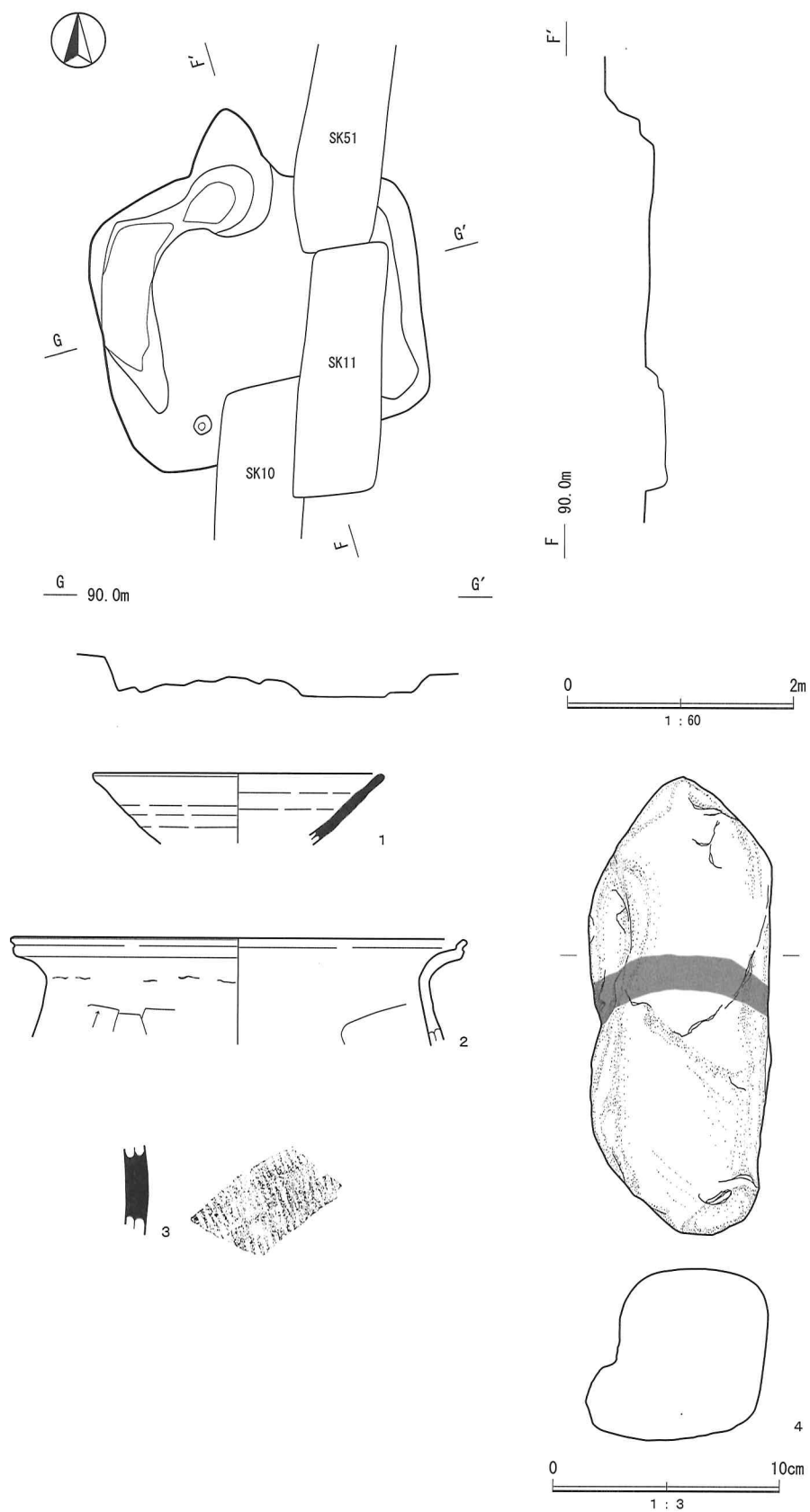
- 1 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 3 10YR3/3 暗褐色 暗褐色粘土多量/粘性あり 縮まりあり
- 4 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 5 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック多量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりあり
- 6 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子多量 粘土ブロック少量/粘性あり 縮まりあり
- 7 2.5YR4/1 赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 灰中量/粘性なし 縮まりなし
- 8 5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土ブロック微量・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりあり (火床面)
- 9 5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量 粘土ブロック少量/粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR4/1 赤灰色 焼土粒子微量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 11 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 12 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし



第35図 第4号竪穴建物跡実測図

師器甕はカマド前覆土中層、3の須恵器甕は東壁部の掘方内から出土している。

所見 今回の調査で一番小形の建物である。時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第36図 第4号堅穴建物跡掘方・出土遺物実測図

第 14 表 第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[12.6]	(3.2)	—	長石・石英・細礫	褐灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ	カマド内	10% 図版 16 益子窯
2	土師器	甗	[19.6]	(4.6)	—	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	カマド前 覆土中層	5% 図版 16
3	須恵器	甗	—	(4.0)	—	長石・石英	灰	普通	体部外面平行叩き	東壁掘方内	5% 図版 17 益子窯

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
4	支脚 転用	20.0	8.0	7.5	1946.0	斑縞岩	火熱痕	カマド内	中央部に帯状に煤付着 図版 17

第 5 号竪穴建物跡 (SI05) (第 37 図、第 15・24 表、図版 5・17)

位置 調査区西部 G 2～H 2 グリッドに位置し、標高 89 m の台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第 2 号竪穴建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸 3.30 m、東西軸 2.00 m だけ確認でき、平面形は方形と推測される。主軸方位は N - 20° - W である。壁は確認面から最大高 28cm で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅 20～35cm、下幅 5～8cm、深さ 10cm で確認内で全周する。断面形は U 字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に全体が硬化している。

カマド 東壁中央にあったと考えられ、第 2 号竪穴建物跡の床下から長径 65cm、短径 40cm 楕円形の範囲を確認した。

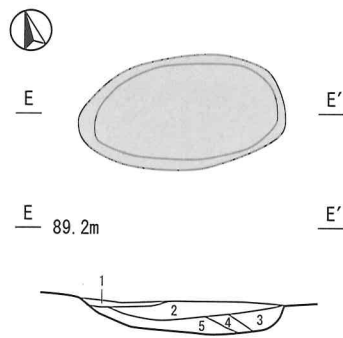
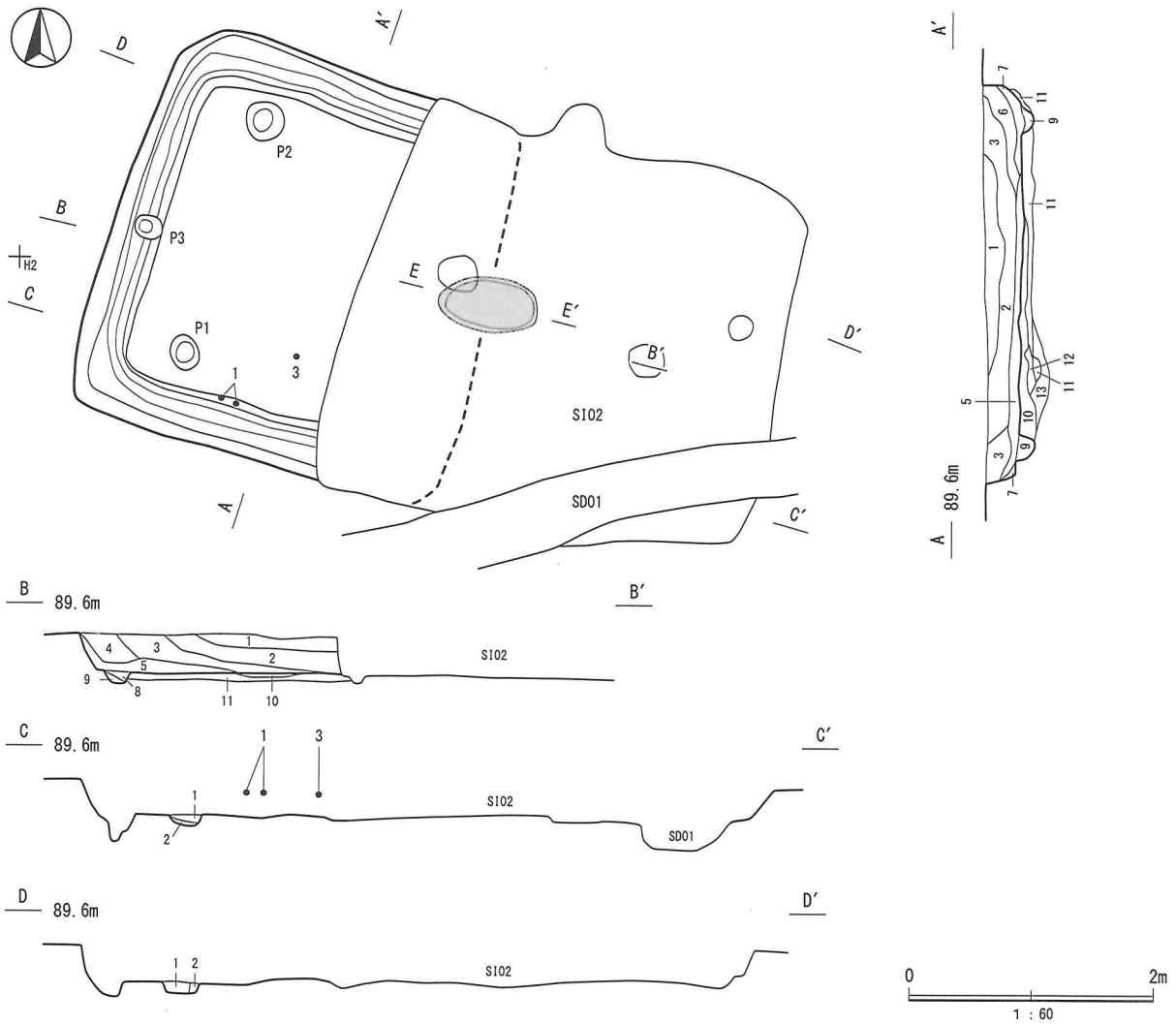
土層 9 層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。10～13 層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット 3 か所が検出された。P 1 : 25 × 30cm、深さ 15cm、P 2 : 30 × 30cm、深さ 12cm、P 3 : 25 × 20cm、深さ 15cm である。

遺物出土状況 土師器片 35 点 [坏 12 点 (94g)、甗 23 点 (372g)]、須恵器片 160 点 [坏 8 点 (63g)、甗 1 点 (57g)]、粘土塊 1 点 (5g)、石 1 点 (353g)。1 の土師器坏は南壁、3 の須恵器甗は南部の覆土中層から出土している。2 の須恵器坏は覆土中から出土しているが、流れ込みと考えられる。

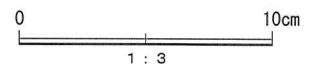
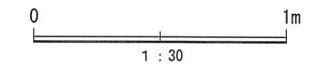
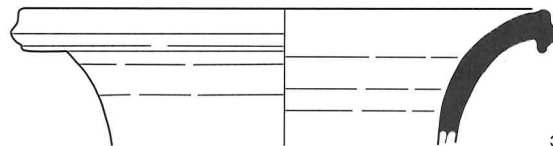
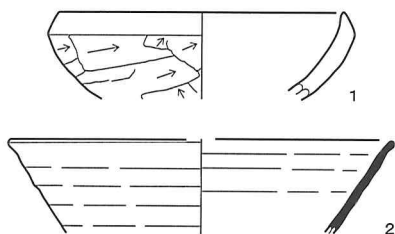
SI05 土層解説

1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘性なし	縮まりなし	11	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	
2	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子中量	焼土粒子中量	炭化粒子中量/粘性なし	縮まりなし	12	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	
3	5YR3/3	暗赤褐色	ローム粒子少量	焼土粒子中量	炭化粒子中量/粘性なし	縮まりなし	13	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック中量・粒子多量/粘性あり	縮まりあり		
4	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりなし	SI05 ピット土層解説						
5	7.5YR3/4	暗赤褐色	ロームブロック少量	・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	P1						
6	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子中量	焼土粒子少量	炭化粒子中量/粘性なし	縮まりなし	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし
7	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量	・粒子中量	黒色土粒子中量/粘性あり	縮まりなし	2	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり
8	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック	・粒子中量	黒色土粒子中量/粘性あり	縮まりあり	P2						
9	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック	・粒子中量	黒色土粒子中量/粘性あり	縮まりあり	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり
10	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック	・粒子中量	黒色土粒子少量/粘性あり	縮まりあり (掘方)	2	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり	



SI05 カマド土層解説

- 1 5 YR2/3 極暗赤褐色 ロームブロック微量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 3 5 YR3/3 暗赤褐色 ロームブロック少量・粒子微量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 4 5 YR3/2 暗赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 5 5 YR3/2 暗赤褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり



第37図 第5号堅穴建物跡・出土遺物実測図

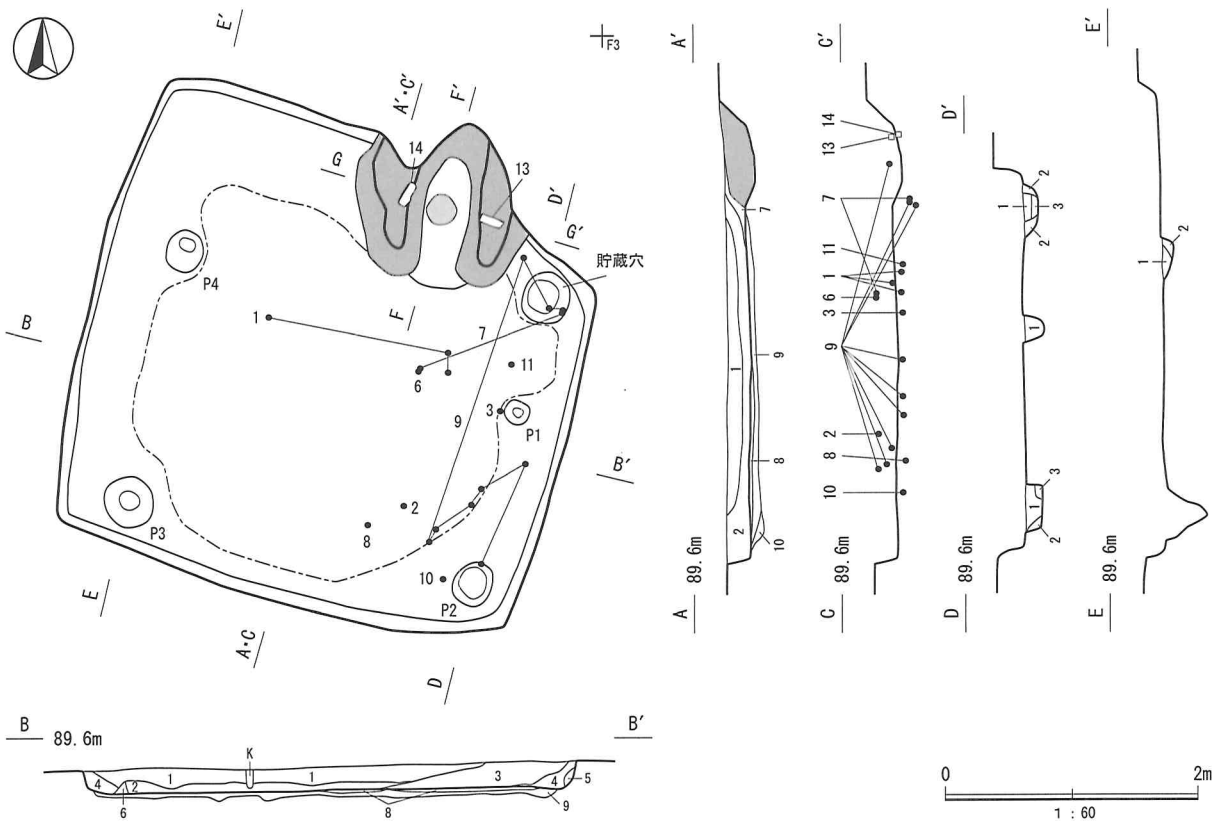
所見 時期は、重複関係と出土遺物から8世紀前葉の第2号堅穴建物跡より前と考えられる。規模・床面の高さなどがほぼ同一なため、本跡を建替えて第2号堅穴建物跡が構築された可能性が高い。

第15表 第5号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.2]	(2.4)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	南壁 覆土中層	10% 図版 17
2	須恵器	坏	[15.0]	(3.6)	—	細砂	灰黄	普通	口縁部から体部ロクロナデ	覆土中	5% 図版 17 三稜山麓窯
3	須恵器	甕	[20.6]	(5.4)	—	長石・石英	褐灰	普通	口縁部片 ロクロナデ 自然癒付着	南部 覆土中層	5% 図版 17 益子窯

第6号堅穴建物跡 (SI06) (第38～42図、第16・24表、図版5・17)

位置 調査区西部F2グリッドに位置し、標高89mの平坦部に立地する。



SI06 土層解説

- 1 7.5YR2/1 黒色 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 5 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 6 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量 黒色土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 7 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし

- 8 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 9 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし

SI06 ピット土層解説

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子微量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

第38図 第6号堅穴建物跡実測図

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 長軸 3.64 m、短軸 2.88 mで、平面形は方形である。主軸方位はN - 15° - Eである。壁は確認面から最大高 28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

カマド 北壁中央東寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 130cmである。袖部の基部の最大幅は約 140cmで、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。両袖部内に凝灰岩を補強材として使用されている。

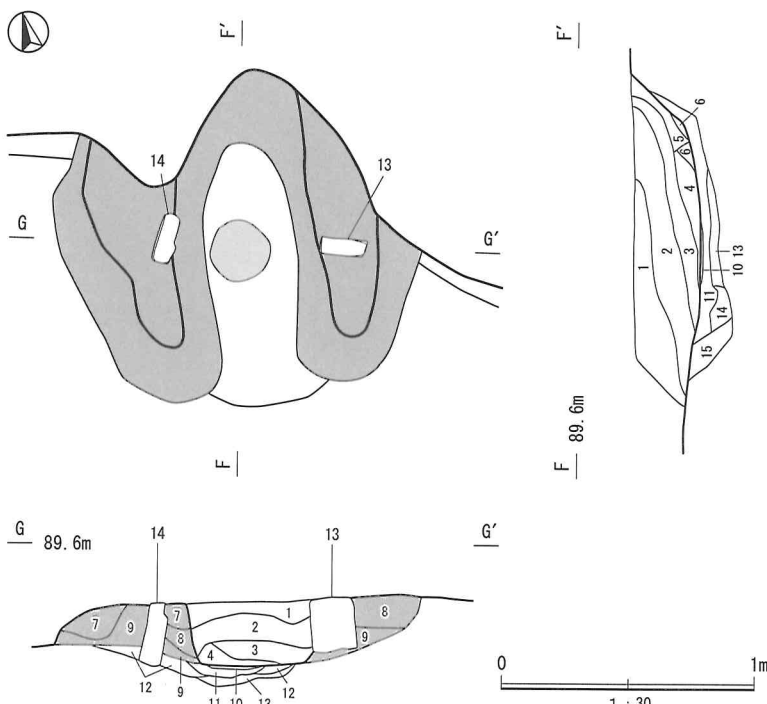
土層 7層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。8～10層は貼床の構築土である。

ピット 床面からピット 4か所が検出され、支柱穴と考えられる。P 1 : 20 × 20cm、深さ 22cm、P 2 : 35 × 34cm、深さ 20cm、P 3 : 40 × 40cm、深さ 36cm、P 4 : 36 × 34cm、深さ 22cmである。

貯蔵穴 北東コーナー部で長径 40cm、短径 35cm、深さ 24cmの円形の窪みを確認する。土師器破片が検出される。

収納施設 カマド右袖脇の壁に比べ、カマド左袖脇が広く奥まっており、幅 50cm、長さ 180cm程のスペースが確認された。

遺物出土状況 土師器片 243点 [坏 64点 (601g)、高台付坏 1点 (7g)、甕 178点 (1,654g)]、須恵器片 160点 [坏 12点 (179g)、鉢 1点 (125g)、捏鉢 1点 (262g)、甕 14点 (979g)]、カマド補強材 2点 (7,264g)、石 8点 (2,604g)。1の土師器坏は中央部の床面、3の土師器坏はP1付近の床面、8の須恵器鉢と10の須



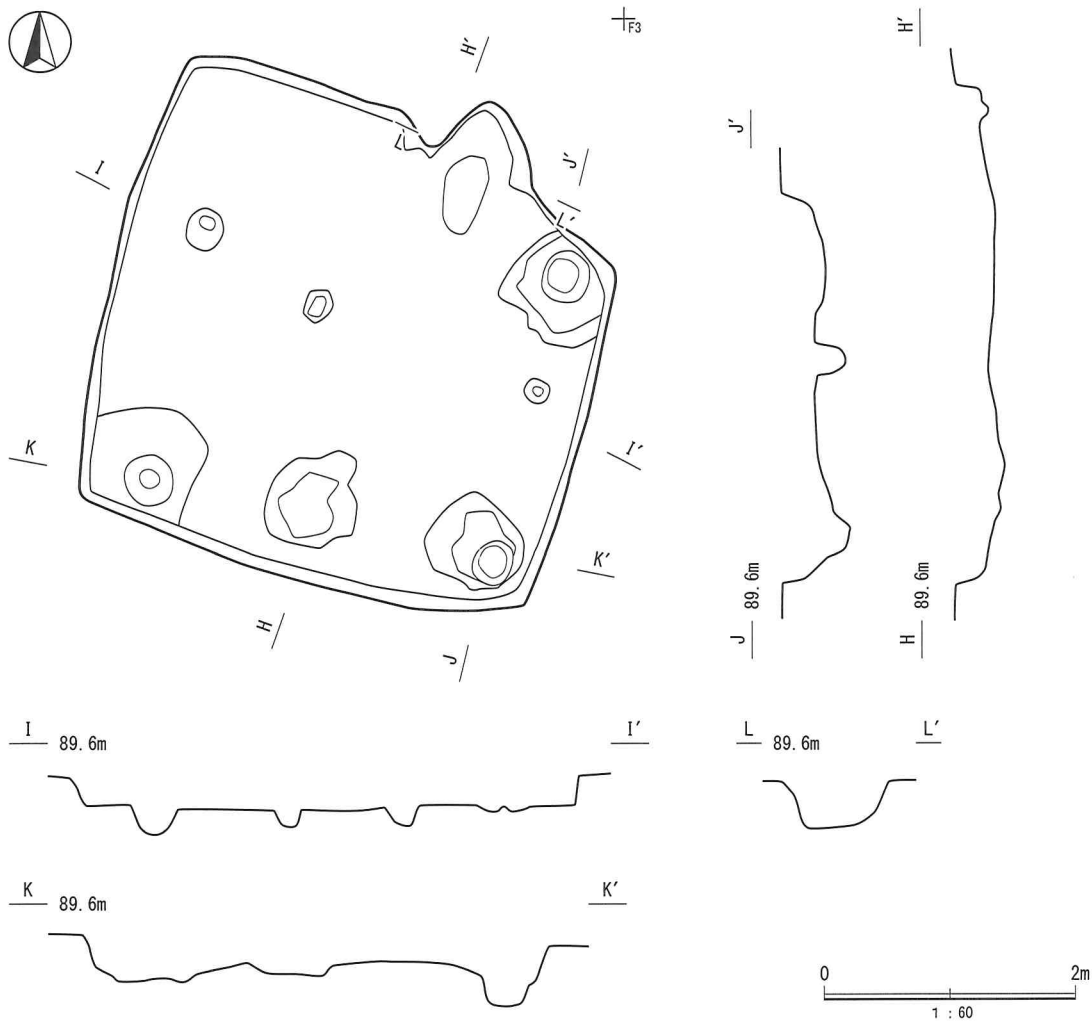
第 39 図 第 6 号堅穴建物跡カマド実測図

SI06 カマド土層解説

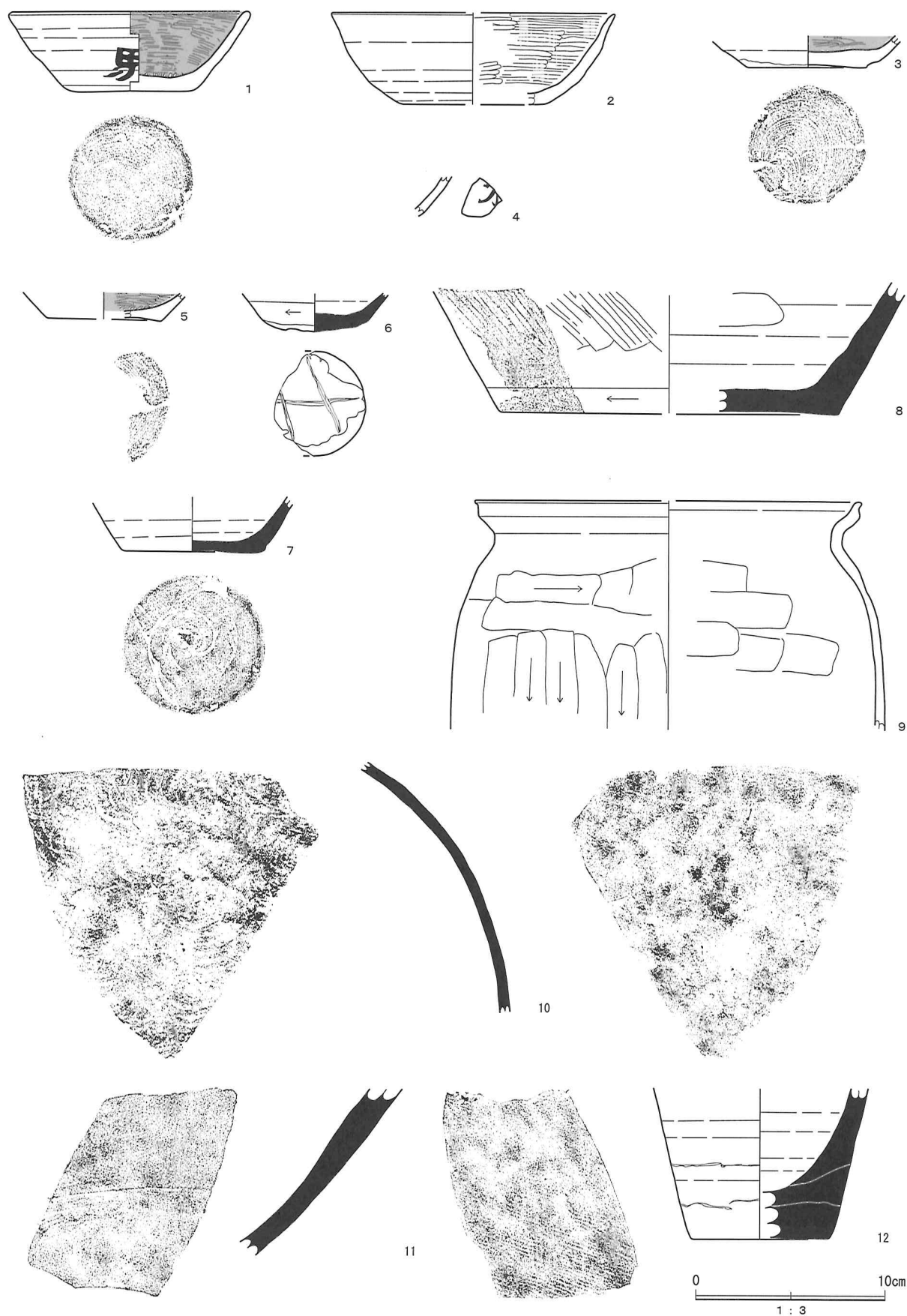
- 1 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 2 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 3 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 4 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 5 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 6 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりあり
- 7 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 8 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 9 2.5YR4/2 灰赤色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり
- 10 2.5YR5/2 灰赤色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり
- 11 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりあり
- 12 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりあり
- 13 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 14 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりなし
- 15 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 16 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり

恵器甕は南東部の床面、11の須恵器甕は北東部の床面から出土している。6の須恵器坏は中央部覆土中層から出土している。13の補強材は右カマド袖内、14の補強材は左袖内から直立して出土している。13は南北に幅広い面を、14は東西に幅広い面を向けている違いがある。4・5の土師器坏、12の須恵器捏鉢は覆土中から出土している。

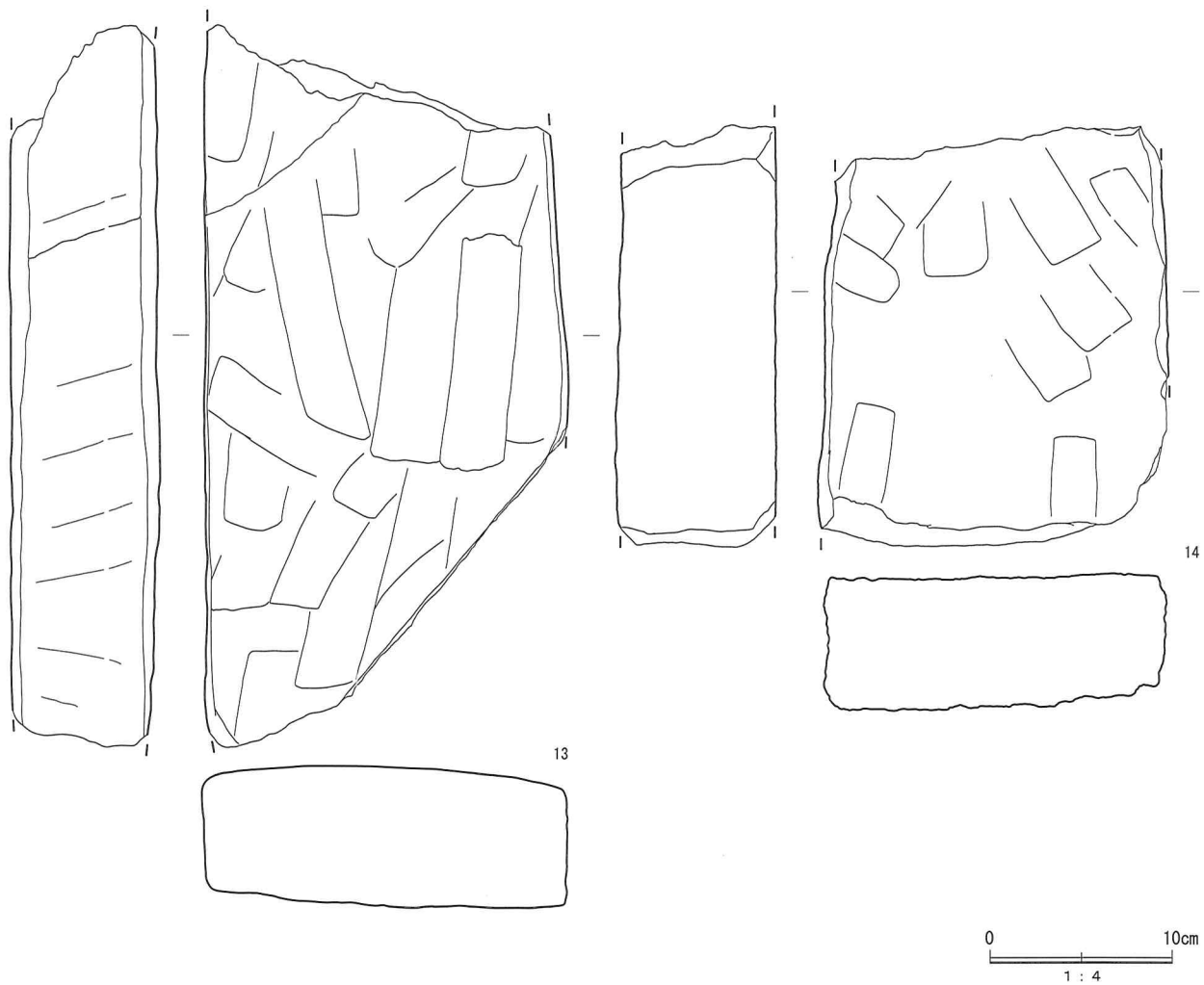
所見 時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。ここでは、墨書土器が2点出土しており、1の土師器坏に「男」、4の土師器坏に「万」と認められる。同時期に集落を形成していた第12号堅穴建物跡からも墨書土器が出土していることから、関連性が高いと考えられる。



第40図 第6号堅穴建物跡掘方実測図



第 41 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第 42 図 第 6 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 16 表 第 6 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.5]	4.2	6.3	石英・白色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理内面へら磨き	中央部床面	45% 図版 17 体部外面「男」 墨書
2	土師器	坏	[15.0]	4.8	[7.3]	長石・石英	浅黄橙	普通	ロクロナデ 体部下端横位のへら削り 内面横 位のへら磨き	南東部 覆土中層	10% 図版 17
3	土師器	坏	—	(1.7)	6.2	長石・石英	にぶい黄 橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理内面へら磨き	P1 付近床面	10% 図版 17
4	土師器	坏	—	(2.0)	—	長石	明赤褐	普通	体部ロクロナデ	覆土中	5% 図版 17 体部外面「万」 カ墨書
5	土師器	坏	—	(1.4)	[6.0]	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り 内面黒色処理内面へら磨き	覆土中	5% 図版 17
6	須恵器	坏	—	(1.9)	[5.5]	長石・細礫	灰	普通	ロクロナデ 底部回転へら切り不調整	中央部 覆土中層	5% 図版 17 底部「キ」へ ら記号 益子窯
7	須恵器	坏	—	(2.9)	7.2	長石・石英・ス コリア・角閃石	橙	普通	ロクロナデ 底部回転へら切り	中央部覆土 中層・貯蔵穴	5% 図版 18 益子窯
8	須恵器	鉢	—	(6.9)	[18.0]	長石・石英	灰	普通	体部から底部片 体部外面斜位の平行叩き 内面横位のへらナデ	南東部床面	5% 図版 18 益子窯
9	土師器	甕	[20.3]	(12.0)	—	長石・石英・雲 母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面上位横位のへら削り 下位縦位のへら削り 内面横位のへらナデ	東側床面～ 覆土中層	10% 図版 17

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
10	須恵器	甗	—	(13.0)	—	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	体部片 内面同心円文の当具痕	南東部床面	5% 図版 18 益子窯
11	須恵器	甗	—	(8.8)	—	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の刷毛目 内面斜位のヘラ削り	北東部床面	5% 図版 18 益子窯
12	須恵器	捏鉢	—	(7.9)	[7.3]	長石・石英	暗灰黄	普通	体部から底部片 ロクロナデ 内面底部使用痕	覆土中	10% 図版 18 益子窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
13	カマド補強材	(39.4)	20.0	7.7	(4900.0)	凝灰岩	外面削り痕	カマド右袖内	図版 18
14	カマド補強材	(23.0)	(19.3)	(7.5)	(2364.0)	凝灰岩	外面削り痕	カマド左袖内	図版 18

第7号堅穴建物跡 (SI07) (第43～45図、第17・24表、図版5・6・18・19)

位置 調査区西部F3グリッドに位置し、標高89mの平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認する。

規模と形状 長軸2.94m、短軸2.90mで、平面形は方形である。主軸方位はN-10°-Eである。壁は確認面から最大高15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

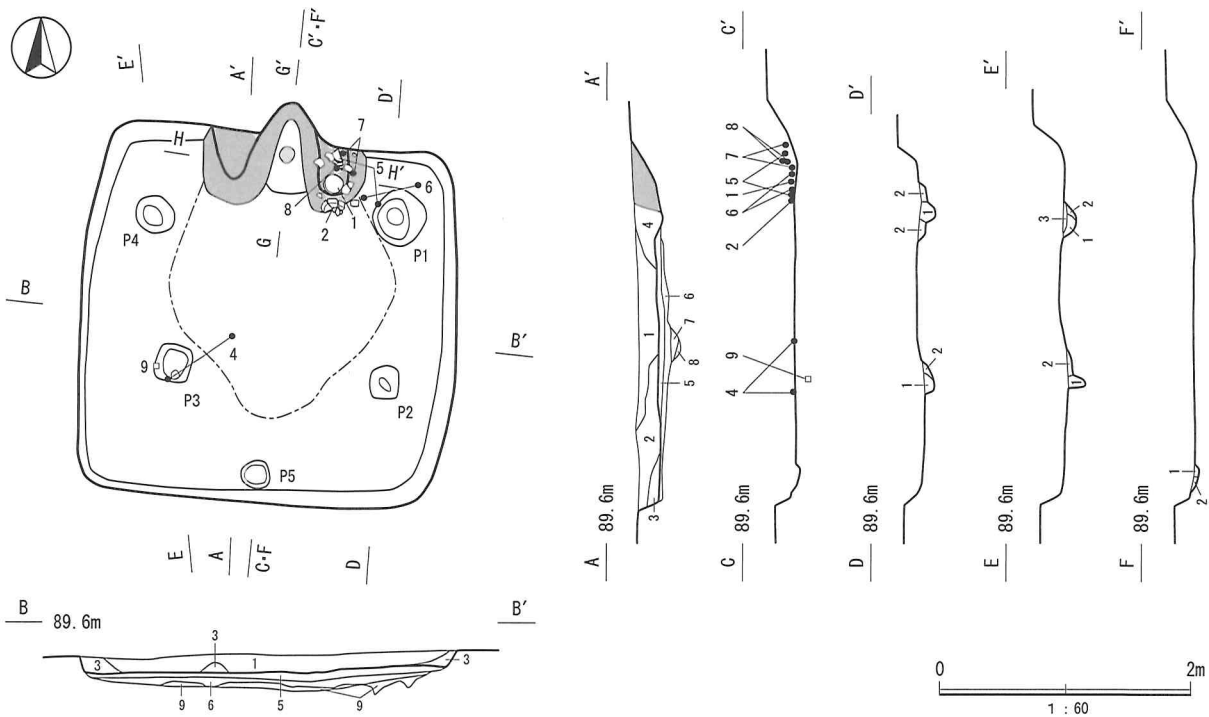
カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは80cmである。袖部の基部の最大幅は約120cmで、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 4層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況が見られる。5～9層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット5か所が検出された。P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1:45×40cm、深さ12cm、P2:30×25cm、深さ10cm、P3:30×30cm、深さ20cm、P4:30×32cm、深さ15cm、P5:20×22cm、深さ8cmである。

遺物出土状況 土師器片50点 [坏22点(240g)、甗28点(720g)]、須恵器片62点 [坏3点(332g)、高台付坏1点(99g)]、石器1点(2,831g)、石5点(2,700g)。1・2の土師器坏、5・7・8の土師器甗はカマド右袖内、4の須恵器高台付坏は南西部床面、6の土師器甗は北東部、9の磨石はP3付近の床面から出土している。3の須恵器坏は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から8世紀前葉から中葉と考えられる。カマドの補強材として6世紀後半から7世紀前半の土器を再利用している。



SI07 土層解説

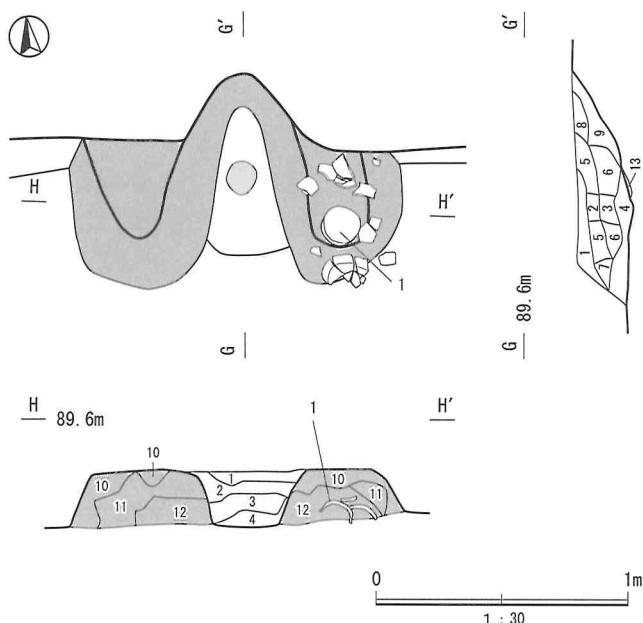
- 1 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒微量 炭化物微量・粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 5 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 6 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 7 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

SI07 ピット土層解説 (P1 ~ P5)

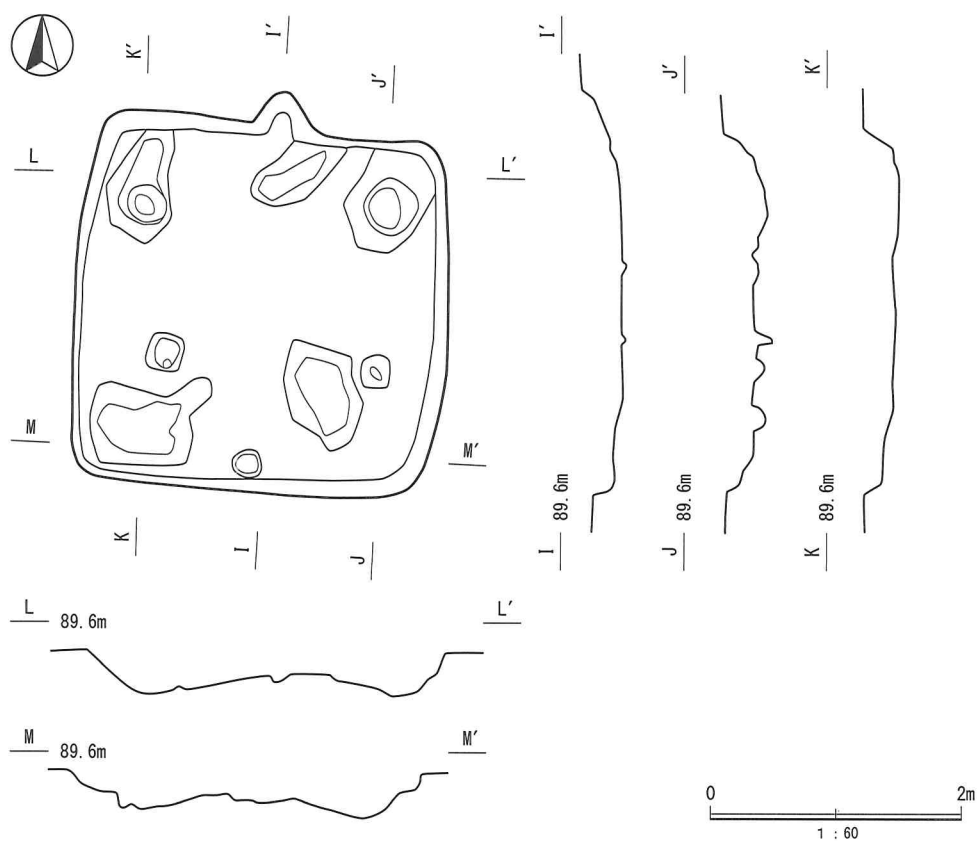
- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック中量 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし

SI07 カマド土層解説

- 1 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 4 2.5YR2/1 赤黒色 焼土粒子少量 炭化物中量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 5 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 6 5YR4/2 灰褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 7 5YR2/1 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 8 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 9 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子微量/粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 11 2.5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 12 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量 灰少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 13 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりあり



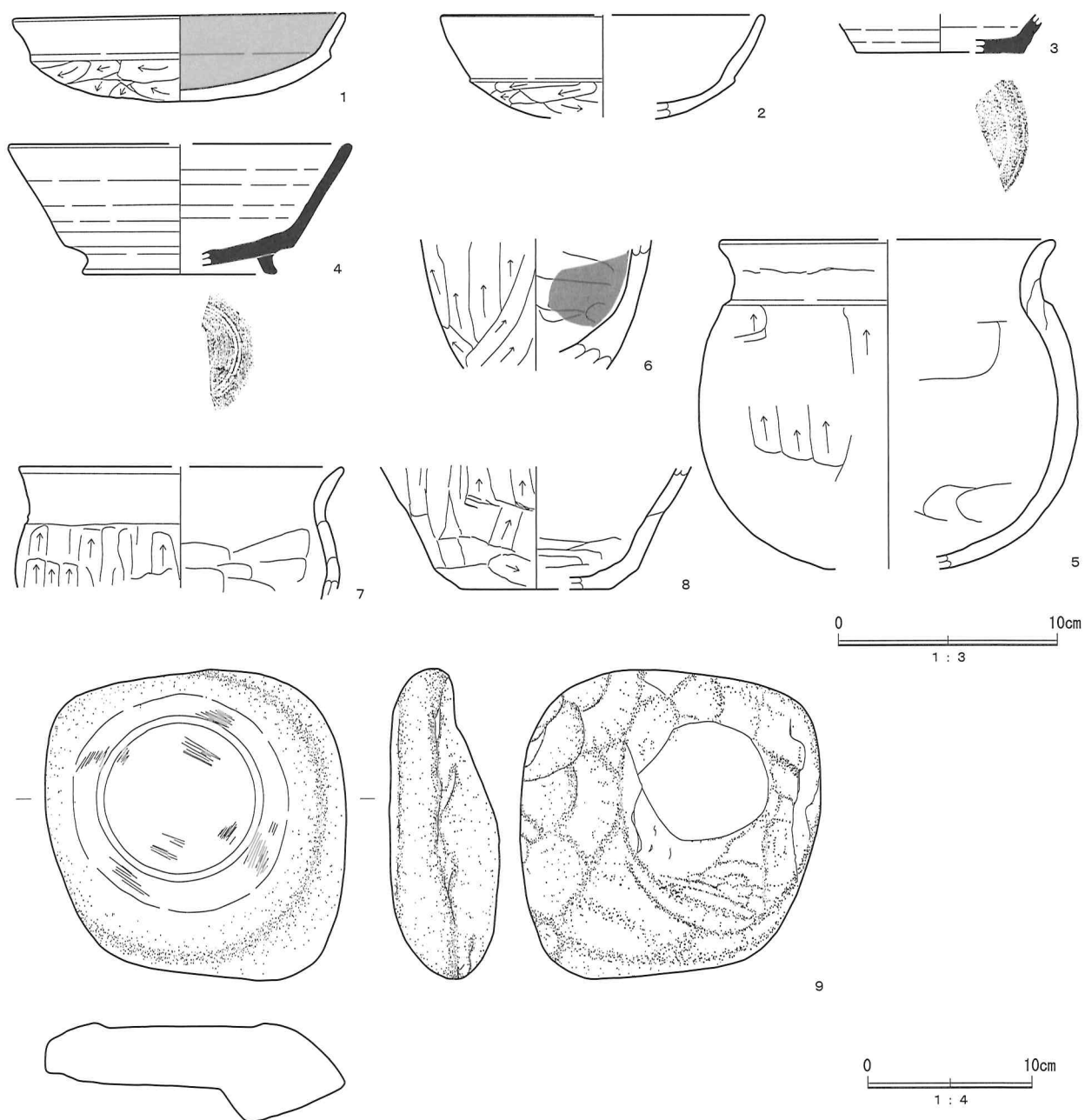
第43図 第7号壁穴建物跡実測図



第 44 図 第 7 号堅穴建物跡掘方実測図

第 17 表 第 7 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.0	3.9	—	細砂・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面上位横位のヘラ削り 下位一方向のヘラ削り 内面不定方向のナデ 内面黒色処理	カマド 右袖内	95% 図版 18
2	土師器	坏	[14.6]	(4.7)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	にぶい 黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	カマド 右袖内	40% 図版 18
3	須恵器	坏	—	(1.8)	[7.6]	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土中	5% 図版 18
4	須恵器	高台付 坏	[15.2]	5.9	[8.4]	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け 外面自然釉	南西部床面	30% 図版 18 益子窯
5	土師器	甗	[15.2]	(15.0)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド右袖内・ 北東部床面	10% 図版 18
6	土師器	甗	—	(5.9)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	黒褐	普通	体部内面ナデ 外面縦位のヘラ削り	北東部床面	10% 図版 19 内面煤付着
7	土師器	甗	[14.5]	(6.0)	—	長石・石英・細 礫	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド 右袖内	10% 図版 19
8	土師器	小型甗	—	(5.6)	[6.8]	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 体部下端横位のヘラ 削り 内面横位のヘラナデ	カマド 右袖内	5% 図版 19
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴			出土位置	備考
9	磨石	18.8	18.3	6.7	2831.0	砂石	径 10cm の円形の磨面			南東部 P3 内	図版 19



第 45 図 第 7 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 8 号堅穴建物跡 (SI08) (第 46 ~ 48 図、第 18・24 表、図版 6・19・20)

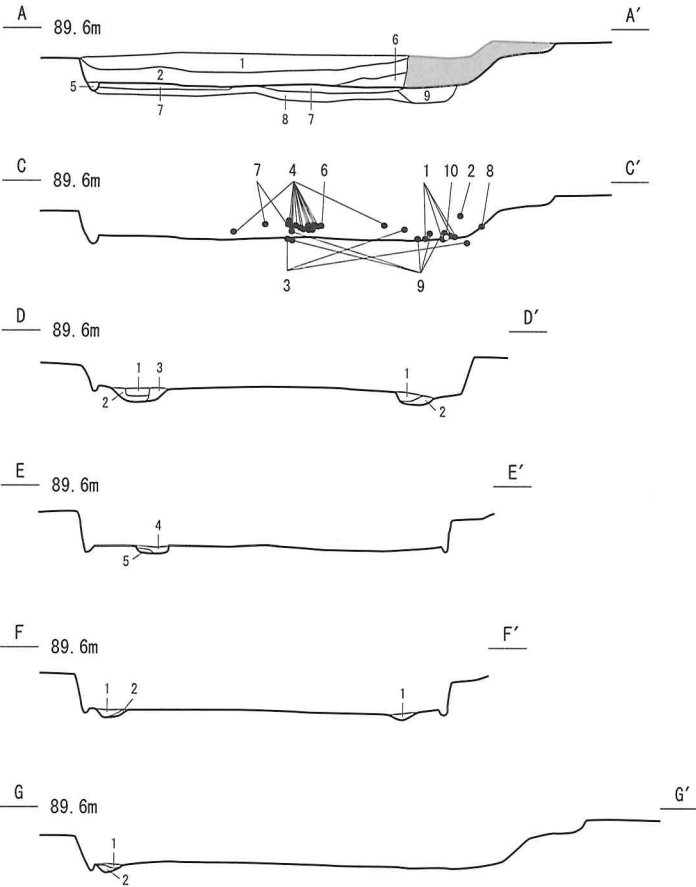
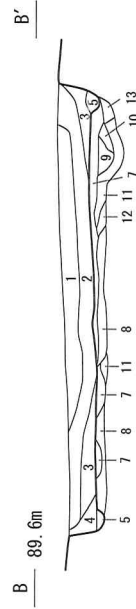
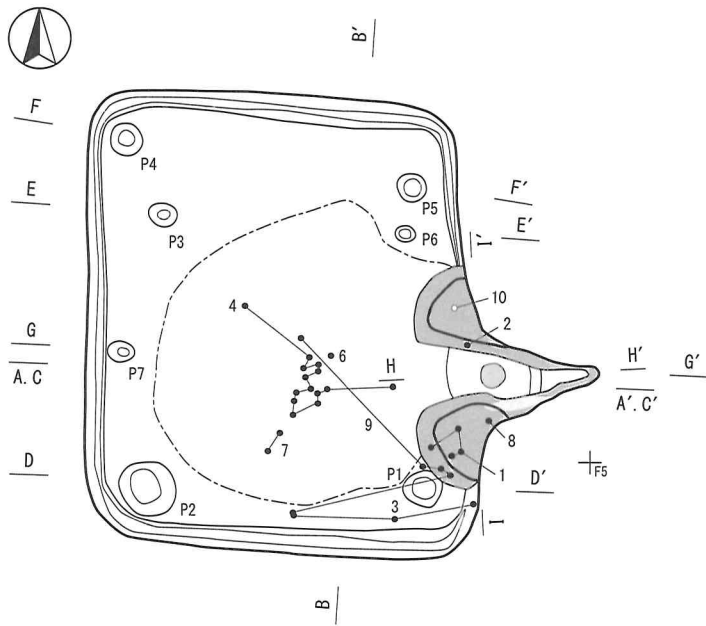
位置 調査区西部 E 4 ~ F 4 グリッドに位置し、台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認する。

規模と形状 長軸 3.62 m、短軸 3.04 m で、平面形は長方形である。主軸方位は N - 90° - E である。壁は確認面から最大高 24cm で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅 15 ~ 20cm、下幅 0 ~ 10cm、深さ 10cm で全周する。断面形は U 字形である。

床 貼床で、カマド前から中央部が固く締まっている。

カマド 東壁中央南寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 140cm である。

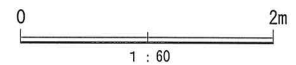


SI08 土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子少量
炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/3 黒褐色 ローム粒子少量 焼土ブロック・
粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色 ロームブロック微量・粒子少量
焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量
焼土粒子微量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 5 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 6 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒子微量 焼土ブロック少
量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 7 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量
焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 8 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子多量 炭化
粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 9 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化
粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化
粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 11 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土
粒子微量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 12 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック中量・粒子多量
七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり
- 13 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量
炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

SI08 ピット土層解説 (P1 ~ 7)

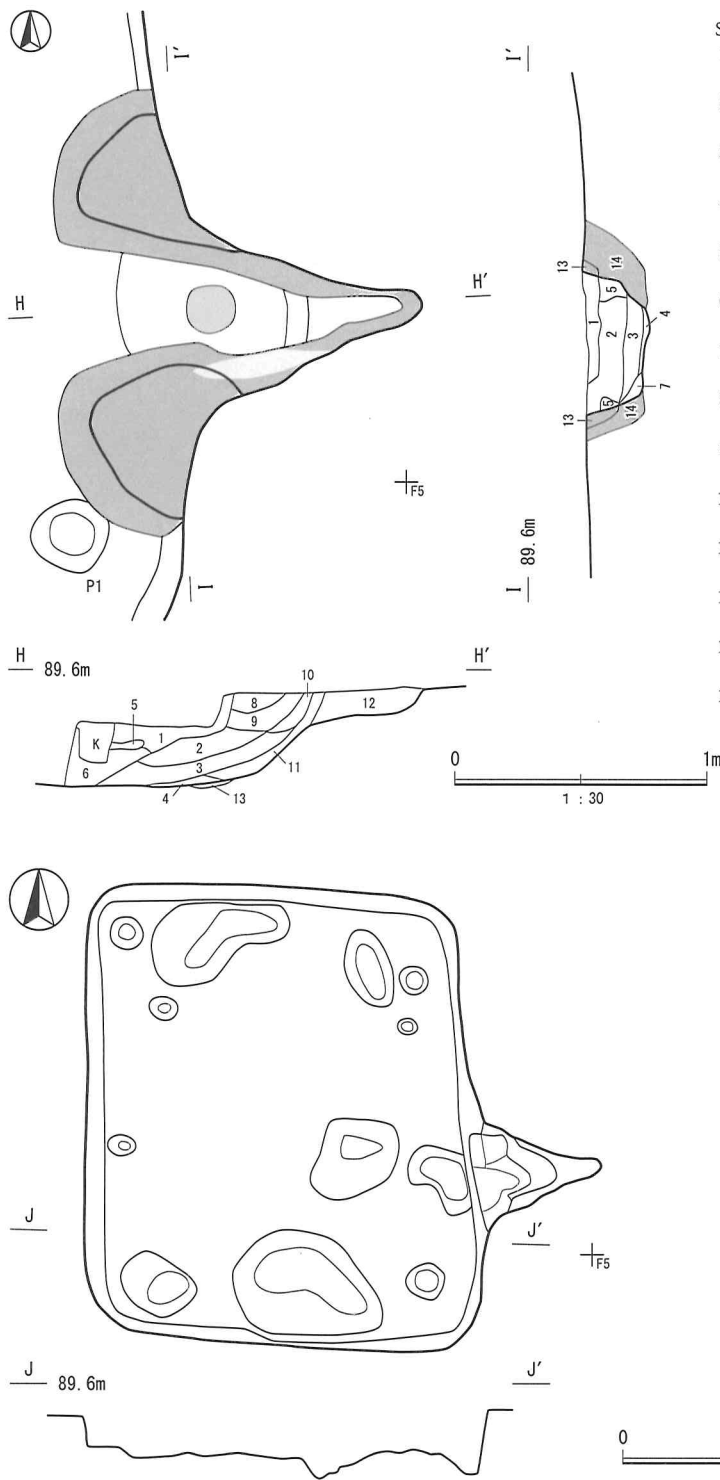
- 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中量/
粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化
粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量
炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化
粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量
炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり



第 46 図 第 8 号堅穴建物跡実測図

袖部の基部の最大幅は約 180cmである。煙道はカマドから緩やかに立ち上がっている。

ピット 床面から、ピット7か所が検出された。P 1～P 6は主柱穴、P 7は出入口施設と考えられる。P 1：32×28cm、深さ14cm、P 2：48×42cm、深さ12cm、P 3：22×20cm、深さ8cm、P 4：28×28cm、深さ8cm、P 5：22×22cm、深さ8cm、P 6：14×14cm、深さ6cm、P 7：22×18cm、深さ12cm、である。土層 6層に分層できる、ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。7～13層は貼床の構築土である。



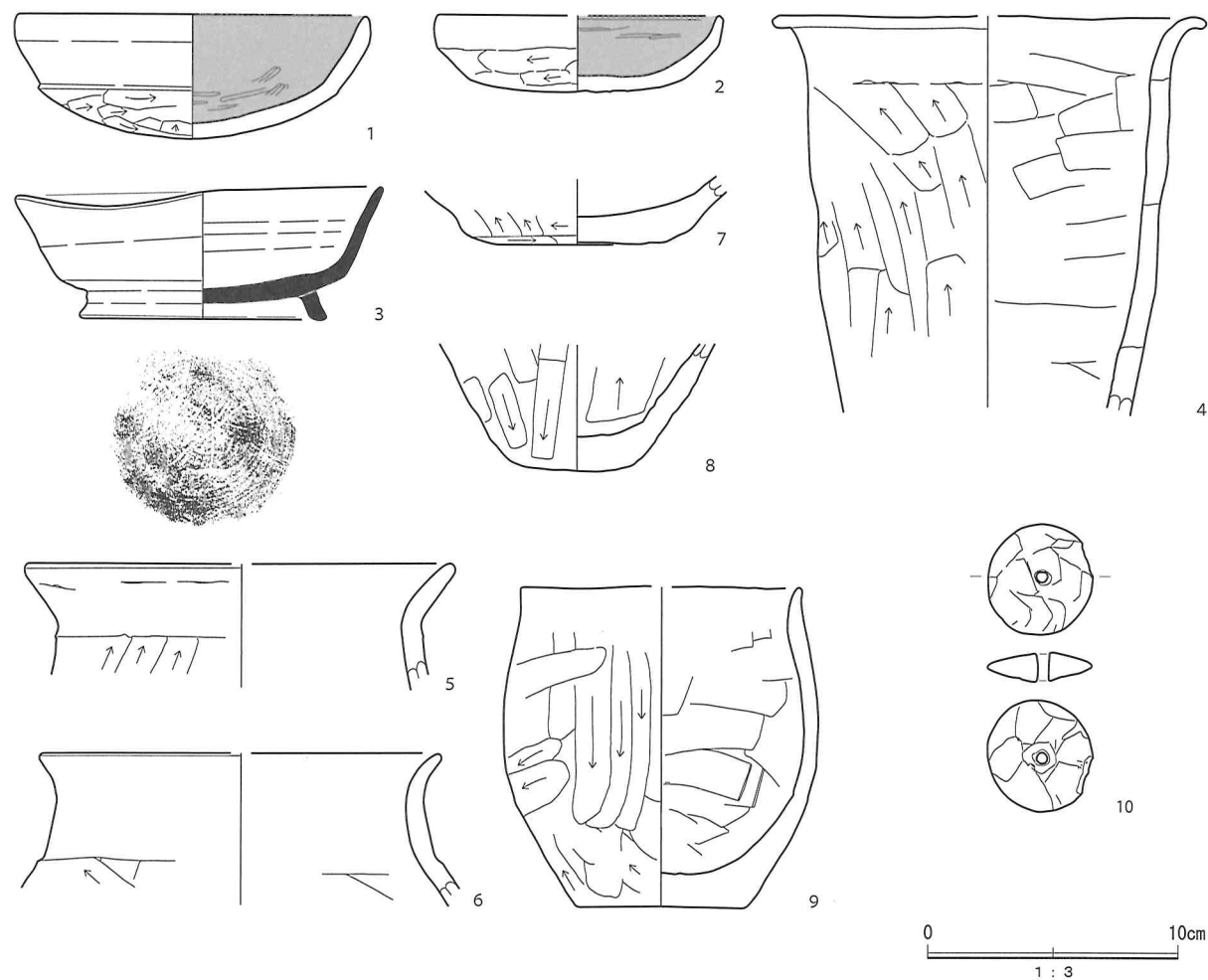
SI08 カマド土層解説

- 1 2.5YR3/2 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 2 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子多量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 3 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 5 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 6 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 7 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 8 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 9 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりあり
- 11 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 灰少量/粘性なし 縮まりなし
- 12 5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子少量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 13 5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 14 5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子少量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり

第 47 図 第 8 号竪穴建物跡カマド・掘方実測図

遺物出土状況 土師器片 189 点 [坏 20 点 (341g)、甕 1 点 (397g)、甕 168 点 (3,065g)]、須恵器片 2 点 [坏 5 点 (19g)、高台付坏 1 点 (247g)、蓋 1 点 (20g)]、石 5 点 (1,700g)。1 の土師器坏、8 の土師器甕はカマド右袖内、2 の土師器坏、10 の土製紡錘車はカマド左袖内から出土している。3 の須恵器高台付坏は南壁の床面、4・6・7 の土師器甕は中央部の覆土中層、9 の土師器小型甕は中央部からカマド前床面にかけて、5 の土師器甕は覆土中から、それぞれ出土している。

所見 時期は、僅かな出土遺物から 8 世紀前葉から中葉と考えられる。本跡は、同時期の第 7 号堅穴建物跡と同様に、カマドの補強材として 7 世紀代の土師器を再利用している。遺構構築方法などの共通点もみられ、第 7 号堅穴建物跡との関連性が強いと思われる。



第 48 図 第 8 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 18 表 第 8 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.8	4.9	—	長石	にぶい 黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面 横位のヘラ磨き 内面黒色処理	カマド 右袖内	80% 図版 19
2	土師器	坏	[11.2]	3.5	—	長石・石英・ス コリア	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面 ヘラ磨き 内面黒色処理	カマド 左袖内	15% 図版 19
3	須恵器	高台付 坏	14.5	5.2	9.6	長石・石英・細 砂	灰	良好	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後中央部一方向 のヘラナデ 高台貼り付け	南壁床面	90% 図版 19 益子窯 底部「□」 ヘラ記号

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	甗	[16.8]	(15.8)	—	長石・石英・角閃石・スコリア	褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	中央部 覆土中層	30% 図版 19
5	土師器	甗	[16.8]	(5.0)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	覆土中	10% 図版 19
6	土師器	甗	[15.6]	(6.0)	—	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のナデ	中央部 覆土中層	5% 図版 19
7	土師器	甗	—	(2.6)	8.8	長石・石英・細礫・チャート	にぶい橙	不良	体部外面縦位のヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	中央部 覆土中層	5% 図版 19
8	土師器	甗	—	(5.0)	[4.8]	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	カマド 右袖内	5% 図版 19
9	土師器	小形甗	[11.0]	12.7	6.6	長石・石英・チャート	褐	不良	口縁部横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下位横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	中央部・ カマド前 床面	60% 図版 20

番号	種別	径	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
10	紡錘車	4.4	4.2	1.1	15.7	土製品	孔径 06cm。	カマド 左袖内	95% 図版 20

第9号竪穴建物跡 (SI09) (第49～56図、第19・24表、図版6・20～22)

位置 調査区中央部H3～H4グリッドに位置し、標高89mの台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第10号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.60m、短軸3.68mで、平面形は長方形である。主軸方位はN-5°-Wである。壁は確認面から最大高40cmで、ほぼ緩やかに立ち上がっている。

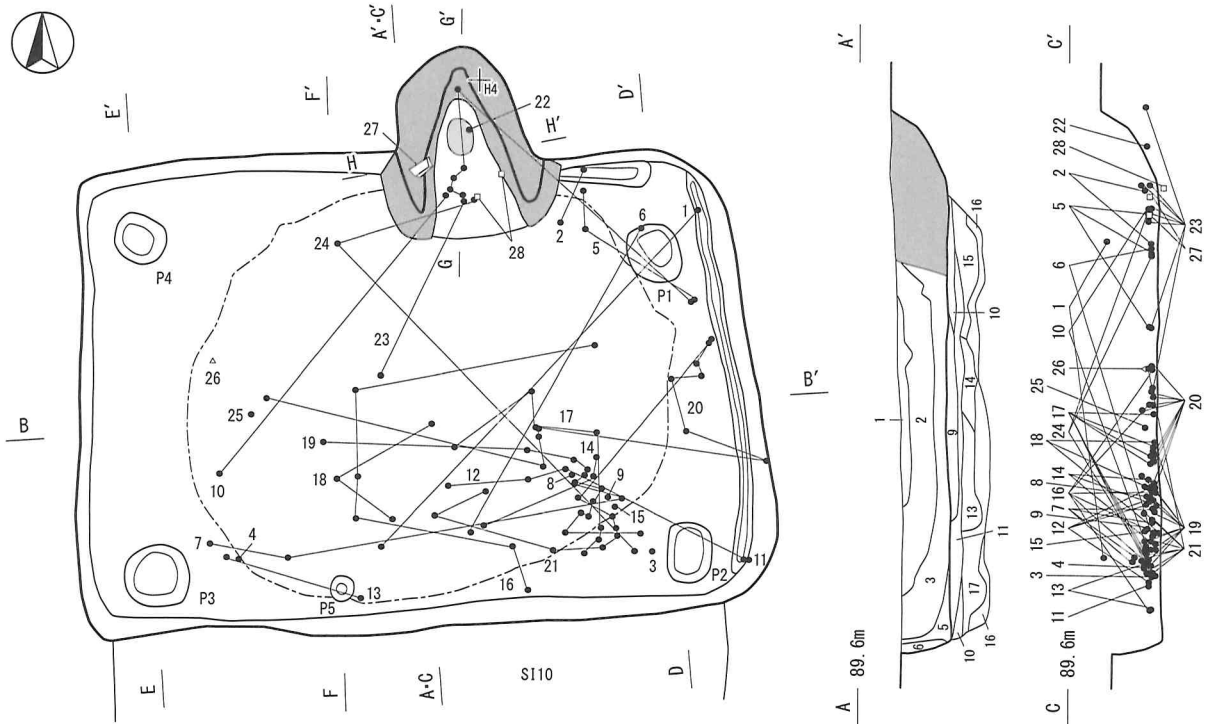
床 カマド前から中央部が踏み固められている。

カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは110cmである。袖部の基部の最大幅は約80cmで、右袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層 8層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。9～17層は貼床の構築土である。

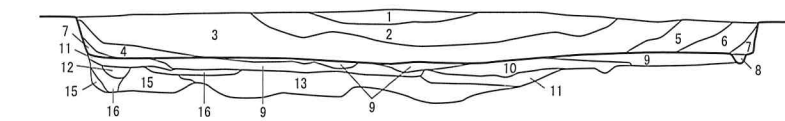
ピット 床面からピット5か所が検出された。P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1：50×42cm、深さ18cm、P2：48×38cm、深さ16cm、P3：50×48cm、深さ10cm、P4：42×40cm、深さ12cm、P5：20×18cm、深さ16cmである。

遺物出土状況 土師器片560点[坏16点(190g)、甗544点(6,165g)]、須恵器片81点[坏54点(968g)、高台付坏4点(497g)、蓋5点(107g)、盤1点(330g)、高盤1点(212g)、短頸壺3点(1,736g)、横瓶1点(6,696g)、甗11点(4,219g)]、灰釉長頸壺片2点(169g)、鉄製品1点[刀子(8g)]、竈補強材1点(1,836g)、石5点(75g)。1の土師器坏は南部と東部の覆土上層、2の須恵器坏はカマド前床面、3・8の須恵器坏、9の須恵器高台付坏、12の須恵器盤、14の須恵器高盤、15の須恵器短頸壺、25の須恵器甗は西部の覆土下層、4の須恵器坏、13の須恵器蓋は南西部の覆土下層、21の土師器甗は南東部の覆土下層、5の須恵器坏は北東部床面、6の須恵器坏は北東部と南部床面、7の須恵器坏は南部覆土下層から中層にかけて、10の須恵器高台付坏は南西部床面とカマド内、11の須恵器高台付坏は南東コーナー部の覆土下層、16の須恵器短頸壺は中央部の床面、17の須恵器短頸壺は南東部の床面、18の灰釉陶器長頸壺は南部の床面、19の須恵器横瓶は中央部から南東部の覆土下層、20の土師器甗は中央部から東部の床面、22の土師器甗、28の支脚転用礫はカマド内、23の土師器甗はカマド内と中央部の床面から、24の土師器甗はカマド前から南東部



B 89.6m

B'



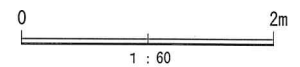
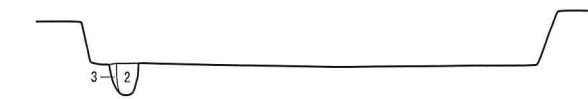
D 89.6m D'



E 89.6m E'



F 89.6m F'



第 49 図 第 9 号 堅穴 建物跡 実測図

SI09 土層解説

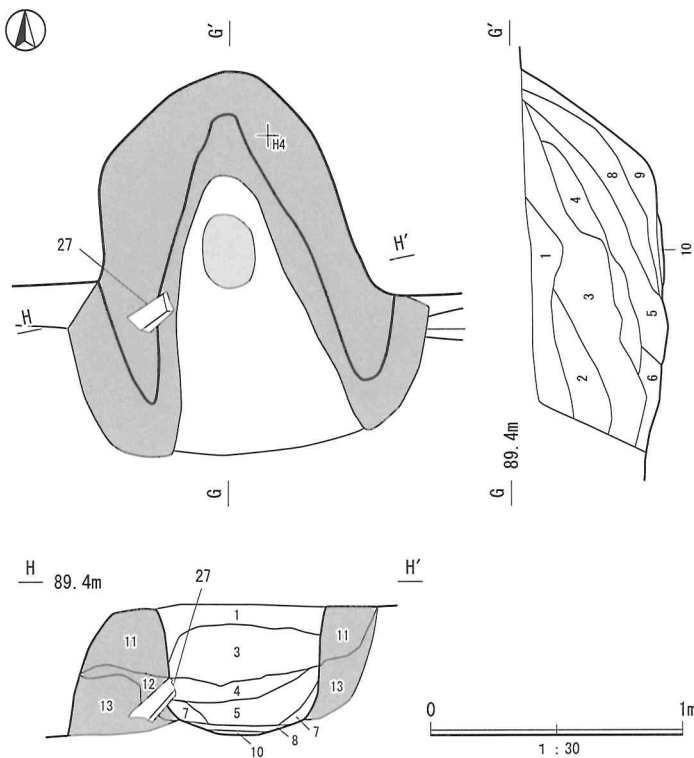
- | | |
|--|---|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物微量・粒子多量/粘性あり 縮まりなし | 6 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり |
| 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化物少量・粒子中量/粘性なし 縮まりなし | 7 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化物微量・粒子中量/粘性なし 縮まりなし | 8 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりなし |
| 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし | 9 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり |
| 5 7.5YR4/2 灰褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり | 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり |

- 11 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり(掘方)
- 12 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 13 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 14 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 15 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 16 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 17 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

SI09 ピット土層解説 (P1 ~ P5)

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり

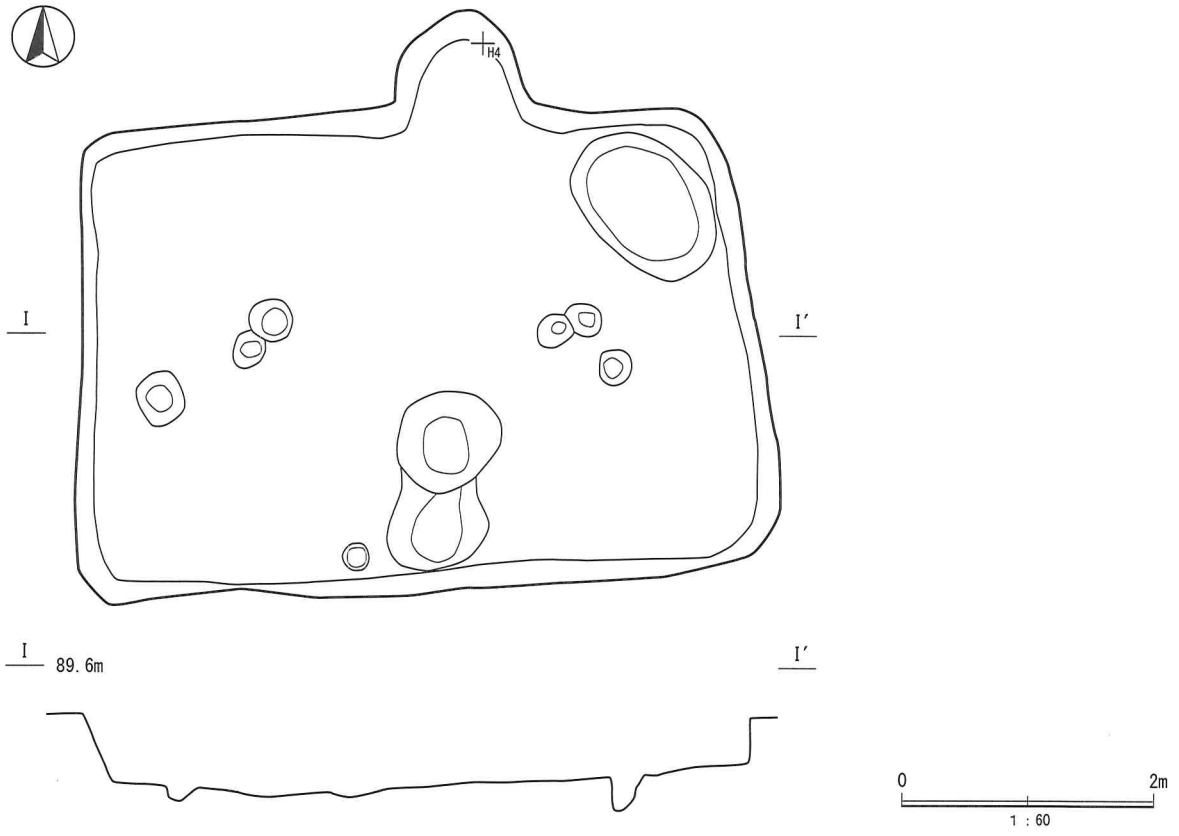
の覆土下層、26の刀子は西部の覆土下層、27のカマド補強材はカマド左袖内から、それぞれ出土している。所見 時期は、出土遺物から8世紀中葉と考えられる。多量に出土した土器類は、8世紀中葉から後葉にかけてのもので、特に南東部で出土した土器群は、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。



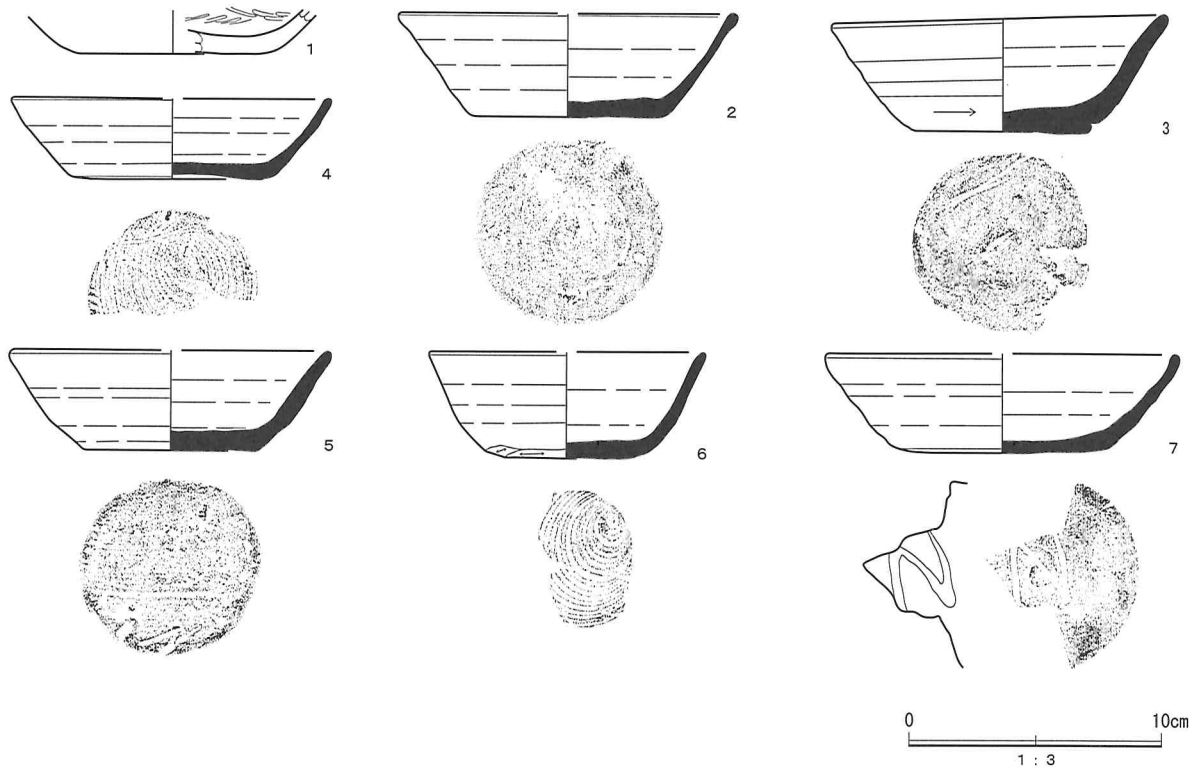
SI09 カマド土層解説

- 1 5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 2 5YR3/2 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 5 2.5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 6 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 7 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量 焼土粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 8 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック中量 焼土粒子中量 炭化粒子中量 灰多量/粘性なし 縮まりなし
- 9 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰少量/粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR5/8 明赤褐色 焼土ブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりあり
- 11 2.5YR5/2 灰赤色 焼土粒子中量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 12 2.5YR4/2 灰赤色 焼土ブロック少量・粒子中量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 13 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量/粘性あり 縮まりあり

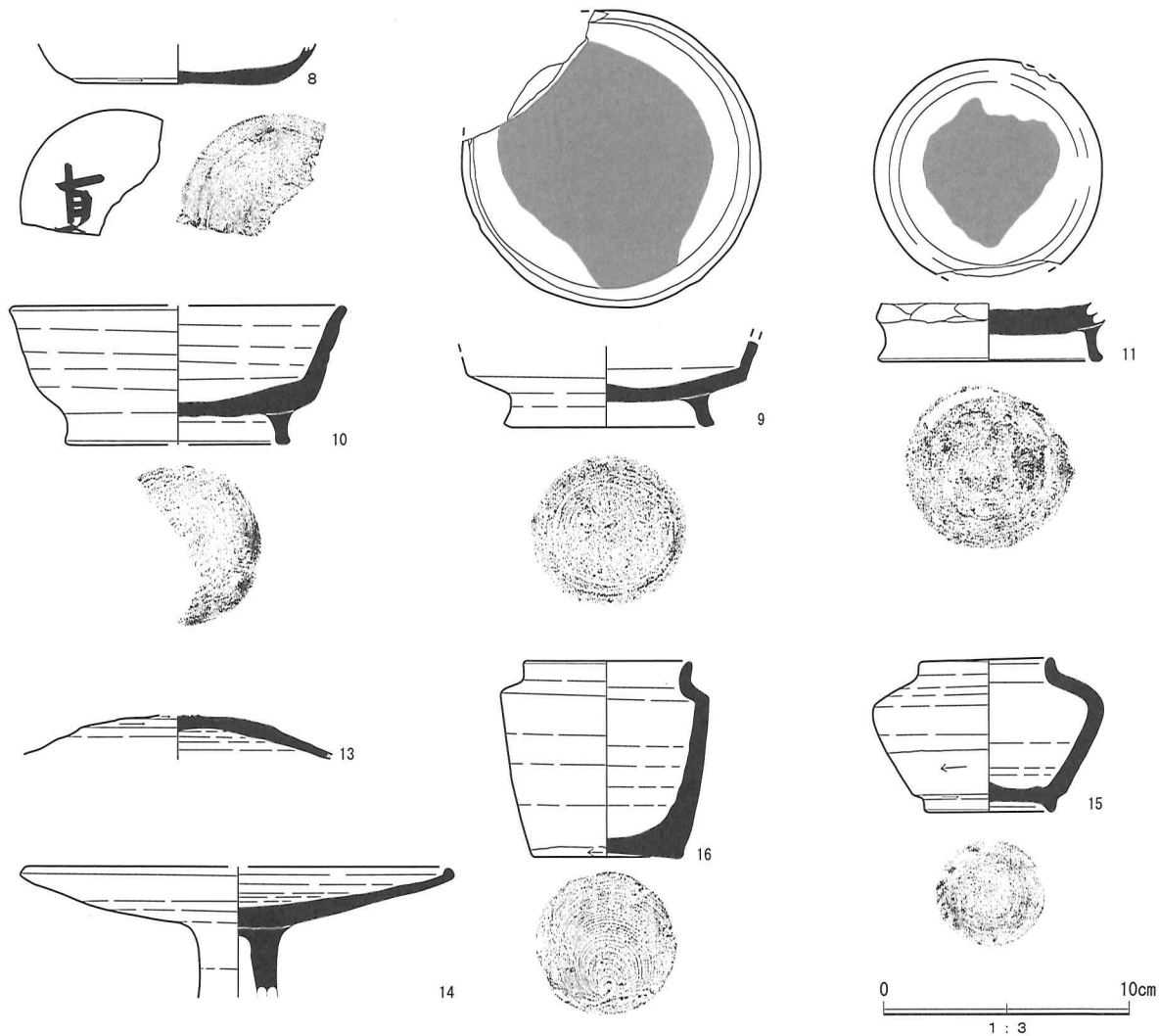
第50図 第9号堅穴建物跡カマド実測図



第 51 图 第 9 号竖穴建物跡掘方实测图



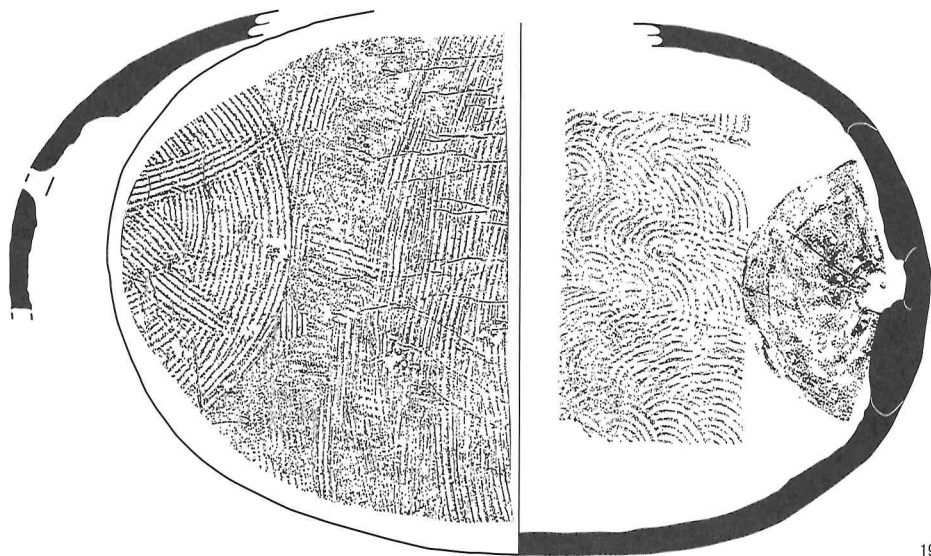
第 52 图 第 9 号竖穴建物跡出土遗物实测图 (1)



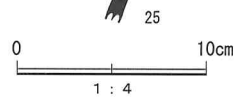
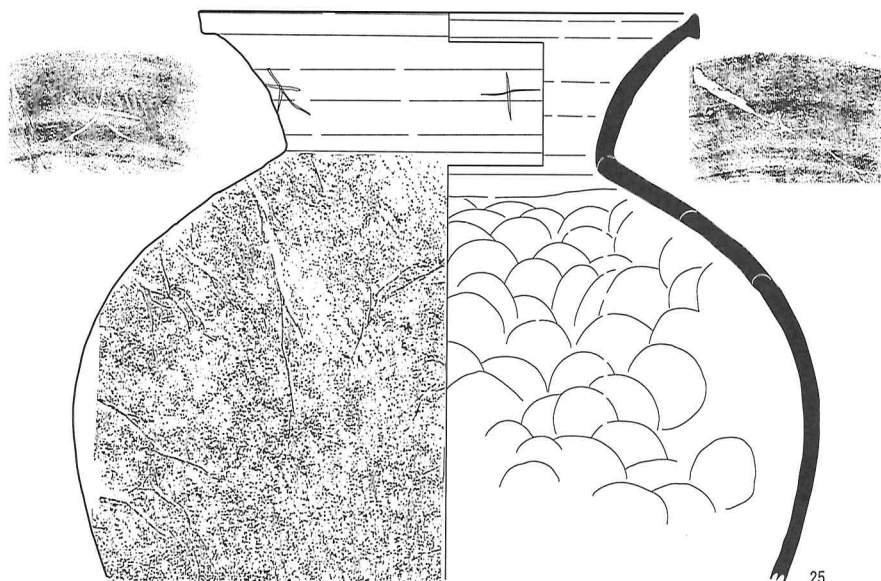
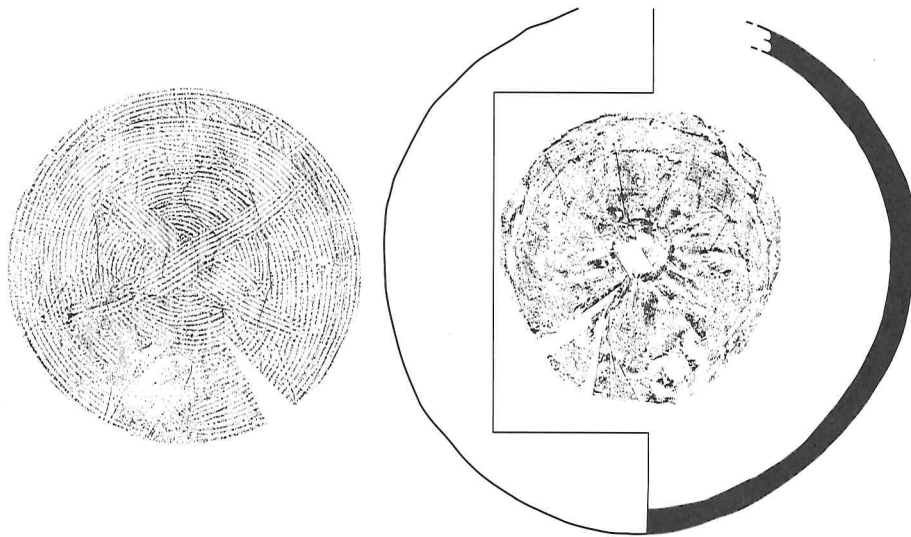
第 53 図 第 9 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 19 表 第 9 号堅穴建物跡出土遺物観察表

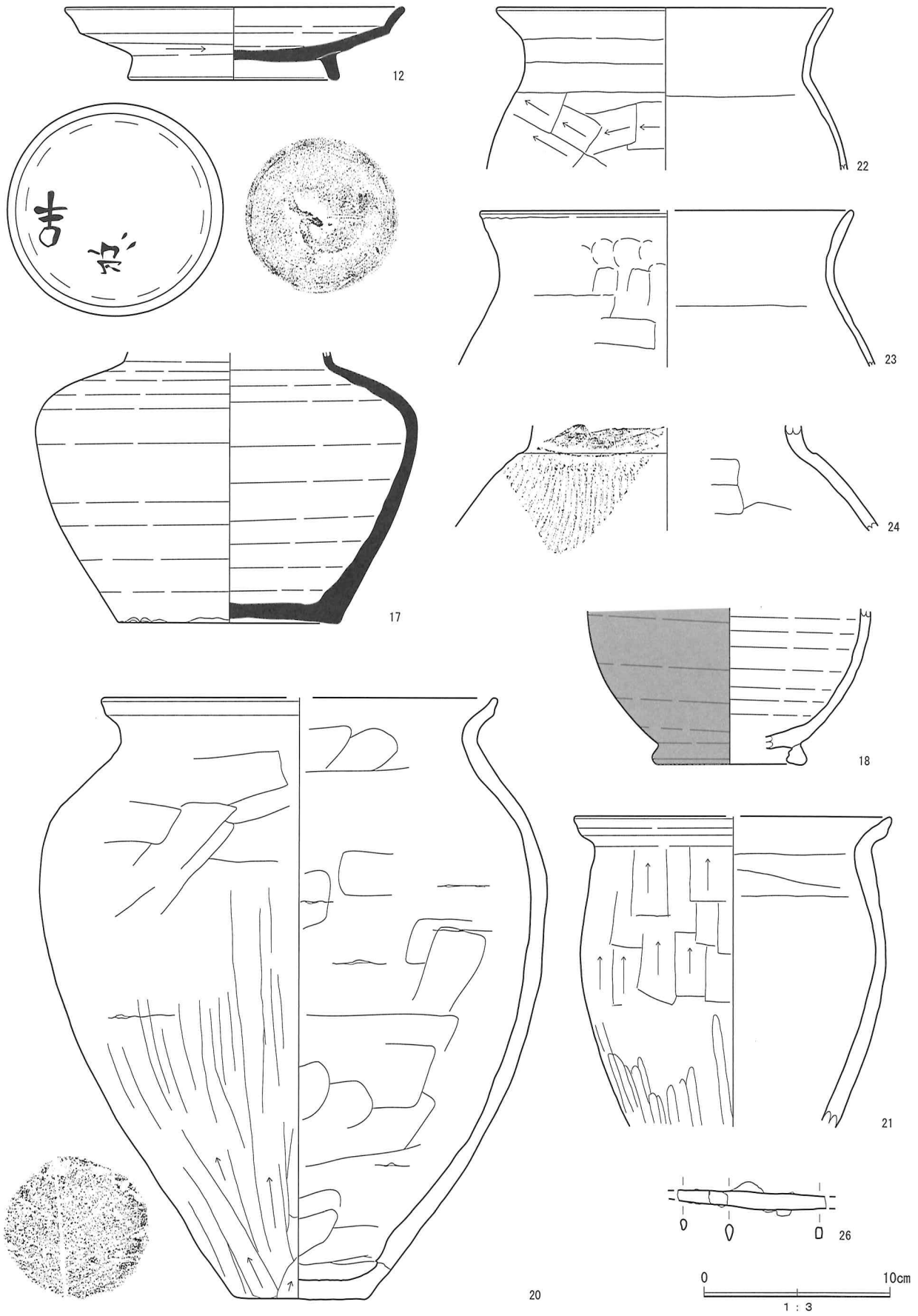
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	—	(1.7)	[7.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面横位のヘラ磨き	南・東部 覆土上層	20% 図版 20
2	須恵器	坏	[13.1]	4.1	7.3	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	カマド前 床面	70% 図版 20 益子窯
3	須恵器	坏	13.0	4.7	6.7	長石・石英・細礫	灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	南東部 覆土下層	60% 図版 20 益子窯
4	須恵器	坏	[12.5]	3.2	7.0	長石	灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	南西部 覆土下層	40% 図版 20 益子窯
5	須恵器	坏	[12.4]	3.9	6.7	長石・石英・白色粒子	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ヘラ削り	北東部床面	50% 図版 20 益子窯
6	須恵器	坏	[10.7]	4.1	[5.4]	長石・石英・スコリア	褐灰	普通	ロクロナデ 体部下端横位のヘラ削り 底部回転糸切り	北東・南部 床面	40% 図版 20 益子窯
7	須恵器	坏	[13.7]	3.9	[8.4]	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	南部覆土 下層～中層	30% 図版 20 底部「Z」カ ヘラ記号 益子窯
8	須恵器	坏	—	(1.6)	[8.0]	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ 体部下端横位のヘラ削り 底部回転ヘラ切り	南東部 覆土下層	10% 図版 20 底部「真」の 墨書 三葺山麓窯



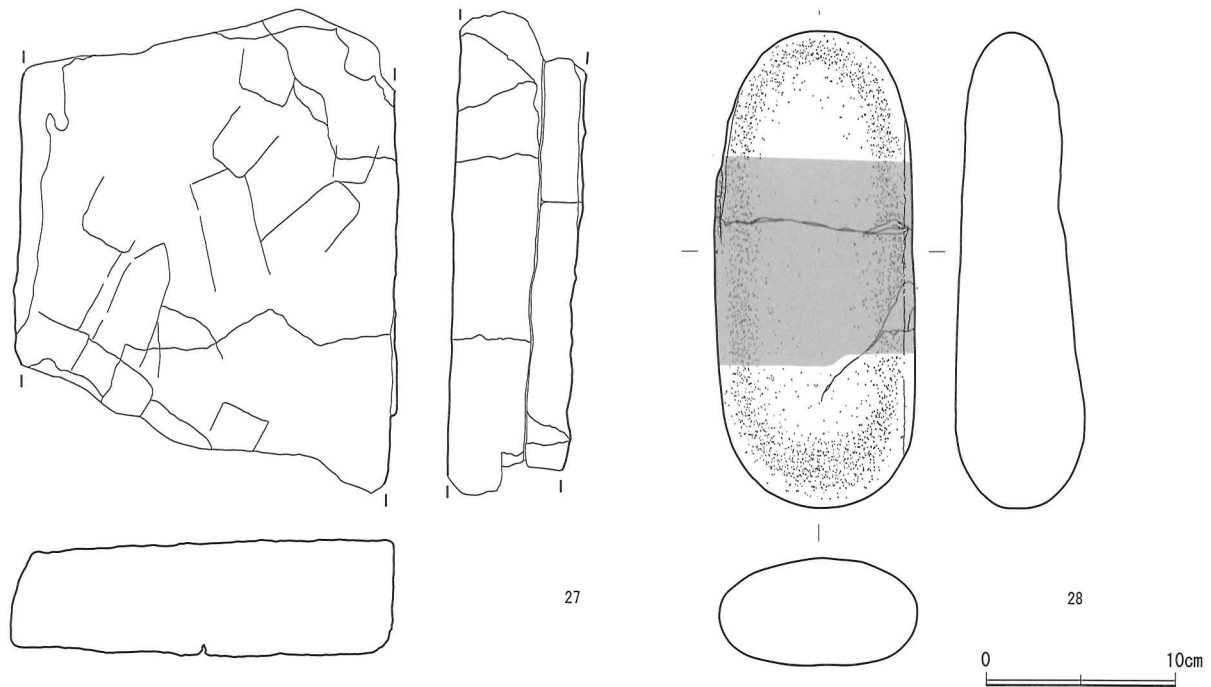
19



第 54 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



第 55 图 第 9 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



第 56 図 第 9 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	須恵器	高台付 坏	—	3.9	8.0	長石・石英・細 礫	灰	良好	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南東部 覆土下層	90% 図版 20 益子窯 内面使用痕 硯転用
10	須恵器	高台付 坏	[13.4]	5.6	[8.9]	長石・石英・細 礫	灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	南西部床面・ カマド内	55% 図版 20 益子窯
11	須恵器	高台付 坏	—	(2.3)	9.0	長石・石英	灰	普通	底部片 底部回転ヘラ切り後ナデ	南東コーナー 覆土下層	10% 図版 20 益子窯 硯転用
12	須恵器	盤	18.0	3.9	11.2	長石・石英・チ ャート	灰	良好	ロクロナデ 体部下端横位のヘラ削り 底部回 転ヘラ切り	南東部覆土 下層～中層	65% 図版 20 底部「吉 □」 墨書 「一」ヘラ記号 益子窯
13	須恵器	蓋	—	(1.7)	—	長石・石英	灰	良好	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部 剥離	南西部 覆土下層	40% 図版 21 益子窯
14	須恵器	高盤	[17.0]	(5.3)	—	長石・石英	褐灰	普通	ロクロナデ 外面回転ヘラ削り 脚部貼り付け 高台内面しぼり痕	南東部 覆土下層	30% 図版 21 益子窯
15	須恵器	短頸壺	5.2	6.2	5.1	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り	南東部 覆土下層	95% 図版 21 益子窯
16	須恵器	短頸壺	6.4	7.9	6.0	長石・石英・細 礫	灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中央部床面	90% 図版 21 益子窯
17	須恵器	短頸壺	—	(14.4)	12.0	長石・石英・細 礫・チャート	灰	普通	ロクロナデ 底部ナデ	南東部床面	65% 図版 21 益子窯
18	灰釉 陶器	長頸瓶	—	(8.3)	[7.9]	長石・石英・鉄 分	褐灰 釉: 褐灰	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ切り 外面釉	南部床面	10% 図版 21 猿投窯
19	須恵器	横瓶	—	(28.3)	[43.5]	長石・石英・細 礫	にぶい 橙	普通	体部外面長径方向のカキ目後 短径方向にカキ 目 一方の孔を塞いだ後十文字のカキ目 内面 半径 2.5cm の同心円 7 条の当て具痕	中央～ 南東部 覆土下層	60% 図版 22 益子窯
20	土師器	甗	[20.8]	32.0	7.0	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面上位縦位のヘラナデ下 位縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ 底部 木炭痕	東部床面	80% 図版 21
21	土師器	甗	—	(5.4)	—	石英・角閃石・ チャート・スコ リア	にぶい 黄橙	普通	頸部から体部ロクロナデ 体部外面縦位の刷毛 目調整 内面横位のヘラナデ	南東部 覆土下層	5% 図版 21
22	土師器	甗	[16.8]	(16.5)	—	長石・石英・白 雲母	にぶい 橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下位縦位のヘラ削り後縦位の粗いヘラ磨き 内 面横位のヘラナデ	カマド内	10% 図版 21 常総型甗

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
23	土師器	甗	12.9	(8.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド内～中央部床面	5% 図版 21 武蔵型甗
24	土師器	甗	[19.9]	(8.2)	—	長石・石英・スコーリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド前～南東部覆土下層	5% 図版 21 武蔵型甗
25	須恵器	甗	26.2	(29.7)	—	長石・石英・細礫	灰	普通	ロクロナデ 頸部斜位の平行叩き後ロクロナデ 体部外面平行叩き 内面無文の当具痕	西部 覆土下層	50% 図版 22 頸部外面「大」 籓書「十」刻 書 南那須窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
26	刀子	(8.0)	0.9	0.4	(8.0)	鉄	茎部一部 刃部先端欠損	西部 覆土下層	図版 22
27	カマド 補強材	(25.5)	20.1	6.2	(2500.0)	凝灰岩	外面ケズリ痕	カマド 左袖内	図版 22
28	支脚 転用	25.0	10.6	6.8	2524.0	砂岩	中央部帯状に煤付着	カマド内	図版 22

第 10 号堅穴建物跡 (SI10) (第 57・58 図、第 20・24 表、図版 7・22・23)

位置 調査区西部 H 3～H 4 グリッドに位置し、標高 89 m の台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認している。第 9 号堅穴建物跡・第 48・49 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第 9 号堅穴建物に掘り込まれ、長軸 4.70 m、短軸 1.32 m しか確認できず、平面形は方形と推測される。主軸方位は N-5°-W である。壁は確認面から最大高 30cm で、外傾して立ち上がっている。床 ほぼ平坦で、確認された部分が硬化している。

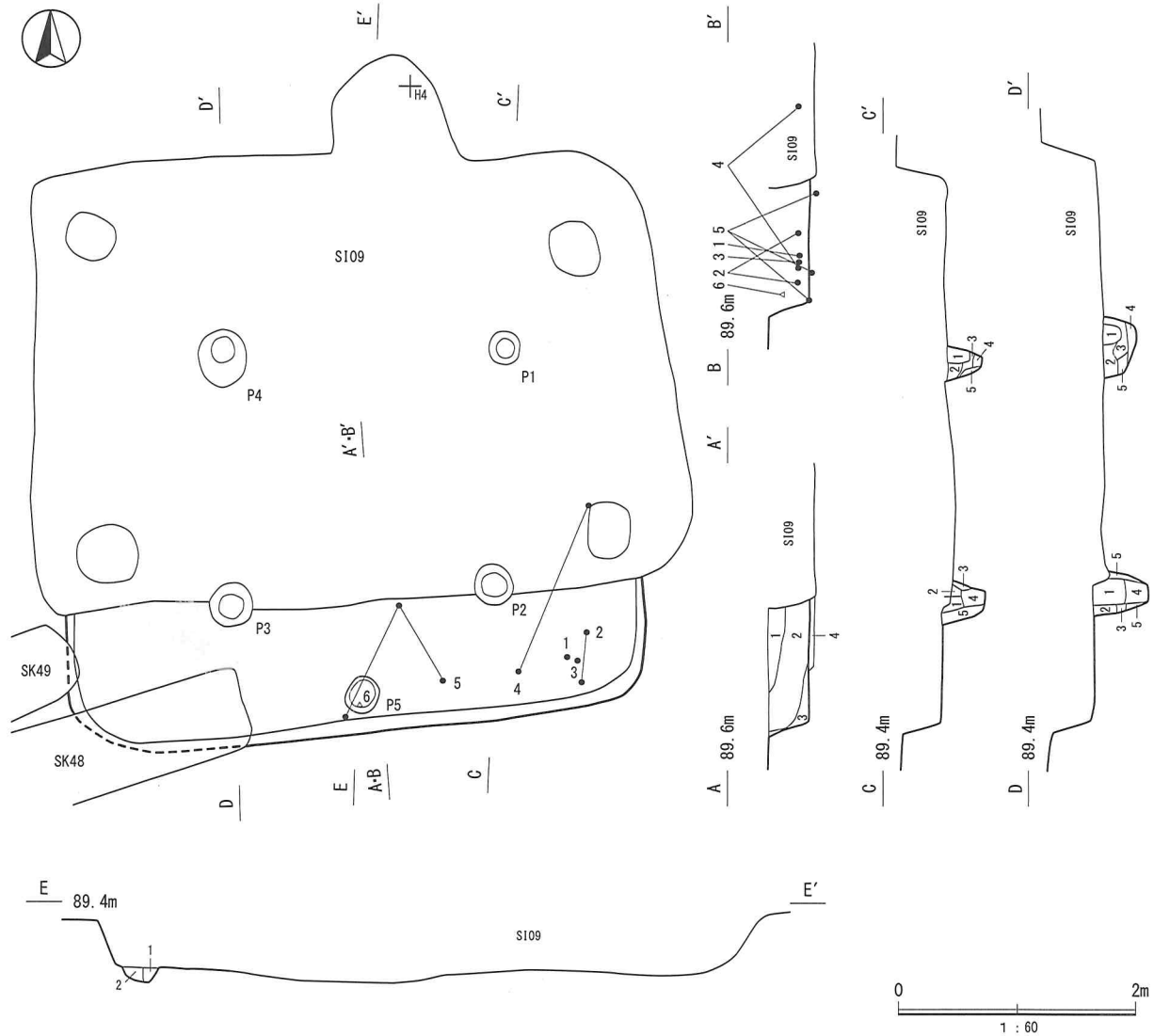
カマド 第 9 号堅穴建物に掘り込まれていることからカマドを確認することはできなかった。

土層 3 層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。4 層は貼床の構築土である。

ピット 床面と第 9 号堅穴建物の床下から、ピット 5 か所が検出され、P 1～P 4 は支柱穴、P 5 は出入口施設と考えられる。P 1:25×24cm、深さ 36cm、P 2:35×34cm、深さ 38cm、P 3:35×35cm、深さ 50cm、P 4:40×40cm、深さ 30cm、P 5:30×24cm、深さ 16cm である。

遺物出土状況 土師器甗片 95 点 (1,114g)、須恵器片 182 点 [坏 2 点 (141g)、高台付坏 1 点 (17g)、蓋 1 点 (51g)、甗 2 点 (18g)]、鉄製品 1 点 (15g)、石 8 点 (5,500g)。1 の須恵器坏、2 の須恵器蓋、3 の土師器甗は南東コーナー部の覆土中層、4 の須恵器甗は南東部と第 9 号堅穴建物跡の覆土中層、5 の土師器小型甗は南部の床面、6 の刀子は南部の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀中葉以前と考えられる。出土した土器類は、第 9 号堅穴建物跡と同様に、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。



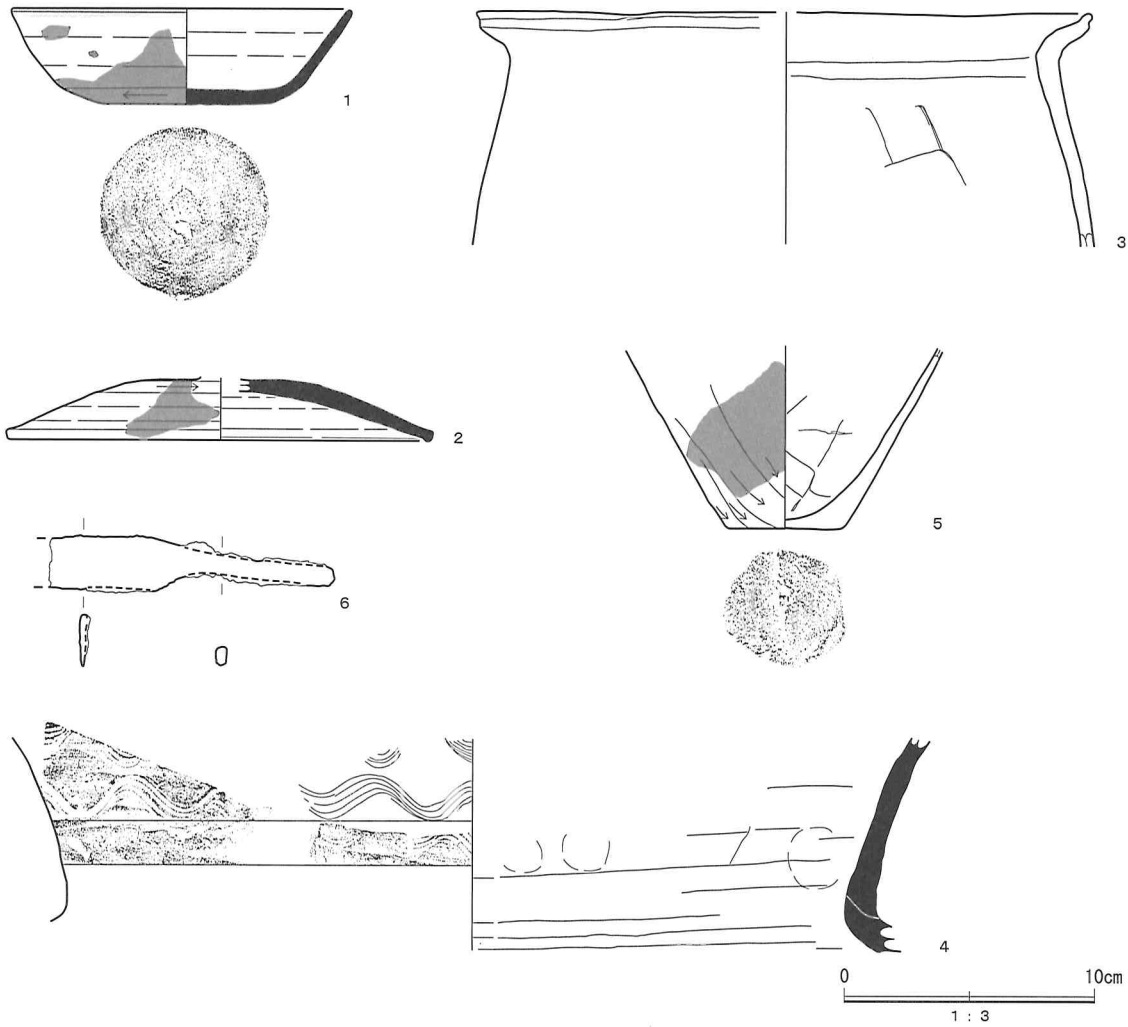
SI10 土層解説

- | | | | | | | |
|---|----------|-----|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりなし |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし | |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりあり | |

SI10 ピット土層解説 (P1 ~ P5)

- | | | | | | | |
|---|----------|------|---------------------|-------------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック微量・粒子中量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりなし |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりあり | |
| 3 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | ロームブロック中量・粒子少量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | | |
| 5 | 7.5YR3/3 | 黒褐色 | ロームブロック少量・粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | | |

第 57 図 第 10 号堅穴建物跡実測図



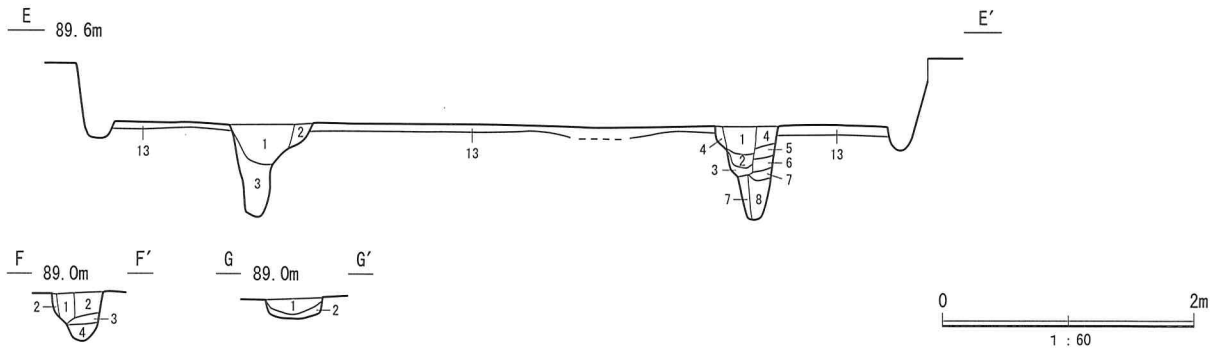
第 58 図 第 10 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 20 表 第 10 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.3	3.8	6.8	長石・石英・鉄分	灰黄褐	良好	ロクロナデ 外面回転ヘラ削り	南東コーナー 覆土中層	50% 図版 22 益子窯 体部 外面煤付着
2	須恵器	蓋	[16.6]	(2.3)	—	長石・石英	灰白	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部 剥離	南東コーナー 覆土中層	20% 図版 22 三倉山麓窯 外面煤付着
3	土師器	甗	[24.2]	(9.3)	—	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面 横位のヘラナデ	南東コーナー 覆土中層	5% 図版 23
4	須恵器	甗	—	(8.3)	—	長石・石英・雲母	黄灰	良好	頸部ロクロナデ 外面 7 本の櫛歯状工具による 波状文を 2 段に施文	南東部覆土 中層・SI09 覆土中層	5% 図版 23 新治窯
5	土師器	小型甗	—	(7.2)	4.6	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面斜位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	南部床面	20% 図版 23 外面煤付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴			出土位置	備考
6	刀子	(11.3)	2.3	0.25 ~ 3.5	(15)	鉄	茎部厚さ 3.5cm 刃部厚さ 2.5 cm 先端欠損			南部 覆土上層	図版 22

第 11A 号堅穴建物跡 (SI11A) (第 59 ~ 64 図、第 21・24 表、図版 7・23 ~ 25)

位置 調査区北部 C 5 ~ C 6 グリッドに位置し、標高 89 m の台地の平坦部に立地する。



第 60 図 第 11A 号堅穴建物跡実測図 (2)

SI11A 土層解説

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----------|-----|----------------|-------------------|-----------------|-------|----|----------|----------|----------------|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック微量・粒子中量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし | P3 | 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり |
| 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化物微量・粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | | 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | |
| 3 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりなし | | 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | | |
| 4 | 7.5YR4/3 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりなし | | P4 | 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり |
| 5 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 黒色土ブロック・粒子少量/粘性あり | 縮まりなし | | 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | | |
| 6 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | 3 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 7 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 炭化粒子中量 | 粘土粒子少量/粘性あり | 縮まりなし | 4 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 8 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | 5 | 7.5YR4/3 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子少量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 9 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性なし | 縮まりなし | 6 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック微量・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 10 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | 7 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子多量 | 炭化粒子微量/粘性あり | 縮まりあり | | |
| 11 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | 8 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | | |
| 12 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子少量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | P5 | 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 13 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | | |

SI11A 貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|----------|-----|----------------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |

SI11A ピット土層解説

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|----------|------|----------------|-------------|-------------|-------|----------|----------|---------|--------------|-------------|-------|
| P1 | 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | P6 | 1 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| | 2 | 7.5YR3/3 | 褐色 | ロームブロック中量/粘性あり | 縮まりあり | | 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 炭化粒子中量 | 焼土粒子少量/粘性あり | 縮まりあり |
| | 3 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック少量/粘性あり | 縮まりなし | | 3 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子中量 | 焼土粒子少量/粘性あり | 縮まりなし |
| | 4 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック中量/粘性あり | 縮まりあり | | 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 炭化粒子多量 | 焼土粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| P2 | 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりなし | 5 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| | 2 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | ロームブロック・粒子多量 | 炭化粒子微量/粘性あり | 縮まりあり |
| | 3 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | | | | | | | |
| | 4 | 7.5YR3/2 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | | | | | | | |
| | 5 | 7.5YR4/6 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | | | | | | | |
| | 6 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | | | | | | | |

確認状況 ローム層上面で確認している。第 11B・C 号堅穴建物跡を掘り込み、第 38・39・41・43 号土坑、第 2 号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 7.08 m、短軸 6.64 m で、平面形は方形である。主軸方位は N-3°-W である。壁は確認面から最大高 58cm で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅 10~20cm、下幅 6~10cm、深さ 10cm でほぼ全周する。断面形は U 字形である。

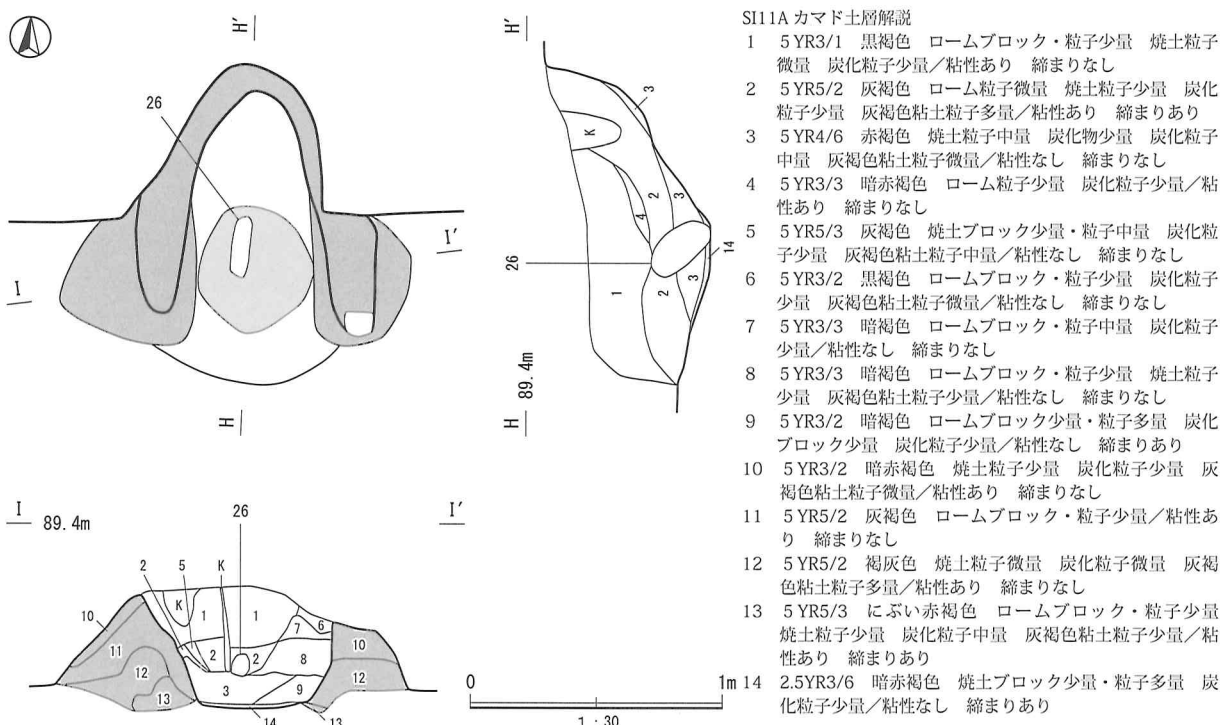
床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

カマド 北壁中央東寄りにあり、砂混じりの暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 130cm である。袖部の基部の最大幅は約 140cm で、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは穏やかに立ち上がっている。

土層 12 層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。13 層は貼床の構築土である。

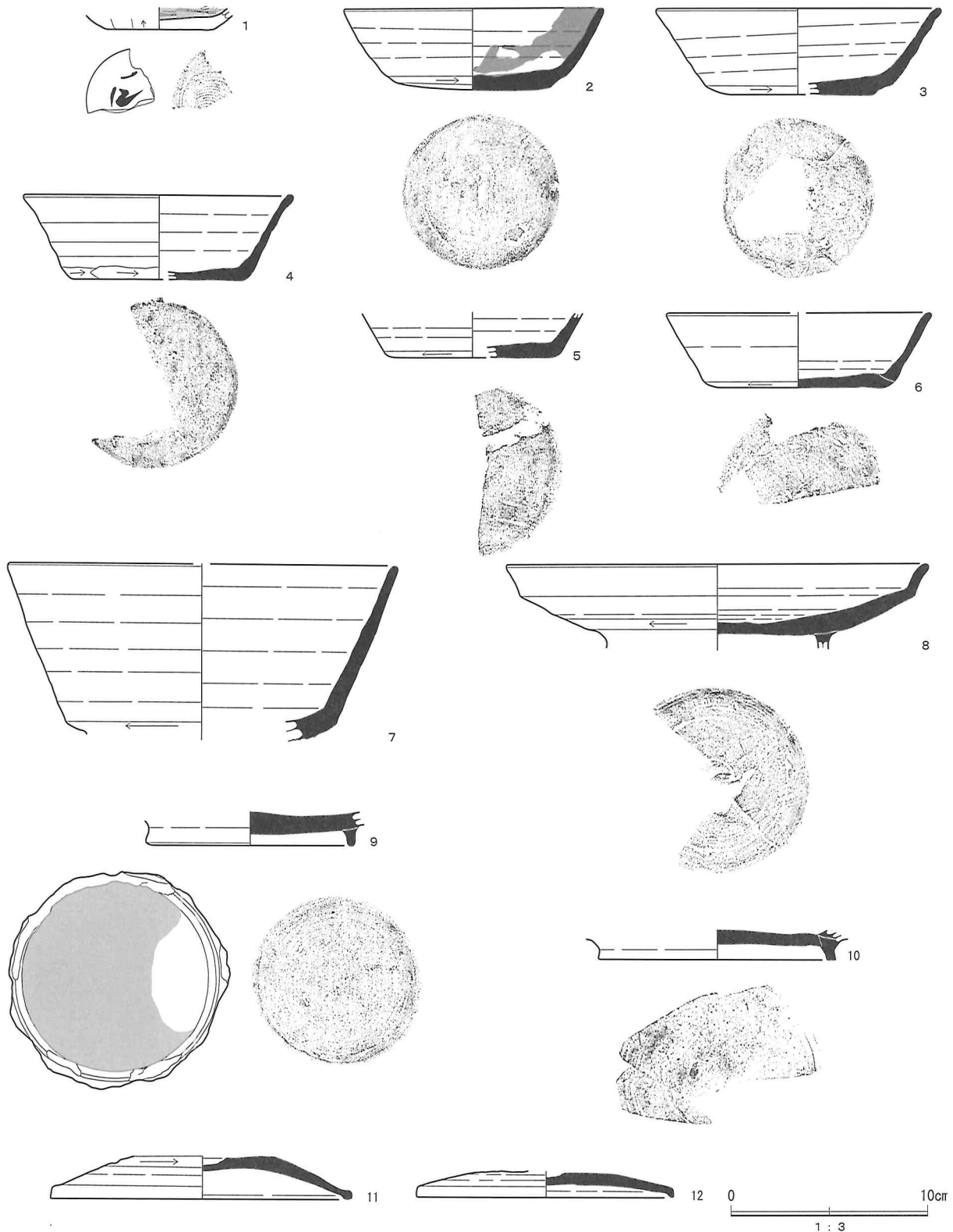
ピット 床面からピット 6 か所が検出され、P 1~P 4 は支柱穴、P 5 は出入口施設と考えられる。P 6 は P 1 を掘り込んでいることから、支柱の補助的役割をもつ可能性がある。P 1 : 60 × 50cm、深さ 96cm、P 2 : 50 × 46cm、深さ 62cm、P 3 : 70 × 60cm、深さ 75cm、P 4 : 48 × 46cm、深さ 76cm、P 5 : 60 × 50cm、深さ 40cm、P 6 : 48 × 46cm、深さ 35cm である。

遺物出土状況 土師器片 546 点 [坏 47 点 (388g)、高台付坏 1 点 (23g)、甕 498 点 (4,592g)]、須恵器片 173 点 [坏 9 点 (487g)、高台付坏 3 点 (93g)、蓋 4 点 (295g)、盤 3 点 (555g)、鉢 3 点 (889g)、瓶 5 点 (68g)、甕 146 点 (3,577g)]、鉄製品 1 点 (4g)、石製品 1 点 (171g)、瓦質土器片 1 点 (16g)、石 10 点 (1,663g)。2 の須恵器坏、20 の土師器甕は建物内の床面から覆土上層にかけて散らばっている。3 の須恵器坏、9 の須恵器盤、11 の須恵器蓋、19 の土師器甕は南部の床面、4 の須恵器坏は北東部覆土上層と床面、5・6 の須恵

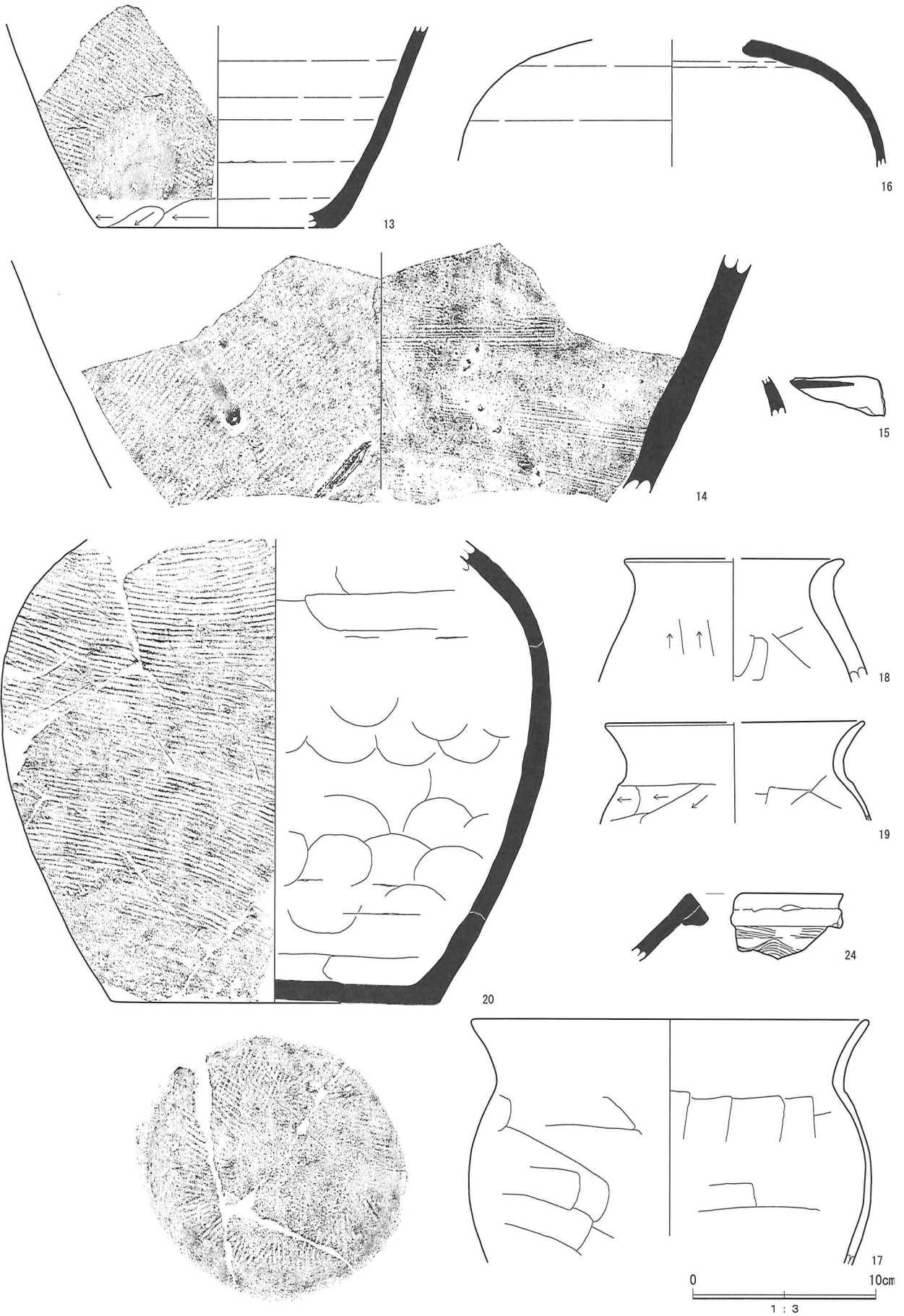


第 61 図 第 11A 号堅穴建物跡カマド実測図

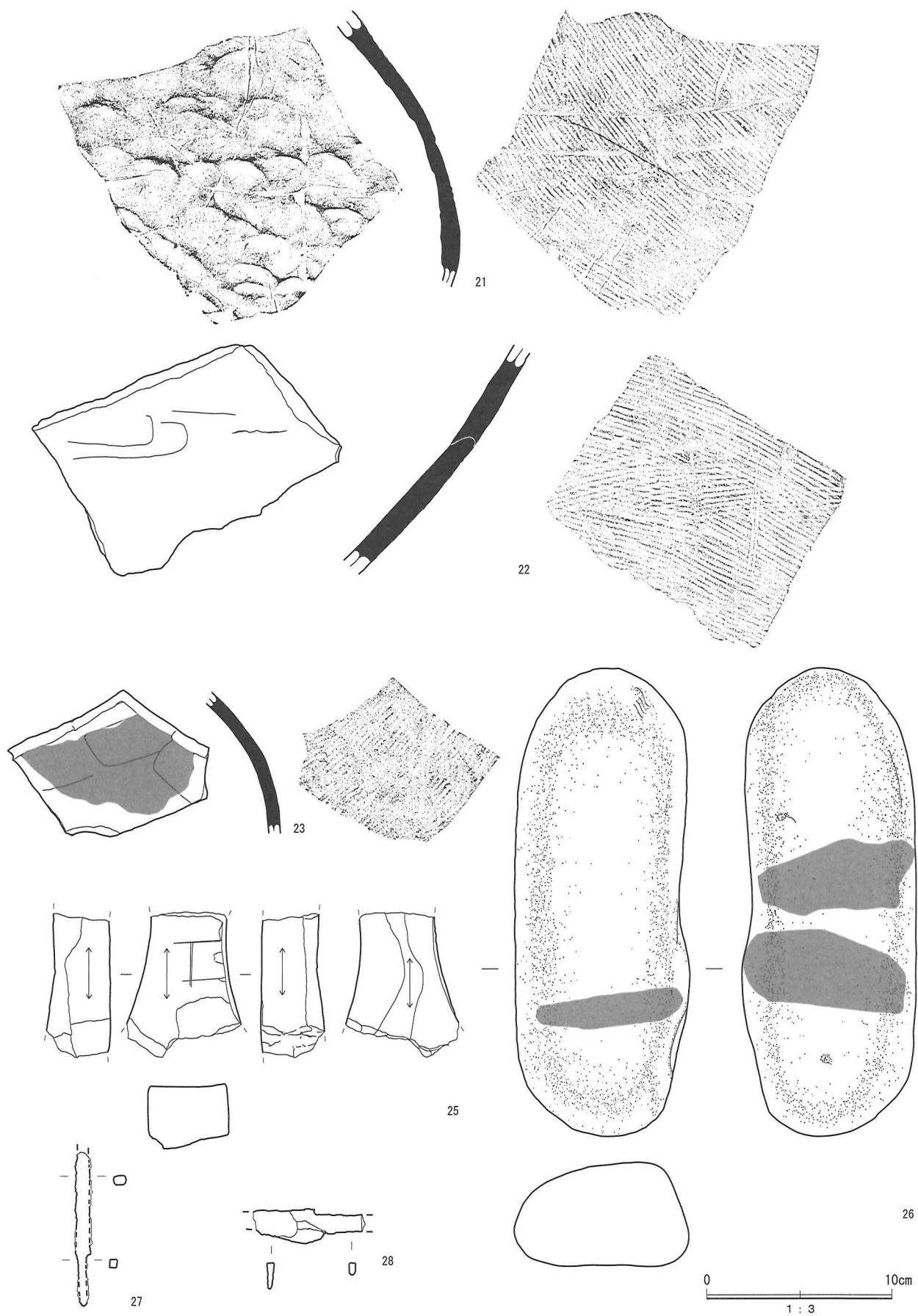
器坏、8の須恵器盤は中央部の床面、7の須恵器高台付碗は中央部覆土上層から下層、10の須恵器盤は南東部覆土下層、21の須恵器甗は南から南東部の覆土中層・下層、12の須恵器蓋、25の砥石は南東部、28の鏝は南西部の覆土中層、13の須恵器鉢は南壁の床面からそれぞれ出土している。また、14の須恵器鉢、22の須恵器甗は南東コーナー部の床面、16の須恵器瓶は中央部の覆土下層、17の土師器甗はカマド内と東部の覆



第 62 図 第 11A 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 63 图 第 11A 号竖穴建物迹出土遗物实测图 (2)



第64图 第11A号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)

土中層、18の土師器甕は北西部の床面、23の須恵器甕は南西部の覆土上層、26の支脚転用石はカマド内から出土している。なお、1の土師器坏、15の須恵器壺、24の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から8世紀後葉と考えられる。床面下が確認された第11B・C号堅穴建物跡を再利用し、拡張して構築されている。

第21表 第11A号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	—	(1.1)	[5.2]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り 内面黒色処理後ヘラ磨き	覆土中	5% 図版23 底部「シ」カ 墨書
2	須恵器	坏	13.1	4.2	7.8	長石・石英・細 礫	灰	普通	ロクロナデ 外面回転ヘラ削り後ナデ	東部床面上層 ～南西部床面	90% 図版23 宇都宮窯 体 部内面煤付着
3	須恵器	坏	14.4	4.4	7.8	長石・石英・細 礫	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ	南部床面	50% 図版23 宇都宮窯
4	須恵器	坏	[13.5]	4.3	[8.5]	長石・石英・チ ャート	黄灰	普通	ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部二 方向のヘラ削り	北東部上層・ 床面	50% 図版23 益子窯
5	須恵器	坏	—	(2.3)	[8.2]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部ヘラ 削り後ナデ	中央部床面	25% 図版23 益子窯
6	須恵器	坏	[13.4]	3.8	[8.5]	長石・石英・雲 母	灰黄	不良	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り	中央部床面	25% 図版23 新治窯
7	須恵器	高台付 碗	[19.6]	(8.9)	—	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 体部下端ヘラ削り	中央部覆土 上層・下層	20% 図版23 三倉山麓窯
8	須恵器	盤	[21.4]	(4.3)	—	長石・石英・雲 母	灰黄	不良	ロクロナデ 外面回転ヘラ削り 底部回転ヘラ 削り	中央部床面 ～覆土下層	70% 図版23 新治窯
9	須恵器	盤	—	(1.7)	10.2	長石・石英・細 礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	南部床面	30% 図版23 益子窯 硯転用
10	須恵器	盤	—	(2.0)	[12.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ 外面自然 釉	南東部 覆土下層	10% 図版23 益子窯
11	須恵器	蓋	15.2	(2.2)	—	長石・石英・雲 母	灰白	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部 剥離	南部床面	80% 図版23 新治窯
12	須恵器	蓋	[13.0]	(1.2)	—	長石・石英	灰白	普通	天井部ロクロナデ 頂部回転ヘラ削り 摘み部 剥離	南東部 覆土中層	40% 図版23 三倉山麓窯
13	須恵器	鉢	—	(11.0)	[13.0]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	灰黄褐	不良	体部外面斜位の平行叩き 体部下端横位のヘラ 削り 内面横位のナデ	南壁床面	5% 図版23 新治窯
14	須恵器	鉢	—	(13.0)	—	長石・石英・細 礫	灰 釉:オ リーブ 黒	良好	体部外面斜位の平行叩き 内面横位のヘラナデ 自然釉	南東コーナ ー 床面	5% 図版23 三倉山麓窯
15	須恵器	壺	—	(2.1)	—	長石	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5% 図版23 体部外面「一」 カ 朱書
16	須恵器	瓶	—	(6.9)	—	長石	褐灰 釉:暗オ リーブ	良好	体部ロクロナデ 頸部剥離	中央部 覆土下層	10% 図版24 三倉山麓窯
17	土師器	甕	[21.4]	(13.3)	—	長石・石英・角 閃石	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 外面下位斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド内・東 部覆土中層	20% 図版24 武蔵型甕
18	土師器	甕	[11.8]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面 横位のナデ	北西部床面	10% 図版24
19	土師器	甕	[12.0]	(5.5)	—	長石・石英・雲 母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面 横位のヘラナデ	南部床面～ 覆土下層	5% 図版24 武蔵型甕
20	須恵器	甕	—	(25.3)	17.4	長石・石英・雲 母・細礫	褐灰	普通	体部外面横位の平行叩き 下端横位のヘラ削り 内面上位横位のナデ 内面中位無文の当て具 痕 内面下位横位のナデ 底部内面カキ目状工 具による放射状のナデ	カマド前 上層～南部 床面	40% 図版24 新治窯
21	須恵器	甕	—	(15.0)	—	長石・石英・雲 母	灰白	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	南～南東部 覆土中・下層	5% 図版24 新治窯
22	須恵器	甕	—	(12.2)	—	長石・石英・雲 母	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面横位のナデ	南東コーナ ー 床面	5% 図版24 新治窯
23	須恵器	甕	—	(7.1)	—	長石	黄灰	良好	体部外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	南西部 覆土上層	5% 図版24 益子窯 硯転用
24	須恵器	甕	—	(3.6)	—	長石・石英・雲 母	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ 外面7本以上の櫛描波状文	覆土中	5% 図版24 新治窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
25	砥石	(7.7)	(5.9)	(3.4)	(171.0)	泥岩	砥面4面	南東部 覆土中層	図版24
26	支脚 転用	25.0	9.4	5.6	2326.0	斑巖	中央部に带状に煤付着	カマド内	図版25
27	刀子	(6.0)	1.8	(0.5)	(11.0)	鉄	茎部厚さ1.9cm 厚さ0.9cm 刃部厚さ0.5cm 先端欠損	中央部 覆土中層	図版24
28	鎌	(8.3)	0.7	0.5	(8.0)	鉄	形式 柳葉 鎌身長5.5cm 茎部長(2.8)cm 幅0.4cm 厚0.4cm	南西部 覆土中層	図版25

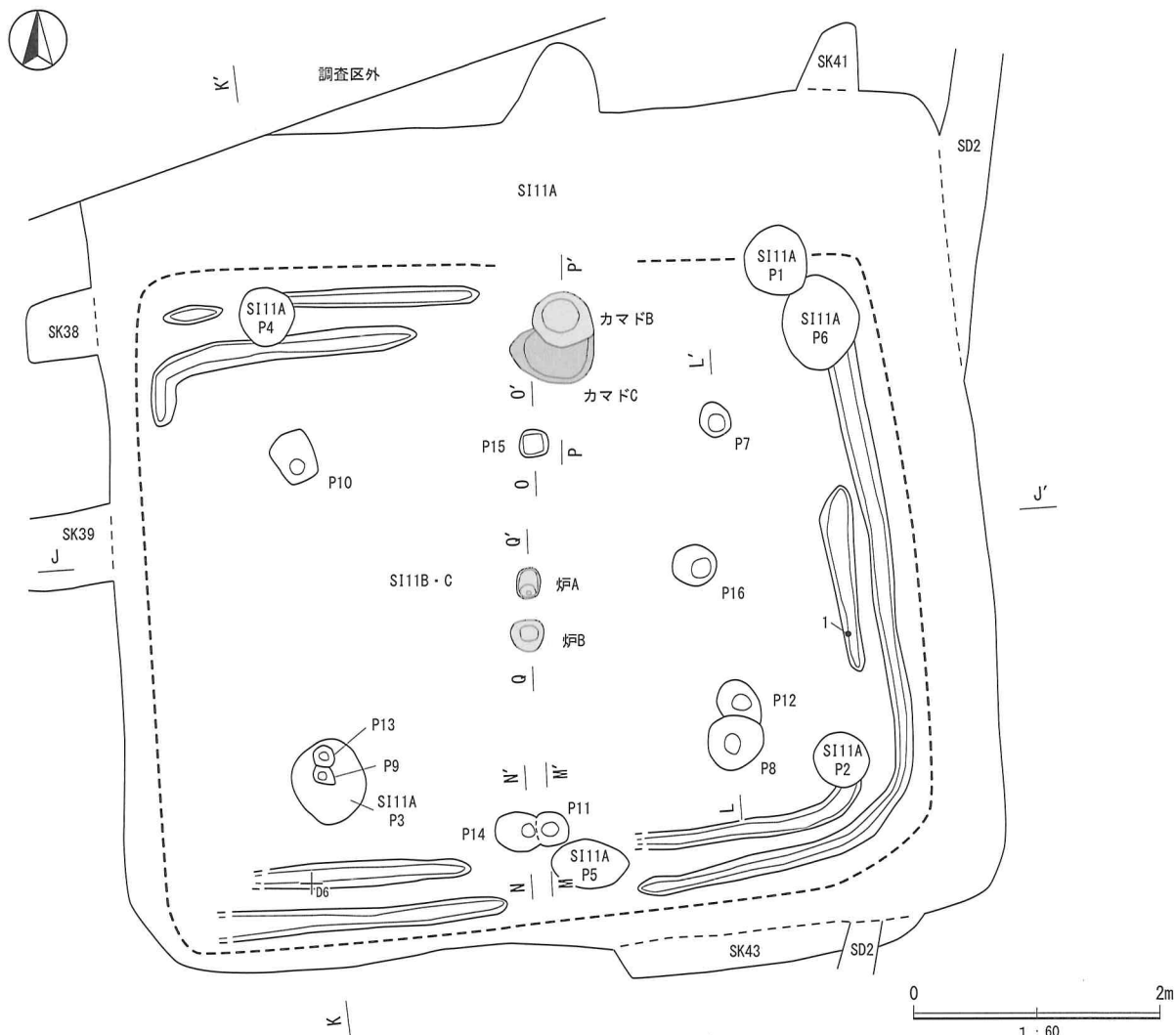
第11B号竪穴建物跡(SI11B)(第65～67図、第24表、図版7)

位置 調査区北部C5～C6グリッドに位置する。

確認状況 第11A号竪穴建物跡床下で確認した。

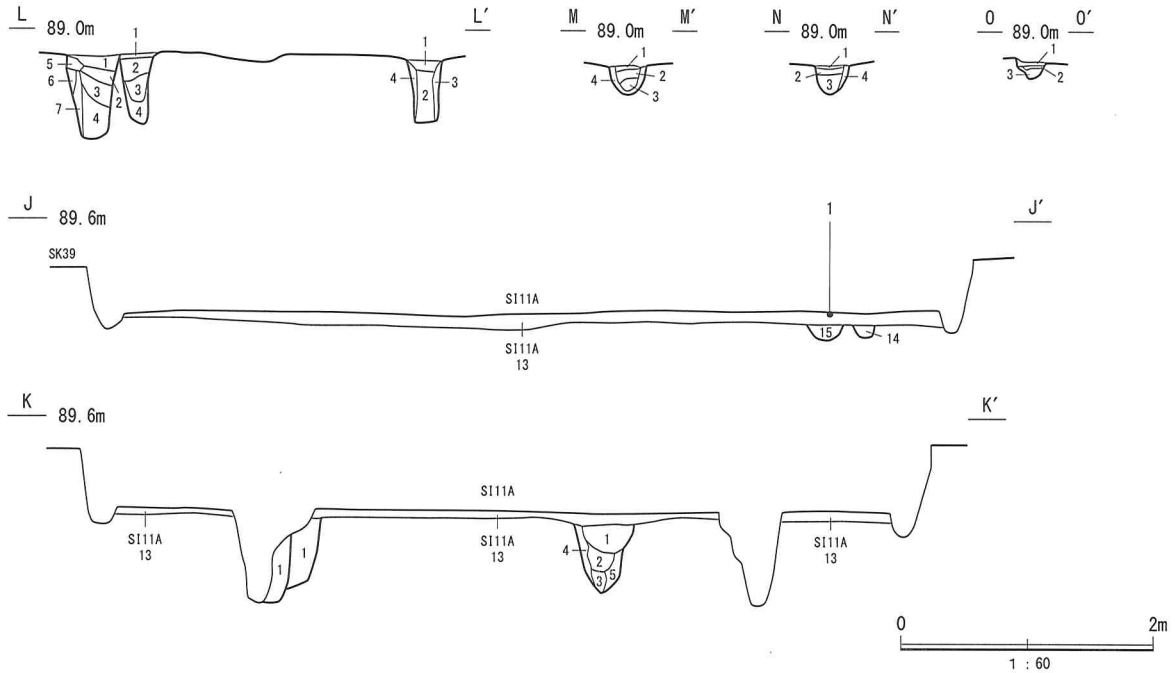
規模と形状 壁溝の範囲から、長軸6.20m、短軸4.80mで、平面形は長方形と推測される。主軸方位はN-5°-Wである。壁は確認面から最大高60cmと推定できる。壁溝は、上幅14～26cm、下幅10～14cm、深さ10cm、形状はU字状である。西壁では確認できなかったが、ほぼ全周する。

床 ほぼ平坦で、全面が硬化している。



第65図 第11B・C号竪穴建物跡実測図(1)

カマド 第 11A 号竪穴建物跡床下から、長径 70cm、短径 60cmの楕円形のカマド B の範囲を確認した。
 土層 2層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。
 ピット 床面から、ピットは 5か所で検出され、P 7～P 10 が支柱穴、P 11 は出入口施設と考えられる。P 7：
 30 × 30cm、深さ 50cm、P 8：50 × 46cm、深さ 68cm、P 9：70 × 60cm、深さ 82cm、P 10：42 × 36cm、
 深さ 70cm、P11：30 × 30cm、深さ 26cmである。



SI11B・C 土層解説 (壁溝)

- 14 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 15 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化物粒子多量/粘性あり 縮まりあり

SI11B・C ピット土層解説

- P7
- 1 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子少量/粘性あり 縮まりなし
 - 3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり
 - 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量/粘性あり 縮まりあり
- P8
- 1 7.5YR4/3 黒褐色 ローム粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりなし
 - 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性なし 縮まりなし
 - 5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりあり
 - 6 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック少量/粘性あり 縮まりあり
 - 7 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック少量/粘性あり 縮まりなし
- P9
- 1 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- P10
- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量/粘性あり 縮まりなし
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりなし
 - 3 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性なし 縮まりなし
 - 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性あり 縮まりあり
 - 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量/粘性あり 縮まりあり
- P11
- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

P12

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 褐色 ロームブロック中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性なし 縮まりなし

P13

- 1 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量 ローム粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

P14

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

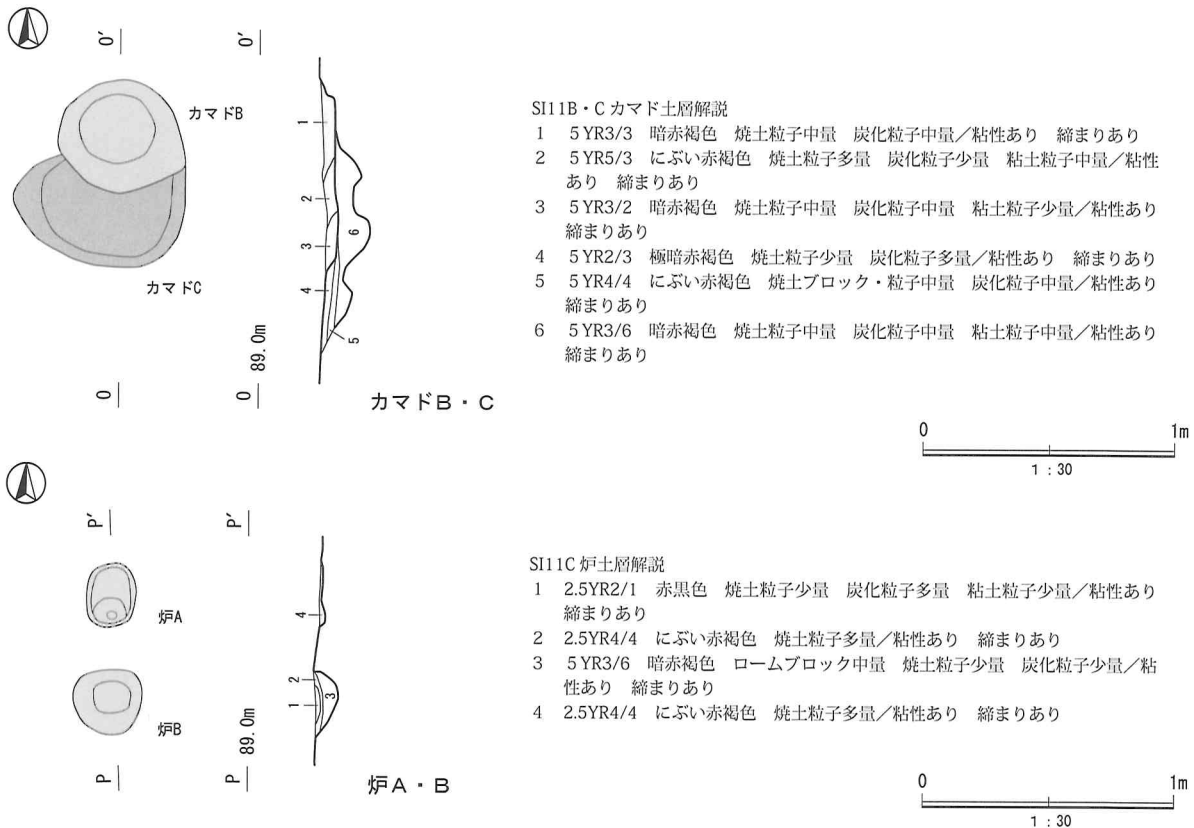
P15

- 1 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

第 66 図 第 11B・C 号竪穴建物跡実測図 (2)

遺物出土状況 出土しなかった。

所見 時期は、重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。第11C号竪穴建物跡を拡張して構築されている。



第 67 図 第 11B・C 号竪穴建物跡実測図 (3)

第 11C 号竪穴建物跡 (SI11C) (第 68～70 図、第 22・24 表、図版 7・25)

位置 調査区北部 C 5～C 6 グリッドに位置する。

確認状況 第 11A 号竪穴建物跡床下で確認した。

規模と形状 壁溝の範囲から、推定長軸 5.60 m、推定短軸 4.30 m で、平面形は方形と推測される。主軸方位は N-5°-W である。壁は確認面から最大高 60cm で、外傾して立ち上がっていると考えられる。壁溝は、上幅 14～28cm、下幅 12～16cm、深さ 12cm、形状は U 字状である。西壁以外、部分的に確認できる。

床 ほぼ平坦で硬化している。

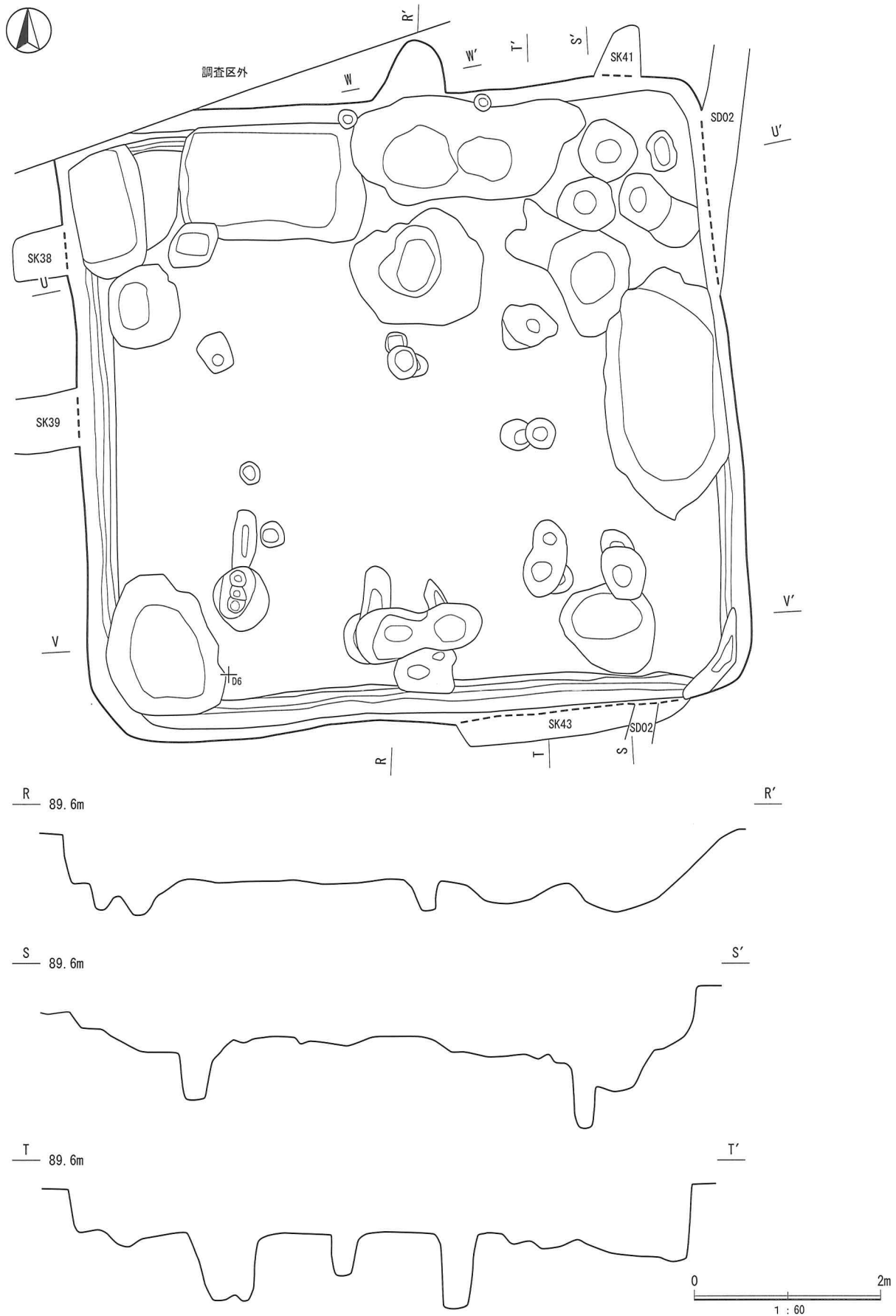
カマド 第 11B 号竪穴建物跡に掘り込まれていると考えられる。長径 60cm、短径 35cm の楕円形と推測される。

炉 中央部で長径 24cm、短径 20cm の円形と、長径 30cm、短径 28cm の円形の炉跡を 2 か所確認する。

土層 第 11B 号竪穴建物の床面とほぼ同一と考えられ、周溝の土層のみを確認する。

ピット 床面からピット 7 か所が検出された。P 7・P 10・P 12・P 13 は主柱穴、P 14 は出入口施設と考えられる。P 15・16 は不明である。P 7：30×30cm、深さ 50cm、P 12：44×32cm、深さ 52cm、P 13：70×60cm、深さ 60cm、P 10：42×36cm、深さ 70cm、P 14：40×30cm、深さ 24cm、P 15：24×24cm、深さ 20cm、P 16：36×26cm、深さ 20cm である。

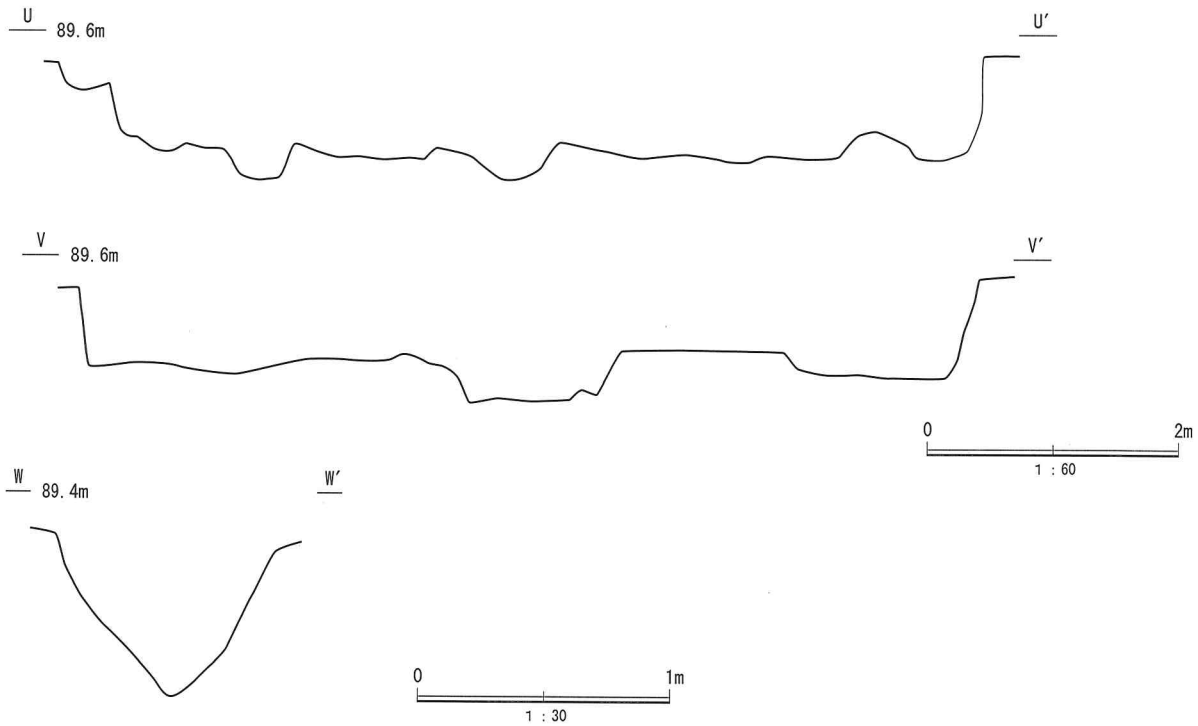
遺物出土状況 土師器片 2 点 [坏 1 点 (25g)、甕 1 点 (31g)] を確認した。1 の土師器坏は床面から出土し



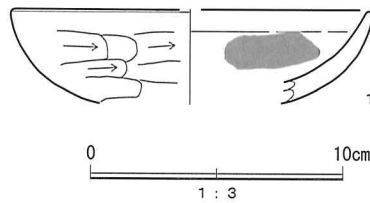
第 68 図 第 11 A~C 号堅穴建物跡掘方実測図

ている。

所見 時期は、重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。



第69図 第11A～C号堅穴建物跡掘方実測図(2)



第70図 第11C号堅穴建物跡出土遺物実測図

第22表 第11C号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(3.6)	—	細砂・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 外面横位のヘラ削り 横位のヘラナデ 体部内面	東部床面	5% 図版25 内面煤付着

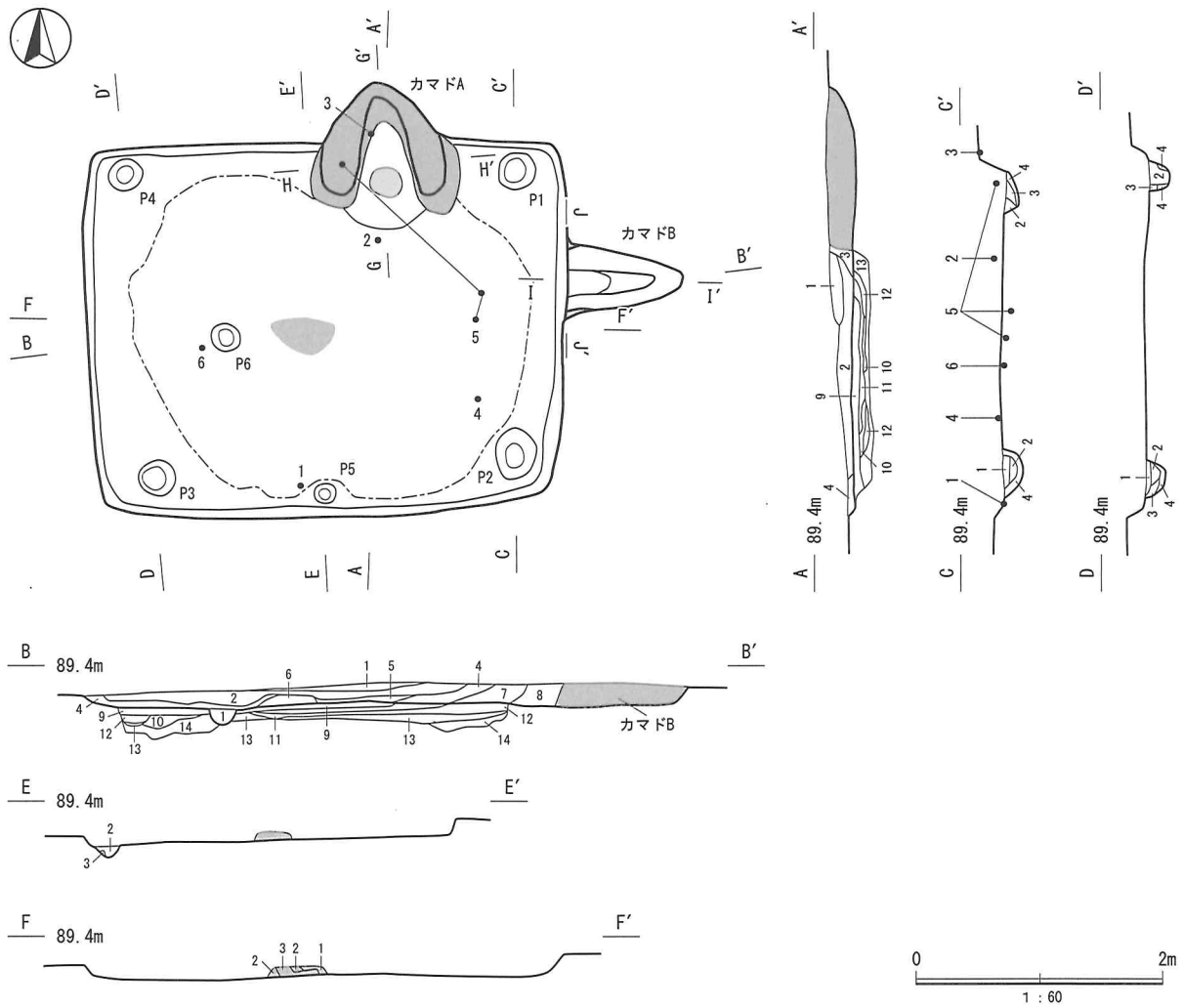
第12号堅穴建物跡 (SI12) (第71～73図、第23・24表、図版7・25)

位置 調査区西部H5グリッド、標高89mの台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.20mで、平面形は長方形である。主軸方位はN-10°-Wである。壁は確認面から最大高30cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 貼床で、カマド前から中央部が固く締まっている。



SI12 土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 3 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒子微量 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 6 7.5YR5/2 灰褐色 焼土ブロック・粒子少量 暗褐色土粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 7 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 8 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量 粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 9 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 10 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 11 7.5YR4/1 褐灰色 ローム粒子少量 炭化粒子中量 粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 12 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量 粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 13 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 粘土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 14 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性あり 縮まりあり

SI12 ピット土層解説 P1～5

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり

P6

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし

SI12 粘土塊

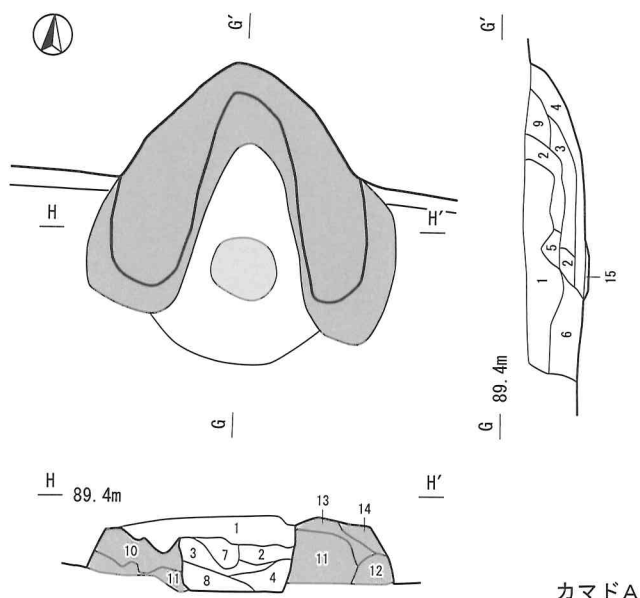
- 1 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりあり
- 2 5YR4/2 灰褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子少量 暗褐色土粘土ブロック中量/粘性あり 縮まりあり
- 3 5YR4/3 にぶい赤褐色 ローム粒子微量 焼土粒子中量 暗褐色土粘土ブロック中量/粘性あり 縮まりあり

第 71 図 第 12 号堅穴建物跡実測図

カマド A 北壁中央にあり、粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 110cm である。袖部の基部の最大幅は約 120cm で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは穏やかに立ち上がっている。

カマド B 東壁中央にあり、カマド外まで 90cm の煙道部を確認する。

土層 8 層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。9～14 層は貼床の構



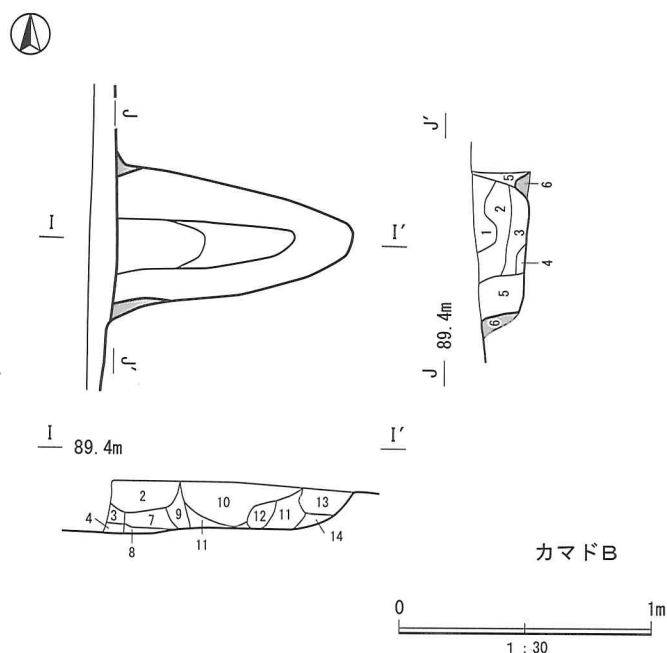
カマド A

SI12 カマド A 土層解説

- 1 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 3 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量 灰少量/粘性なし 縮まりなし
- 4 2.5YR2/1 赤黒色 焼土粒子少量 炭化物中量 炭化粒子多量 灰中量/粘性なし 縮まりなし
- 5 2.5YR4/2 灰赤色 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 6 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 褐色土粘土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 7 2.5YR2/4 極暗赤褐色 焼土ブロック少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 8 5YR2/4 極暗赤褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 9 2.5YR3/0 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 10 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 褐色土粘土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 11 2.5YR4/2 灰赤色 焼土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 12 2.5YR2/2 極暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 13 2.5YR3/1 暗赤灰色 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 14 2.5YR3/2 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり
- 15 2.5YR2/1 赤黒色 焼土ブロック中量 焼土粒子少量 灰少量/粘性なし 縮まりなし

SI12 カマド B 土層解説

- 1 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子微量 炭化粒子多量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 2 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色土粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 3 5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色土粘土粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 4 5YR3/6 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 5 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 6 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 縮まりあり
- 7 5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 8 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 9 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 10 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物中量・粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 11 5YR4/6 赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 12 5YR4/8 赤褐色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性なし 縮まりなし
- 13 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 14 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりなし

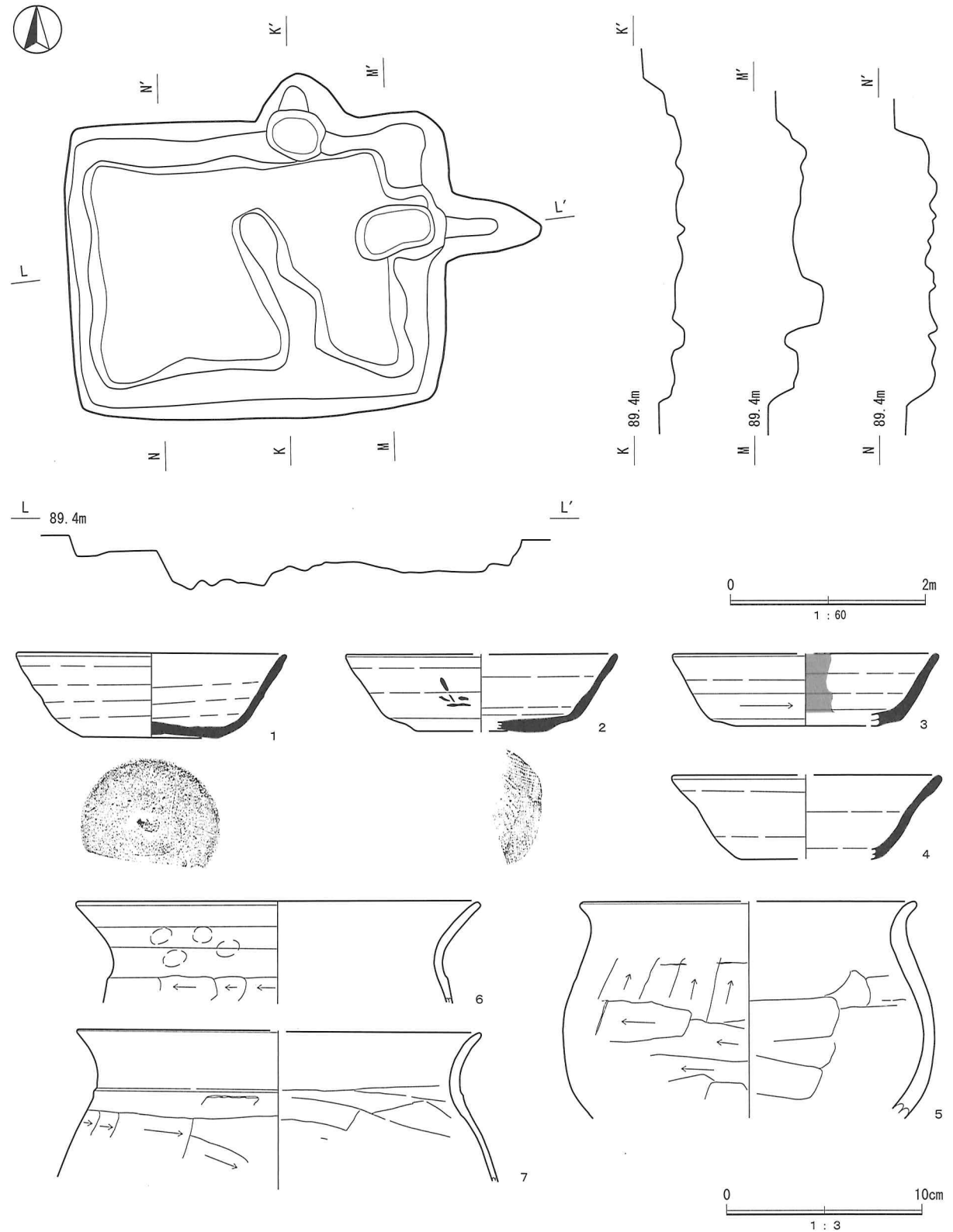


カマド B

第 72 図 第 12 号堅穴建物跡カマド実測図

築土である。

ピット 床面から、ピット6か所が検出され、P 1～P 4は主柱穴、P 5は出入口施設と考えられる。P 1：34×32cm、深さ14cm、P 2：40×34cm、深さ26cm、P 3：30×30cm、深さ24cm、P 4：30×26cm、



第73図 第12号堅穴建物跡掘方・出土遺物実測図

深さ 22cm、P5：20×20cm、深さ 10cm、P6：28×26cm、深さ 12cmである。

遺物出土状況 土師器片 150点 [坏 5点 (87g)、甕 58点 (668g)]、須恵器坏片 7点 (228g)、石 2点 (922g)。

1の須恵器坏は南壁の床面、2の須恵器坏はカマドA前の覆土中層、3の須恵器坏はカマドA内、4の須恵器坏は南東部の床面、5の土師器甕はカマドA内と東部の床面、6の土師器甕は西部の床面から、それぞれ出土している。7の土師器甕は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から9世紀前葉と考えられる。カマドはBからAに造り変えられている。

第23表 第12号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.7	4.3	7.0	長石・細礫	灰黄褐	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	南壁床面	55% 図版 25 益子窯
2	須恵器	坏	[13.6]	3.9	[6.6]	長石・石英・細礫	灰白	良好	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後外周部手持ちヘラ削り	カマドA前 覆土中層	30% 図版 25 体部外面「中」 墨書 三雲山麓窯
3	須恵器	坏	[13.4]	(3.7)	[7.4]	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	ロクロナデ 体部下端横位のヘラ削り後ナデ	カマドA内	20% 図版 25 三雲山麓窯 内面煤付着
4	須恵器	坏	[13.5]	(4.2)	[7.0]	長石・石英	灰黄	良好	ロクロナデ 体部下端回転削り	南東部床面	5% 図版 25 南那須窯
5	土師器	甕	[17.0]	(7.6)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位ヘラ削り後中位横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマドA左 袖・東部床面	5% 図版 25
6	土師器	甕	[20.6]	(5.1)	—	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 指頭痕 体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	西部床面	5% 図版 25
7	土師器	甕	[20.6]	(7.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のナデ	覆土中	5% 図版 25 武蔵型甕

第15号堅穴建物跡 (SI15) (第74図、第24表、図版8・25)

位置 調査区北西部。D2～E2グリッド、標高89mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西軸4.08m、南北軸2.80mしか確認できなかった。平面形は長方形で、主軸方向はN-85°-Wである。壁は高さ20cmで、外傾して立ち上がっている。

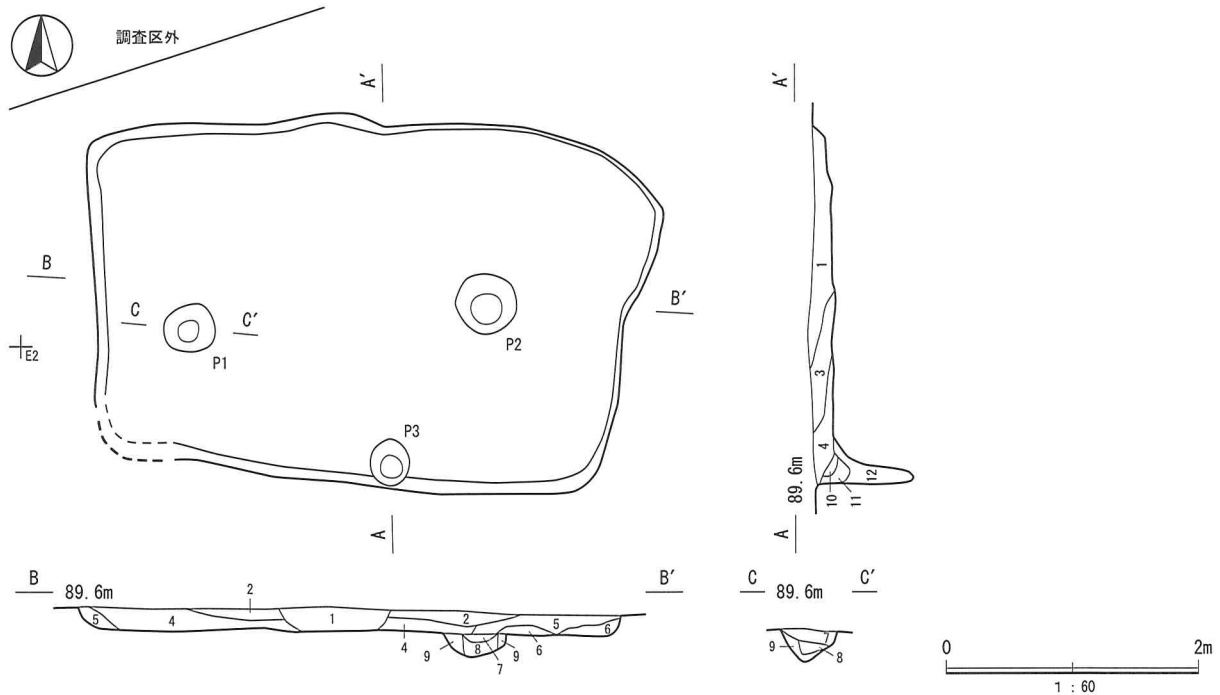
床 平坦で中央部が踏み固められている。

ピット 3か所。P1は30×40cm、深さ30cmである。P2は40×40cm、深さ18cmである。P3は30×28cm、深さ50cmである。性格はP1・P2は主柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積がみられるため人為堆積と考えられる。

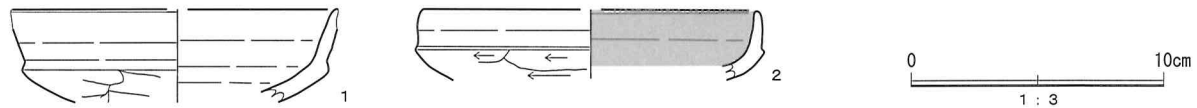
遺物出土状況 土師器片 17点 [坏 10点 (84g)、甕 7点 (211g)] が出土している。1の土師器坏、2の土師器坏は、覆土中から出土しているが、流れ込みと考えられる。

所見 時期は、形状から9世紀代と推測されるが、判断する遺物がなく、時期不明である。



SI15 土層解説

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------|-----|----------------|---------------|-------------|-------|----|---------|-----|----------------|--------------|-------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | 7 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりあり |
| 2 | 10YR3/3 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | 8 | 10YR2/3 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 焼土粒子微量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 縮まりあり | 9 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 黒色土粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりあり | | 10 | 10YR2/1 | 黒色 | ローム粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 黒色土粒子中量/粘性あり | 縮まりなし | | 11 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 黒色土粒子中量/粘性あり | 縮まりなし |
| 6 | 10YR4/3 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 焼土ブロック少量・粒子中量 | 炭化粒子少量/粘性なし | 縮まりなし | 12 | 10YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 黒色土粒子少量/粘性あり | 縮まりあり |



第 74 図 第 15 号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第 24 表 第 15 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	(3.6)	—	細砂	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土中	5% 図版 25
2	土師器	坏	[13.2]	(2.7)	—	長石・石英・ス コリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面黒色処理	覆土中	5% 図版 25

第 25 表 奈良・平安時代堅穴建物跡一覧

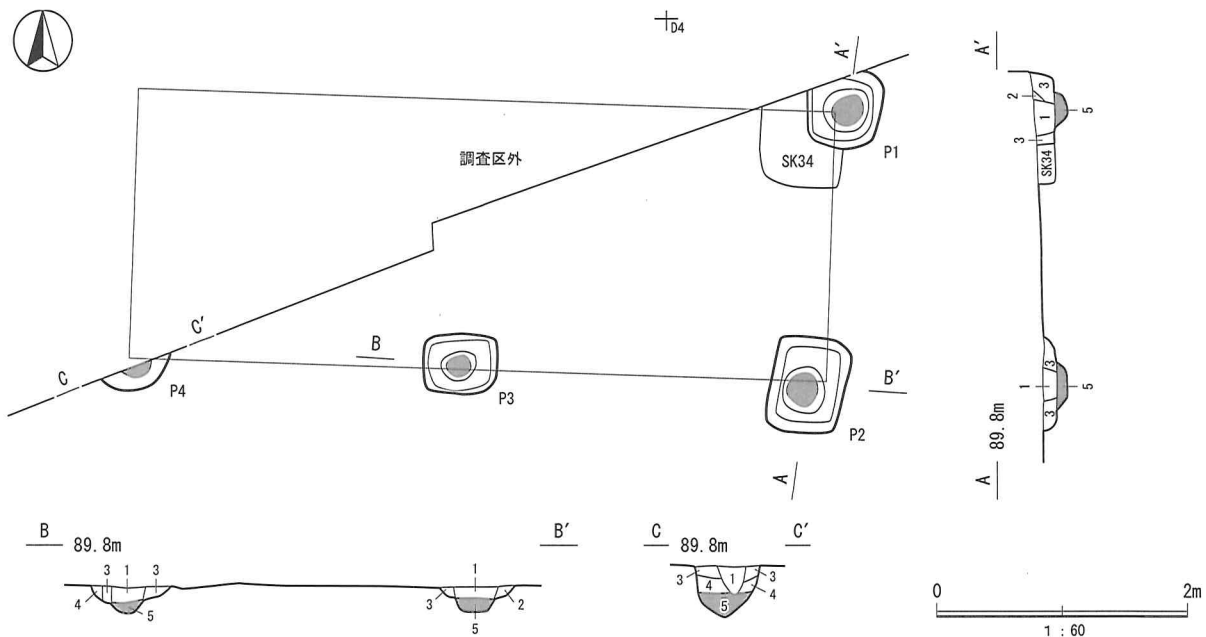
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・ カマド	貯蔵穴			
1	G1 ~ H1	N - 10° - E	方形	3.76 × 3.70	40	平坦	—	—	—	2	北壁	—	土師器 須恵器	8C 前葉	本跡→SK03
2	G2 ~ H2	N - 20° - E	長方形	3.60 × 3.20	28	平坦	一部	2	—	1	北壁	—	土師器 須恵器 石製品	8C 前葉	SI05 → 本跡 → SD01
3	F1	N - 5° - E	方形	3.14 × 2.86	40	平坦	—	4	—	—	北壁	—	土師器 須恵器	9C 前葉	本跡→SK10・12
4	E1	N - 15° - W	方形	2.78 × 2.40	18	平坦	—	—	—	—	北壁	—	土師器 須恵器	9C 中葉	本跡→SK10・11・ 51

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炬・ カマド	貯蔵穴			
5	G2～H2	N-20°-W	[方形]	3.30×(2.00)	28	平坦	全周	2	1	-	東壁	-	土師器 須恵器	8C 前葉以前	本跡→SI02
6	F2	N-15°-E	方形	3.64×2.88	28	平坦	-	4	-	-	北東 壁	1	土師器 須恵器 石製品	9C 中～後葉	
7	F3	N-10°-E	方形	2.94×2.90	15	平坦	-	4	1	-	北壁	-	土師器 須恵器 石製品	8C 前～中葉	
8	E4～F4	N-90°-E	長方形	3.62×3.04	24	平坦	全周	4	1	2	東壁	-	土師器 須恵器 土製品	8C 中葉	
9	H3～H4	N-5°-W	長方形	5.60×3.64	40	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	土師器 須恵器 石製品	8C 中葉	SI10→本跡
10	H3～H4	N-5°-W	[方形]	4.70×(1.32)	30	平坦	-	4	1	-	不明	-	土師器 須恵器 鉄製品	8C 中葉以前	本跡→SI09
11A	C5～C6	N-3°-W	方形	7.08×6.64	58	平坦	全周	4	1	1	北壁	1	土師器 須恵器 鉄製品	8C 後葉	SI11B・C→本跡→SK38・ 39・41・43、SD02
11B	C5～C6	N-5°-W	[長方形]	6.20×4.80	60	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	-	8C 後葉以前	SI11C→本跡 →SI11A
11C	C5～C6	N-5°-W	[方形]	4.60×4.30	60	平坦	一部	4	1	2	北壁 炬2	-	土師器	8C 後葉以前	本跡→SI11A・B
12	H5	N-10°-W	長方形	4.10×3.20	30	平坦	-	4	1	-	北・ 東壁	-	土師器 須恵器	9C 前葉	
15	D2～E2	N-85°-W	長方形	4.08×2.80	20	平坦	-	2	1	-	-	-	土師器	時期不明	

(2) 掘立柱建物跡

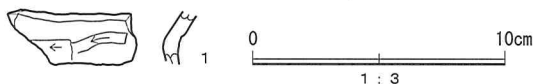
第3号掘立柱建物跡 (SB03) (第75図、第26・29表、図版8・25)

位置 調査区西部D3～D4グリッド、標高89mほどの平坦地に位置している。



SB03 ピット土層解説

- | | | | | | |
|---|-----------|-----|----------------|--------------|-------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 締まりなし |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック・粒子中量 | 黒色土粒子中量/粘性あり | 締まりあり |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 黒色土粒子中量/粘性あり | 締まりあり |
| 4 | 7.5YR4/4 | 褐色 | ロームブロック・粒子多量 | 黒色土粒子微量/粘性あり | 締まりあり |
| 5 | 7.5YR 3/1 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 締まりあり |



第75図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 北部が調査区外に延びている。第 34 号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 調査区内で桁行 2 間、梁行 1 間の側柱建物跡を確認する。桁行方向 N - 85° - W の東西棟と推測される。規模は桁行 5.2m、梁行 2.2m しか確認できなかった。面積は 11.44㎡である。柱間寸法は、桁行が南平は西妻から 2.5m (8 尺)、2.7m (9 尺) で、また、梁行は、北妻が 2.2m (7 尺) のみである。

柱穴 4 か所。掘方の平面形は方形または長方形と推定され、長軸 40 ~ 50cm、短軸 30 ~ 40cm である。深さ 20 ~ 40cm で掘方の壁は直立または外傾している。第 2 ~ 4 層は掘方への埋土で、第 1 層は柱抜き取り後の覆土で、第 5 層は当り痕と考えられる。

遺物出土状況 土師器甕片 1 点 (10g)、須恵器坏片 1 点 (2g) が出土している。1 の土師器甕は、P 3 の覆土中から出土している。

所見 第 9・10 号掘立柱建物跡に掘方が類似することから同時期のもので、8 世紀前葉と推定できる。

第 26 表 第 3 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	—	(2.0)	—	長石・石英	橙	普通	頸部外面横位のヘラ削り 内面ナデ	P3 覆土中	5% 図版 25 武蔵型甕

第 9 号掘立柱建物跡 (SB09) (第 76 図、第 27・29 表、図版 8・25)

位置 調査区西部 F 3 ~ F 4 グリッド、標高 89m ほどの平坦地に位置している。

重複関係 第 10 号掘立柱建物跡を掘り込み、第 120 号土坑、第 1 号柱穴列に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向 N - 85° - W の東西棟である。規模は桁行 6.7m、梁行 4.4m で、面積は 29.48㎡である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から 2.3m (8 尺)、1.8m (6 尺)、2.4m (8 尺)、南平が西妻から 2.4 m (8 尺)、2.4m (8 尺)、1.8m (6 尺) で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、東妻が 2.0m (7 尺)、2.0m (7 尺)、西妻が 2.0m (7 尺)、2.4m (8 尺) である。

柱穴 10 か所。掘方の平面形は方形または長方形で、長軸 50 ~ 100cm、短軸 45 ~ 55cm である。深さ 15 ~ 40cm で掘方の壁は直立または外傾している。第 3 ~ 7 層は掘方への埋土で、第 1・2 層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 9 点 [坏 1 点 (9g)、甕 8 点 (46g)] が出土している。1 の土師器坏は、P 1 内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀前葉と考えられる。

SB09 ビット土層解説

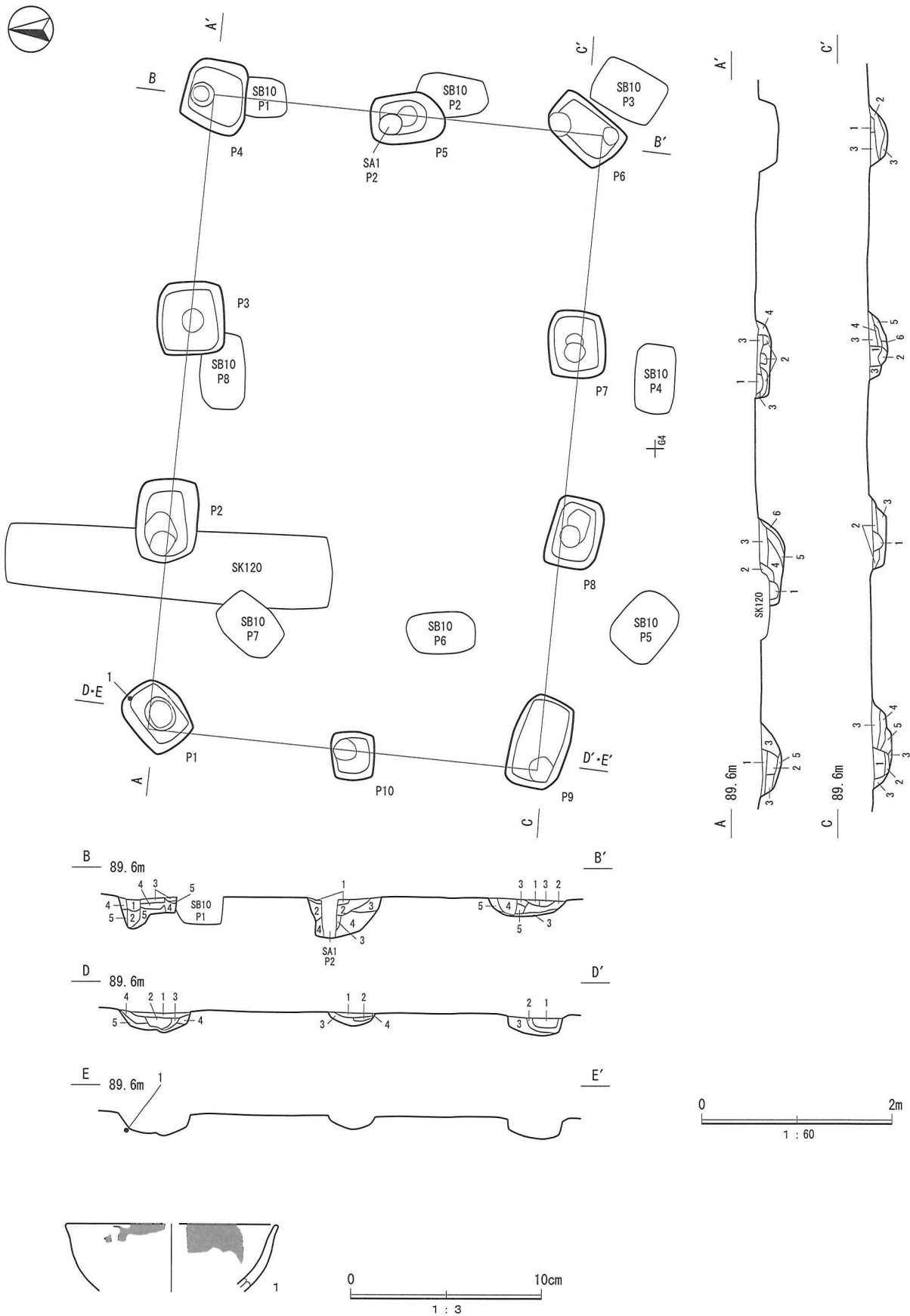
P1

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり

P2・3

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり

- 4 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 6 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- P4
- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 縮まりなし
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 4 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり
- 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり



第 76 图 第 9 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P5	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子微量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり	6	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり		
	2	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり		P8	1	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
	3	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり			2	7.5YR3/4	褐暗色	ロームブロック少量・粒子中量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり
	4	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			3	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック中量・粒子多量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	
P6	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり		P9	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
	2	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			2	7.5YR3/2	黒褐色	ロームブロック微量・粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
	3	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			3	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	
	4	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりあり			4	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり	
	5	7.5YR4/3	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			5	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
P7	1	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし		P10	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
	2	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			2	7.5YR2/2	黒褐色	ローム粒子微量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし
	3	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			3	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	縮まりなし	
	4	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり			4	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	縮まりあり	
	5	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	縮まりあり									

第 27 表 第 9 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.0]	(3.5)	—	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ナデ	P1 覆土中層	5% 図版 25 内外面油煙付着

第 10 号掘立柱建物跡 (SB10) (第 77 図、第 28・29 表、図版 8・25・26)

位置 調査区西部 F 3～F 4 グリッド、標高 89m ほどの平坦地に位置している。

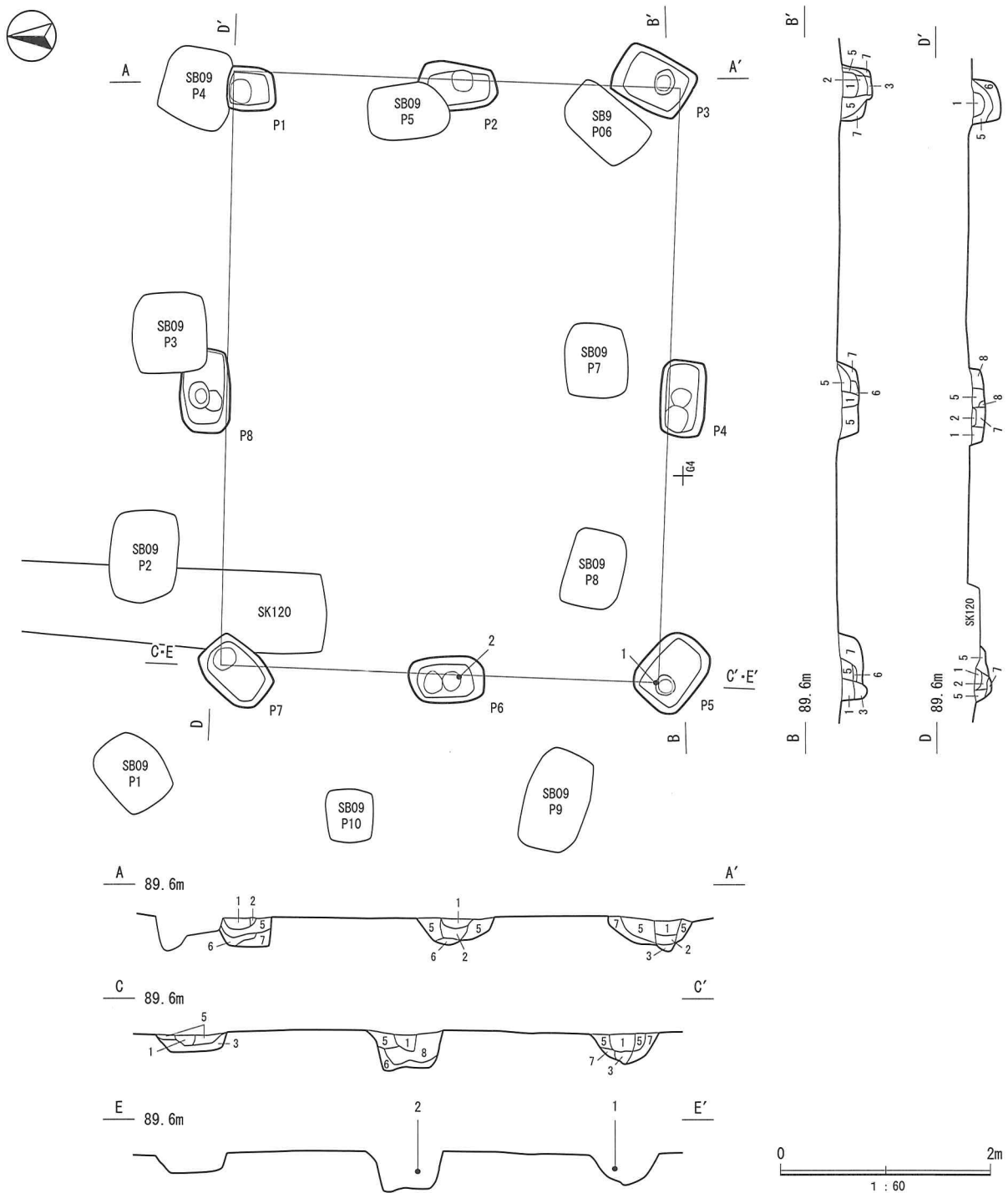
重複関係 第 120 号土坑、第 9 号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向 N - 85° - W の東西棟である。規模は桁行 5.5m、梁行 4.1m で、面積は 22.55㎡である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から 2.5m (8 尺)、3.0m (9 尺)、南平が西妻から 2.7m (8 尺)、2.9m (9 尺) で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、東妻が 2.1m (7 尺)、2.0m (6 尺)、西妻が 2.0m (6 尺)、2.2m (7 尺) である。1 層が柱痕部の土層で、2・3 層は底面で柱の当りを確認した。

柱穴 8 か所。掘方の平面形は方形または長方形で、長軸 50～70cm、短径 40～55cm である。深さ 10～35cm で、掘方の壁は直立または外傾している。第 3～7 層は掘方への埋土で、第 1・2 層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 5 点 [坏 2 点 (15g)、甕 3 点 (8g)]、須恵器坏片 2 点 (8g) が出土している。1 の土師器坏は P 6 内、2 の須恵器坏は P 5 内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀前葉と考えられる。



SB10 ピット土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子微量 炭化物微量・粒子多量/粘性あり 縮まりなし | 5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まり強い |
| 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 縮まりあり | 6 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 縮まりあり |
| 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり | 7 7.5YR3/4 暗褐 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まり強い |
| 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック多量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり | 8 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック多量 炭化粒子少量/粘性あり 縮まりあり |



第 77 図 第 10 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 28 表 第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甗	—	(4.2)	—	石英	橙	普通	体部体部外面へラ削り 内面ナデ	P5 覆土中層	5% 図版 25
2	須恵器	坏	[11.9]	(1.7)	—	細砂	灰黄褐	普通	口縁部ロクロナデ 外面へラ削り	P6 覆土中層	5% 図版 26

第 29 表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	時代	備考 重複関係 旧→新		
						桁間 (m)	梁間 (m)	構造	柱穴 数				平面形	深さ (cm)
3	D3～D4	N-85°-W	(2×1)	(5.2×2.2)	(11.44)	2.5～ 2.7	2.2	側柱	4	方形・ 長方形	20～40	土師器・ 須恵器	8C 前葉	本跡→SK34
9	F3～F4	N-85°-W	3×2	6.7×4.4	29.48	1.8～ 2.4	2.0～ 2.4	側柱	10	方形・ 長方形	15～40	土師器	8C 前葉	SB10→本跡 →SK120、SA01
10	F3～F4	N-85°-W	2×2	5.5×4.1	22.55	2.5～ 3.0	2.0～ 2.2	側柱	8	方形・ 長方形	10～35	土師器・ 須恵器	8C 前葉	本跡→SB09・ SK120

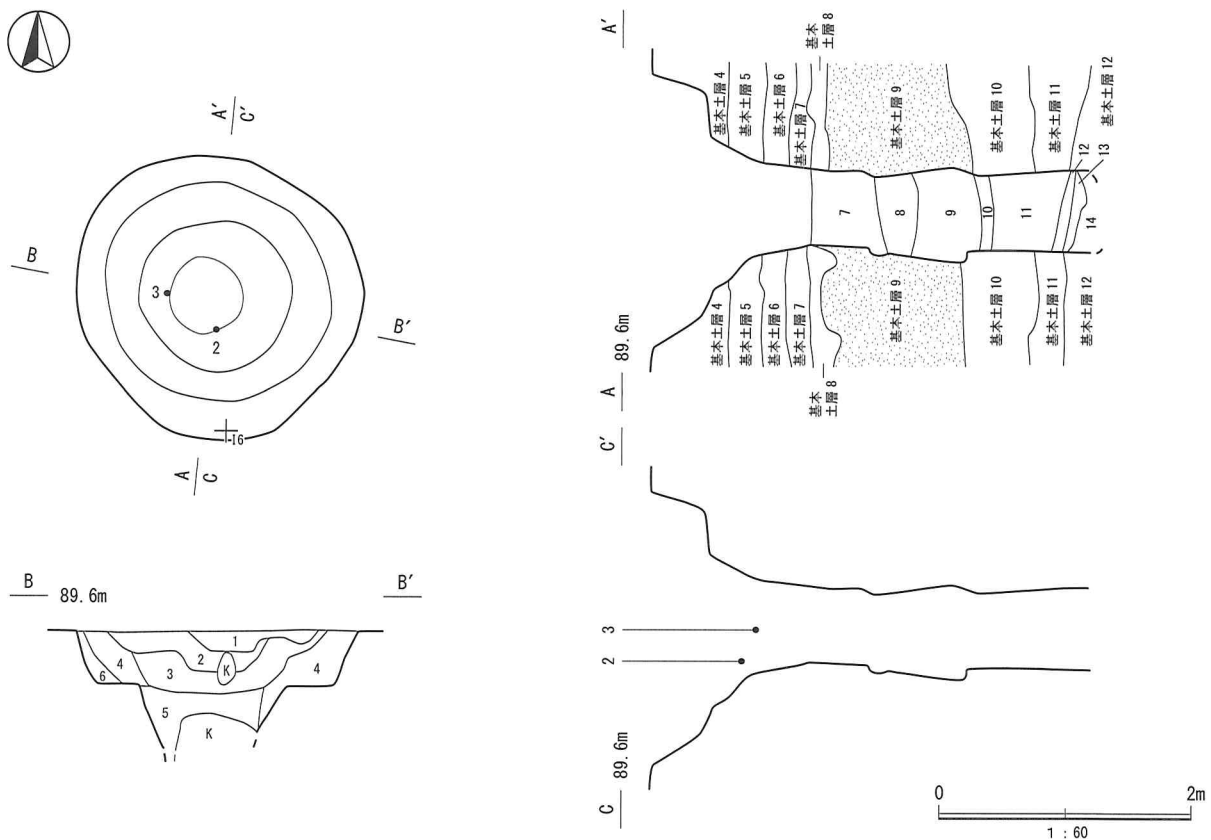
(3) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (SE01) (第 78・79 図、第 30・32 表、図版 8・9・26)

位置 調査区南西部。H 5～H 6 グリッド、標高 89 m の平坦部に位置している。

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 規模は長径 2.20 m、短径 2.16 m で、円形を呈している。主軸方向は N-45°-W である。中場は径 0.60 m の円形である。形状はロート状であるが、安全のため深さ 1 m まで人力で掘り下げ、調査終了



第 78 図 第 1 号井戸跡実測図

後に重機により下方まで断ち割った。

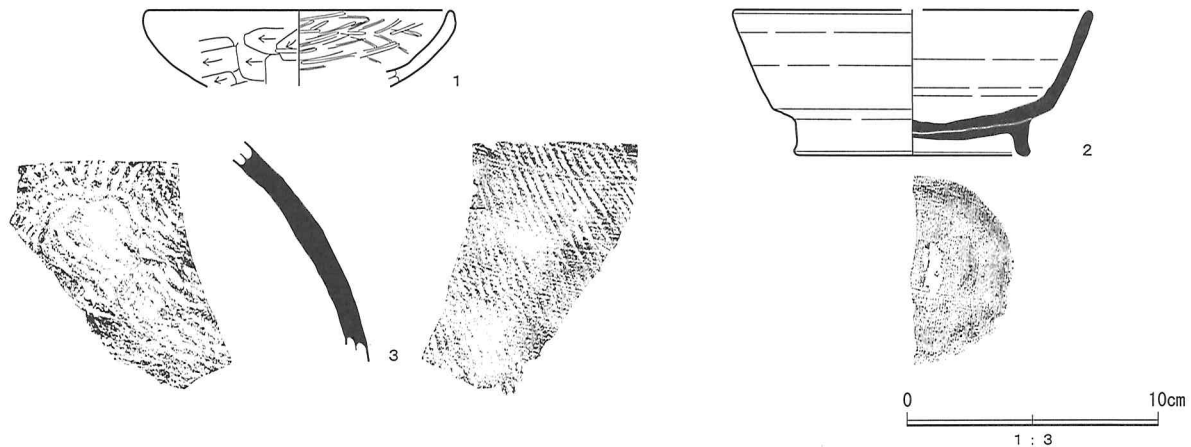
覆土 堆積状況からみて人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片3点[坏2点(10g)、甗1点(5g)]、須恵器片8点[坏5点(27g)、高台付坏1点(99g)、甗2点(105g)]。2の須恵器高台付坏、3の須恵器甗は中央部の覆土上層、1の土師器坏は覆土中から出土している。

所見 出土遺物から埋め戻された時期は、8世紀後半と考えられる。

SEO1 土層解説

- | | | | | | |
|---------|----------|-------|----------------|-----------------------|-------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 炭化物微量・粒子多量/粘性あり | 縮まりあり |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 炭化物微量・粒子中量/粘性あり | 縮まりあり |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 炭化物微量・粒子中量 砂粒中量/粘性あり | 縮まりあり |
| 4 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粒子中量 | 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性あり | 縮まりなし |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 今市パミス少量 七本桜パミス少量/粘性なし | 縮まりなし |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色 | ロームブロック・粒子多量 | /粘性あり | 縮まりあり |
| 7 | 7.5YR2/1 | 黒色 | ロームブロック・粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 8 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | ロームブロック・粒子少量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 9 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 10 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック微量・粒子少量 | 黒色土粒子多量 鹿沼パミス少量/粘性あり | 縮まりなし |
| 11 | 7.5YR2/1 | 黒色 | ローム粒子微量 | 黒色土粒子多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 12 | 7.5YR5/4 | にぶい橙色 | 黒色土粒子少量 | 鹿沼パミス多量/粘性あり | 縮まりなし |
| 13 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子少量 | 黒色土粒子多量 鹿沼パミス少量/粘性あり | 縮まりなし |
| 14 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 黒色土粒子中量 | 鹿沼パミス少量 礫中量 砂中量/粘性あり | 縮まりなし |
| 基本土層 11 | 7.5YR5/3 | にぶい橙色 | 暗褐色土粒子多量 | 礫少量/粘性あり | 縮まりあり |
| 基本土層 12 | 7.5YR5/1 | 褐灰色 | 暗褐色土粒子少量 | 礫多量 砂多量/粘性なし | 縮まりなし |



第79図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第30表 第1号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.0]	(3.0)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 外面横位のヘラ削り 体部内面横位のヘラ磨き	覆土中	5% 図版26
2	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.7	9.0	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部横ナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	中央部 覆土上層	40% 図版26 益子窯
3	須恵器	甗	—	(8.7)	—	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部外面横位のカキ目後斜位の平行叩き 内面同心円の当具痕	中央部 覆土上層	5% 図版26 宇都宮窯

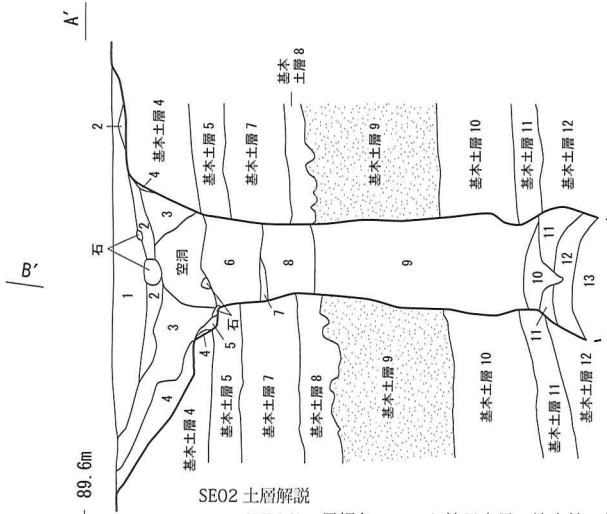
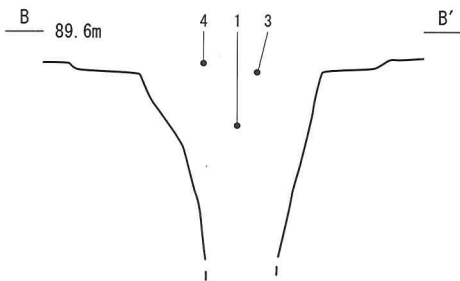
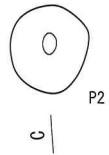
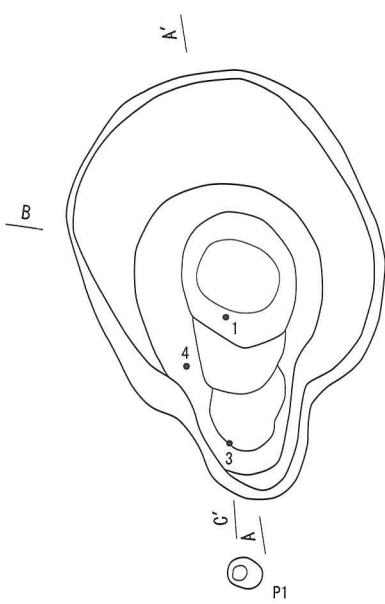
第2号井戸跡 (SEO2) (第80・81図、第31・32表、図版9・26)

位置 調査区北西部。D 5グリッド、標高89mの平坦部に位置している。

確認状況 ローム層上面で確認した。



1E5a1

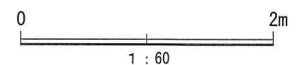


SE02 土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量 今市パミス微量 七本桜パミス少量 礫少量/粘性あり 縮まりあり
- 2 10YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 黒色土粒子中量 七本桜パミス少量 礫少量/粘性あり 縮まりあり
- 3 10YR3/1 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 黒色土粒子多量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり
- 4 10YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 5 10YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 縮まりあり
- 6 10YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 黒色土粒子多量 礫少量/粘性あり 縮まりなし
- 7 10YR3/4 暗黒色 ローム粒子中量 黒色土粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- 8 10YR3/3 黒褐色 ローム粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 9 7.5YR2/1 黒色 ロームブロック・粒子微量 黒色土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 10 7.5YR4/2 褐灰色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量/粘性あり 縮まりなし
- 11 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 黒色土粒子中量/粘性あり 縮まりなし
- 12 7.5YR2/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 縮まりなし
- 13 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量 粘土粒子中量 砂少量/粘性あり 縮まりなし
- 基本土層 11 7.5YR5/3 にぶい橙色 暗褐色土粒子多量 礫少量/粘性あり 縮まりあり
- 基本土層 12 7.5YR5/1 褐灰色 暗褐色土粒子少量 礫多量 砂多量/粘性なし 縮まりなし

SE02 ピット土層解説

- P1
- 1 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子微量 炭化粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 2 10YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子少量/粘性なし 縮まりあり
- 3 10YR4/6 褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性なし 縮まりなし
- P2
- 1 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子微量/粘性あり 縮まりあり
- 2 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック・粒子中量 七本桜パミス微量/粘性なし 縮まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 七本桜パミス微量/粘性なし 縮まりなし
- 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 七本桜パミス微量/粘性あり 縮まりあり



第 80 図 第 2 号井戸跡実測図

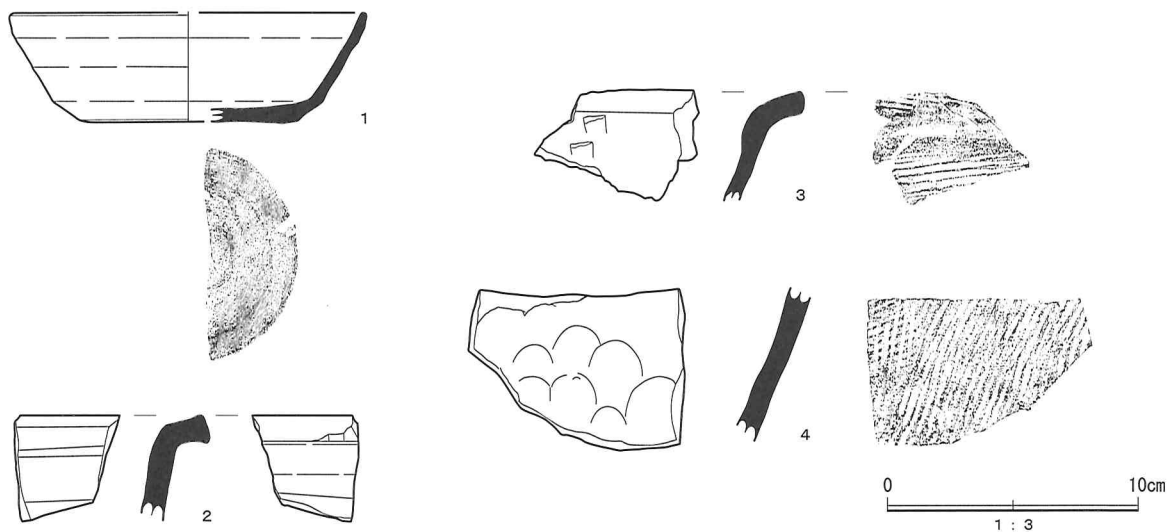
規模と形状 規模は長径 3.50 m、短径 2.20mで楕円形を呈している。主軸方向は N - 10° - W である。中場は径 0.60m の円形である。形状はロート状であるが、水が浸水し安全のため深さは 1 m までしか掘り下げられず底面まで達しなかった。

覆土 確認面から 1.0m の深さまで人力で掘り下げ、調査終了後に重機により下方まで断ち割った。堆積状況からみて人為堆積と考えられる。

ピット 第 2 号井戸跡南側に 2 か所確認する。井戸跡の開口から直線上に位置することから、関連施設の可能性もある。掘方の平面形は円形で、長軸 40 ~ 50cm、短軸 30 ~ 40cm である。深さ 20 ~ 40cm で掘方の壁は直立または外傾している。第 2 ~ 4 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況 土師器片 33 点[坏 4 点(22g)、甗 29 点(240g)]、須恵器片 16 点[坏 4 点(113g)、鉢 2 点(58g)、甗 11 点 (709g)]、石 2 点 (6,214g)。1 の須恵器坏、4 の須恵器甗は中央部の覆土上層、3 の須恵器鉢は南部の覆土上層、2 の須恵器鉢は覆土中から出土している。

所見 出土遺物から埋め戻された時期は、8 世紀中葉と考えられる。



第 81 図 第 2 号井戸跡出土遺物実測図

第 31 表 第 2 号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.8]	(4.3)	[8.6]	長石・スコリア	黄灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	中央部 覆土上層	30% 図版 26 宇都宮窯
2	須恵器	鉢	—	(4.1)	—	長石・石英	灰白	不良	口縁部ロクロナデ 内面横位のヘラナデ	覆土中	5% 図版 26 三森山麓窯
3	須恵器	鉢	—	(4.4)	—	長石・石英・雲母	灰	良好	口縁部ロクロナデ 口縁部外面斜位の平行叩き 後横ナデ 内面横位のヘラナデ	南部 覆土上層	5% 図版 26 新治窯
4	須恵器	甗	—	(6.2)	—	長石・石英・チャート	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面無文の当具痕	中央部 覆土上層	5% 図版 26 益子窯

第 32 表 井戸跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		中場 平面形	中場規模 長径×短径 (m)	断面形	覆土	出土遺物	備考 重複関係
				長径×短径 (m)	深さ (m)						
1	H5 ~ H6	N - 45° - W	円形	2.20 × 2.16	(3.60)	円形	0.60 × 0.60	上部—ロート状 下部—円筒形	人為	土師器・ 須恵器	
2	D5	N - 10° - W	楕円形	3.50 × 2.20	(4.10)	円形	0.60 × 0.60	上部—ロート状 下部—円筒形	人為	土師器・ 須恵器	

(4) 土坑

第 320 号土坑 (SK320) (第 82 図、第 33 表、図版 8・26)

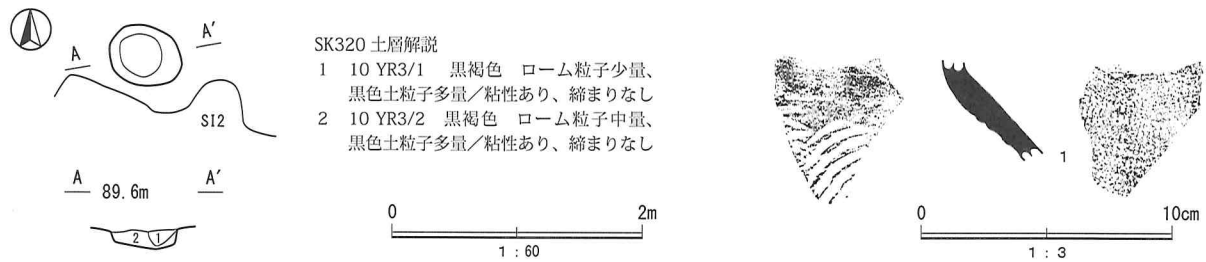
位置 調査区中央部。G 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.60m、短径 0.48m の楕円形で、長径方向は N - 60° - W である。深さ 10cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。ローム粒子が若干含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 須恵器甕 2 点 [坏 1 点 (2g)、甕 1 点 (35g)]。1 の須恵器甕は覆土中から出土している。第 2 号竪穴建物跡から流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。



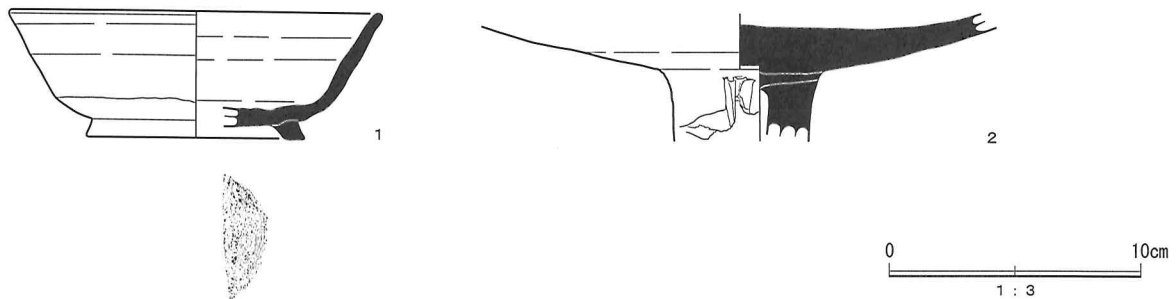
第 82 図 第 320 号土坑・出土遺物実測図

第 33 表 第 320 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(4.4)	—	長石・石英	灰白	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面同心円の当具痕	覆土中	5% 図版 26 益子窯

(6) 奈良・平安時代遺構外出土遺物 (第 83 図、第 34 表、図版 26)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、出土遺物実測図(第 83 図)と出土遺物一覧(第 34 表)を記載する。



第 83 図 遺構外出土遺物実測図

第 34 表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	高台付 坏	[14.6]	5.0	[8.6]	長石	黄灰	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り	表採	30% 図版 26 益子窯
2	須恵器	高盤	—	(5.0)	—	長石・石英・細砂	黄灰	普通	ロクロナデ 外面回転ヘラ削り 脚部透かし 4 か所	表採	15% 図版 26 堀之内窯カ